

HP Asset Manager

ソフトウェアバージョン : 9.30

契約

ドキュメントリリース日 : 2011年 3月 31日
ソフトウェアリリース日 : 2011年 3月



ご注意

著作権について

(c) Copyright 1994-2011 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

権利の権限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。

これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。

商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。

ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。

ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

サードパーティまたはオープンソースのライセンス契約の詳細を確認する場合、またはオープンソースコードを表示する場合は、次のいずれかのパスを使用してください。

- ソフトウェアのインストールCD-ROMの「ThirdParty」ディレクトリ
- ソフトウェアのインストール後にサードパーティまたはオープンソースツールのバイナリファイルが格納されるディレクトリ
- 『Open Source and Third-Party Software License Agreements』ガイドに記載されているコンポーネントのURL

商標について

- Adobe®、Adobe logo®、Acrobat®およびAcrobat Logo®は、Adobe Systems Incorporatedの商標です。
- Corel®およびCorel logo®は、Corel Corporation or Corel Corporation Limitedの商標または登録商標です。
- Java®は、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。
- Microsoft®、Windows®、Windows NT®、Windows® XP、Windows Mobile®およびWindows Vista®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。
- Oracle®はOracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。
- UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

謝辞

本製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/> [<http://www.apache.org/>]) により開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright © The Apache Software Foundation.All rights reserved.

本製品には、OpenLDAP Foundationにより開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright ©, The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA.All Rights Reserved.OpenLDAP®は、OpenLDAP Foundationの登録商標です。

本製品には、OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>) での使用を目的にOpenSSL Projectにより開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright © The OpenSSL Project.All rights reserved.

本製品には、OpenSymphony Group (<http://www.opensymphony.com/>) により開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright © The OpenSymphony Group.All rights reserved.

本製品には、RSA Data Securityからライセンス供与されたコードが含まれています。

本製品には、JDOM Project (<http://www.jdom.org/>) により開発されたソフトウェアが含まれています。Copyright © Jason Hunter & Brett McLaughlin.All rights reserved.

目次

概要	11
契約モジュールの対象ユーザ	11
契約モジュールの使用目的	12
このガイドの使用方法	12
I. 使用前の準備	15
1. 使用前の準備	17
II. 使用	21
2. 一般概念	23
リース契約	23
メンテナンス契約	27
保険契約	27
ソフトウェアライセンス	27
一括発注契約	28
アプリケーションサービス契約	28
サービスレベルアグリーメント	29
3. 手順1 - 契約を作成する	35

契約を作成する	35
契約の階層構造	38
契約のタイプ	38
契約条件	40
契約に関連付けられたドキュメント	43
契約の作成時にデフォルト賃貸料を自動追加する	48
契約とサプライヤのパフォーマンスを評価する	49

4. 手順2 - 契約に資産を追加する 55

契約に資産をリンクする	55
契約上の資産のリストを確認する	59
資産に関連付けられた契約のリストを確認する	59
資産と契約との間のリンクを削除する	60

5. 手順3 - 賃貸料を定義する 63

基本概念	63
契約のレベルで賃貸料を追加する	64
資産のレベルで賃貸料を追加する	65
賃貸料の支払スケジュール	66
賃貸料の配賦方法	68
賃貸料を配賦する	79

6. 手順4 - ローンを定義する 81

基本概念	81
契約ごとにローンを追加する	81
資産ごとにローンを追加する	83
ローン返済明細	83
ローンの配賦方法	85
ローンの配賦	94

7. 手順5 - 資産を検収する 95

基本概念	95
資産の検収	95

8. 手順6 - 経費明細を生成する 103

基本概念	103
定期的な賃貸料およびローン支払の経費明細の生成	104
初回金または初回賃貸料の経費明細の生成	105
賃貸料にリンクする経費	106
ローンにリンクする経費	108

9. 手順7 - 損失額を定義する	111
基本概念	111
損失額の計算規則を定義する	112
損失額を計算する	113
損失額を更新する	115
10. 手順8 - 終了日の管理	117
契約上の資産を更新する	117
資産の返却	119
資産を買い取る	121
その他の場合	123
11. ASP契約の日常管理	125
前提条件	125
ASP管理Webページに接続する	126
ASP Webサイトに接続する	127
テクニカルサポートに電子メールを送信	127
ユーザアカウントを管理する	128
12. サービスレベルの管理	135
一般概念	135
初期実装	136
参照項目を作成する	136
サービスレベル管理	137
ダウンタイムと違約金の計算方法を理解する	140
独自のダウンタイムおよび違約金経費付替え規則の作成	142
III. 実用例	143
13. 実用例	145
メンテナンス契約を管理する	146
保険契約を管理する	151
ASP契約を管理する	151
サービスレベルの管理	159
アラームを作成する	166
IV. 付録	173
14. 用語解説	175

検収	175
サービスレベルアグリーメント (SLA)	175
料率	176
一括発注	176
契約	176
サービスレベル目標明細契約 (SLO)	177
マスターリース	177
リース明細	178
ローン	178
支払期日	178
期間満了	178
サービスレベル管理 (SLM)	179
配賦	179
利子	180
リース	180
サービスレベル目標明細	180
賃貸料	181
初回賃貸料	181
主賃貸料	181
賃貸額	182
通知	182
支払回数	182
貸付業者	183
比例配分	183
アプリケーションサービス	184
ローン返済明細	184
損失額	184
比例配分値	185
賃貸料の値	185
買い取り額	186
市場価格	186
初回金	186

索引	187
----	-----

図の一覧表

2.1. 契約 - データモデル	24
2.2. リース - 手続きの手順	25
2.3. サービスレベル管理 - 基本概念	30
2.4. サービスレベル管理 - 例	31
2.5. サービスレベル - 関連テーブル	34
11.1. ユーザアカウントの管理ワークフロー - 図	129

表の一覧表

1.1. 契約モジュール - 必要なユーザライセンス	17
3.1. 契約にアクセスするナビゲーションバーのリンク	35
3.2. amContract テーブルの [ベンダのパフォーマンス] タブのフィールド	50
4.1. 資産と契約をリンクする	56
5.1. 賃貸料 - 賃貸料の支払スケジュールを指定するフィールド	66
5.2. [回数] フィールド - 概要	67
5.3. 賃貸料 - 契約賃貸料の計算に使用されるフィールド	71
5.4. 賃貸料 - 資産の賃貸料の計算に使用されるフィールド	72
5.5. 賃貸料 - 契約賃貸料の計算に使用されるフィールド	78
5.6. 賃貸料 - 契約賃貸料の計算に使用されるフィールド	79
6.1. ローン - ローン返済スケジュールを記述するために使われるフィールド	84
6.2. ローン (支払を配賦) - 経費明細の計算に使用されるフィールド	89
6.3. ローン (資産に支払を配分または配賦しない) - 経費明細の計算に使用されるフィールド	94
7.1. [資産の検収] ウィザード [検収日と初回賃貸料計算の基準を定義]	96
ページ	

概要

契約モジュールの対象ユーザ

契約モジュールは、以下の契約の管理に最適です。

- 保険
- リース
- メンテナンス
- ライセンス契約
- アプリケーションサービス
- サービスレベルアグリーメント
- 一括発注

契約モジュールのユーザ：

- 財務管理者
- 購買管理者
- 購入者
- ポートフォリオの管理者
- 法律顧問
- 資産トラッキングの管理者
- サービスレベルアグリーメントの担当者

契約モジュールの使用目的

契約モジュールは、次の契約内容の記述と管理に使用します。

- 契約条件
- 利害関係者
- 賃貸料、ローンと税金
- 経費
- 契約に関連する資産と従業員
- 貸主と借主間の事務手続き
- リース契約の終了
- レポート
- サービスレベル目標

契約モジュールのリース部分は、所有資産の総管理費用（TCO - Total Cost of Ownership）の管理に有用です。リース契約を適切なソフトウェアで管理することで、IT資産管理のコスト削減を図ることができます。

このガイドの使用方法

「使用」のセクション

「一般概念」の章

この章では、契約モジュールの基本的な機能の使用方法について説明します。Asset Managerで処理できるさまざまなタイプの契約についても説明します。契約モジュール機能の概要について学ぶことができます。

「手順1 - 契約を作成する」の章

この章では、契約管理の最初の手順と、Asset Manager データベースで契約を作成する方法について詳しく説明します。契約モジュールで日常の契約管理を行う際の手引きとしてお読みください。

「手順2 - 契約に資産を追加する」の章

この章では、契約管理の2番目の手順と、契約と資産をリンクする方法について詳しく説明します。作成した契約に資産を追加または削除する方法、契約上の資産リストを参照する方法について学ぶことができます。

「手順3 - 賃貸料を定義する」の章

この章では、契約管理の3番目の手順と契約および資産賃貸料に関する問題について説明します。

契約への賃貸料の追加、賃貸料の支払明細の定義、賃貸料の比例配分方式の選択方法について学ぶことができます。

「手順4 - ローンを定義する」の章

この章では、契約管理の4番目の手順と契約および資産ローンに関する問題について説明します。

契約へのローンの追加、ローン返済明細の定義、ローンのコスト分担方式の選択方法について学ぶことができます。

「手順5 - 資産を検収する」の章

この章では、契約管理の5番目の手順である資産の検収について説明します。

資産の検収方法と初回賃貸料の計算方法について学ぶことができます。

「手順6 - 経費明細を生成する」の章

この章では、契約管理の6番目の手順と経費明細に関する問題について説明します。

賃貸料とローン支払額から経費明細を生成または再計算する方法について学ぶことができます。

「手順7 - 損失額を定義する」の章

この章では、契約管理の7番目の手順である損失額の定義について説明します。

資産の喪失または破損の管理方法について学ぶことができます。

「手順8 - 終了日の管理」の章

この章では、契約管理の8番目の手順と期間満了手続きの詳細について説明します。

契約の任期満了時に選択できるオプションについて学ぶことができます。

「ASP契約の日常管理」の章

この章では、アプリケーションサービス契約について説明します。

アプリケーションサービス契約の特徴、およびAsset Managerを使って契約を管理する方法について学ぶことができます。

「サービスレベルの管理」の章

この章では、サービスレベルアグリーメントについて説明します。

サービスレベルアグリーメントの特徴、およびAsset Managerを使って契約を管理する方法について学ぶことができます。

「実用例」の部

「実用例」の章

この章では、いくつかの実用例を用いて、Asset Managerでの契約管理について説明します。

契約管理シミュレーションとAsset Managerでのアラーム作成方法について学ぶことができます。

「付録」のセクション

「用語解説」の章

契約モジュールでは、専門的な用語が使用されています。契約モジュールの主要用語は、用語解説にまとめられています。

用語の理解にはこの用語解説を通読してください。

I 使用前の準備

1 使用前の準備

ライセンス契約

契約モジュールを使用するには、Asset Managerのユーザライセンスで、次のモジュールへのアクセス権を取得する必要があります。

表 1.1. 契約モジュール - 必要なユーザライセンス

必要な機能	ライセンス範囲内で購入するモジュール
契約管理	契約
ポートフォリオ管理	ポートフォリオ
コスト管理	ファイナンス
調達管理（オプション）	購入

契約モジュールを使って本番データベースで作業する

本番データベースを使用するには、次を実行してください。

- 1 Asset Managerをインストールします。
- 2 Asset Manager Application Designerを実行します。
- 3 データベースを作成し、契約に特有の**専門分野データ**をインポートします。
- 4 テーブル**契約モジュール-必要なユーザライセンス** [P. 17]で示されるモジュールの認証を含む**HP AutoPass**ライセンスキーセットを使用してデータベースを有効化します。
 - ▶ Asset Manager『管理』ガイドの「**ライセンスキーをインストールする**」の章

- 5 Windowsクライアントを使用している場合：
 - 1 Asset Managerを実行します。
 - 2 作成したデータベースに接続します。
 - 3 [ファイル/モジュールの管理...] メニューで、表契約モジュール - 必要なユーザライセンス [P. 17]のモジュールを起動します。
モジュールの起動方法の詳細については、『Tailoring』ガイドの「Customizing client computers」、「Customizing a client workstation」の章、「Activating the modules」のセクションを参照してください。

データベースの作成時に専門分野データをインポートする

『管理』ガイドの「Asset Managerデータベースの作成、変更、削除」、「Asset Manager Application Designerを使ってデータベース構造を作成する」の章に記述されている手順に従います。

[インポートするデータ] ページで、次のオプションを選択します。

- 契約 - 専門分野データ
- 契約 - 専門分野データ (ASP)
- ファイナンス - 専門分野データ (TCO-予算-経費付替え)

専門分野データを既存のデータベースにインポートする

次の操作を行います。

- 1 Asset Manager Application Designerを実行します。
- 2 [ファイル/開く] メニューを選択します。
- 3 [データベース記述ファイルを開く (新規データベースの作成)] オプションを選択します。
- 4 Asset Managerインストールフォルダのconfigサブフォルダにある、gbbase.xml ファイルを選択します。
- 5 データベース作成ウィザードを開始します ([アクション/データベースの作成] メニュー)。
- 6 ウィザードのページに次のように入力します (ウィザードページ間の移動は [次へ] ボタン、[戻る] ボタンを使用します)。

[SQLスクリプトの生成/データベースの作成] ページ：

フィールド	値
データベース	専門分野データのインポート先にするデータベースへの接続を選択します。
作成	専門分野データをインポートします。
高度な作成オプションを使用	このオプションは選択しません。

[作成パラメータ] ページ：

フィールド	値
パスワード	管理者のパスワードを入力します。
	注意: Asset Managerデータベース管理者は、[部署名/姓] (Name) フィールドが「Admin」に設定されている[部署と従業員] (amEmplDept) テーブルのレコードです。 データベース接続ログインは[ユーザ名] (UserLogin) フィールドに保存されます。管理者名は「Admin」です。 パスワードは[パスワード] (LoginPassword) フィールドに保存されます。

[インポートするデータ] ページ :

フィールド	値
使用可能データ	次のオプションを選択します。 ■ 契約 - 専門分野データ ■ 契約 - 専門分野データ (ASP) ■ ビジネスサービス管理 - 専門分野データ ■ ファイナンス - 専門分野データ (TCO-予算-経費付替え)
エラー発生時にインポートを中止	問題が発生した場合にインポートを中止するには、このオプションを選択します。
ログファイル	エラーや警告などすべてのインポート操作を記録するファイルの完全名。

7 ウィザードで定義したオプションを実行します（[完了] ボタン）。

Asset Managerのインストールの詳細については

『インストールとアップグレード』ガイドを参照してください。

II 使用

2 一般概念

この章では、**契約** モジュールの一般的な概要について説明します。

Asset Managerでは、取引先との間で締結された契約（メンテナンス契約、保険契約など）や社内の別の部署との間で締結された契約（サービスレベルアグリーメント）を管理できます。

契約は階層構造になっており、すべての契約が1つのテーブルで管理されます。各契約には主契約と付属契約があります。

契約の詳細画面に表示される一連のタブとその内容は、作成する契約の【**タイプ**】（seType）および【**支払属性**】（sePayType）フィールドによって異なります。

リース契約

基本概念

リース契約では、貸主がある一定の期間、資産を賃貸料をとって貸します。借主には、資産を保有し使用する権利が与えられます。

リース契約の借主は、借りた物件を実際に所有せずに、自由に使用することができます。また、借主は、その物件の法的所有者、またはその資産の法的所有者の代理としての貸主に一定の賃貸料を支払います。

リースでは以下の概念を使用します。

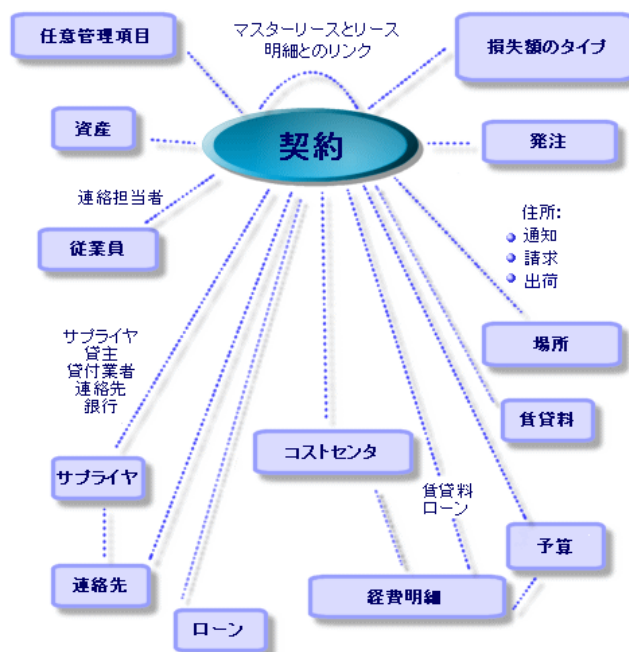
- [リース](#) [P. 180]

- マスターリース [P. 177]
- リース明細 [P. 178]
- 賃貸料 [P. 181]
- 検収 [P. 175]
- 損失額 [P. 184]
- ローン [P. 178]
- 期間満了 [P. 178]
- 貸付業者 [P. 183]

これらの概念の定義については、このガイドの用語解説 [P. 175]を参照してください。

データの簡略モデル

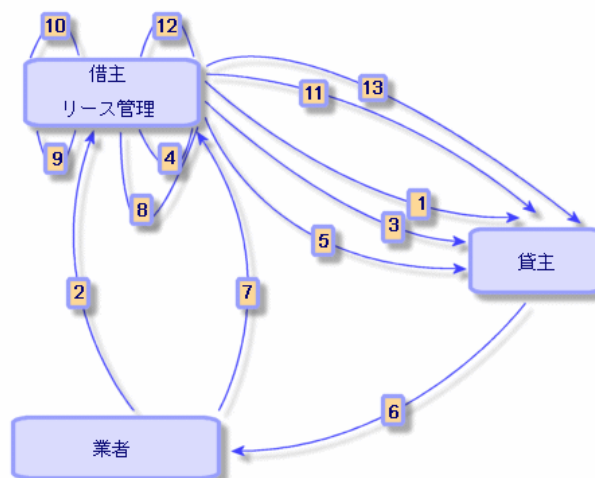
図 2.1. 契約 - データモデル



一般的な手順

リース手続きの一般的な手順を次の図で示します。

図 2.2. リース - 手続きの手順



- 1 マスターリースを作成します。マスターリースには、一般的な契約条件を入力します。リース明細のテンプレートとして使います。
- 2 **Asset Manager**を使って、リース対象の資産の見積を作成します。これにより、賃貸額の評価を開始できます。
- 3 リース明細を作成するには、リース明細はマスターリースにリンクできます。必ずしもリンクさせる必要はありません。
- 4 **Asset Manager**を使って、リース対象の資産の発注を作成します。
- 5 発注書を発行します（借主から貸主へ）。
- 6 貸主が業者に発注します。
- 7 業者から貸主にリース物件が納品されます。
- 8 **Asset Manager**を使って、発注に関連する資産の受領伝票を作成します。これにより、資産がリース明細に割り当てられます。
- 9 **Asset Manager**を使わずに調達を管理する場合は、資産を手動でリース明細に追加する必要があります。
- 10 賃貸料の詳細情報を入力します。
- 11 資産を検収します。検収書を送付します（借主から貸主へ）。

- 12 契約上の資産のライフサイクル管理（資産の追加、返却、更新、買い取り）を行ないます。資産の紛失や破損を管理します。
- 13 期間満了の管理（契約の更新またはアップグレード、資産の返却または買い取り）を行います。

処理をトラッキングする

契約の詳細画面の【サイクル】タブページでは、資産のライフサイクルをトラッキングできます。このタブページには、リース契約の管理で資産に対して実行した処理の一覧が表示されます。

- 1 契約下に置く
- 2 検収
- 3 更新
- 4 買い取り
- 5 返却



注意:

このタブページは、情報の提供のみを目的としています。このタブページから契約下にある資産に関する処理を行うことはできません。

処理を行った資産や返品伝票のリストを展開するには、🔍をクリックします。ダブルクリックすると、資産と返品伝票の詳細画面にアクセスできます。



注意:

返却処理に表示される日付は、返却予定日です。

リースモジュールの現在のバージョンまたは旧バージョンを使用する

Asset Managerでは、デフォルトでリースモジュールの最新バージョンが有効になっています。このバージョンでは、WebクライアントとWindowsクライアントの両方から同じコンポーネントにアクセスできます。最新バージョンでは、モジュールの特定の機能（資産の検収、更新、買い取りなど）にアクセスするときにウィンドウの代わりにウィザードを使用します。

リース管理の旧モードを有効にするには：

- 1 Asset Manager Windowsクライアントを起動します。
- 2 リース管理の旧モードを使う必要があるデータベースに接続します（【ファイル／データベースに接続...】メニュー）。
- 3 【管理／データベースオプション】メニューからデータベースオプションを表示します。

- 4 「リース／リースモジュールの旧バージョンを使用」オプションを選択します。
- 5 このオプションに値「はい」を割り当てます（「現在の値」列）。
- 6 確定します（「OK」ボタン）。
- 7 このオプションの新しい値が適用されるようにデータベースに再接続します。
Windowsクライアント：「ファイル／データベースに接続...」メニューを選択します。
Webクライアント：「ログアウト」リンクをクリックし、再接続します。

メンテナンス契約

Asset Managerでは、メンテナンス契約の使用条件を定義したり、関連する作業指示を管理することができます。

Asset Managerによる作業指示の管理の詳細については、『ポートフォリオ』ガイドの「作業指示」の章を参照してください。

保険契約

Asset Manager 契約モジュールでは、保険契約の契約条件を定義することができます。

これ以外は、Asset Managerで保険契約を管理する手順とリース契約の管理手順は同じです。

保険契約の作成とトラッキングの詳細については、リース契約の概要を参照してください。 [リース契約 \[P. 23\]](#).

ソフトウェアライセンス

Asset Managerでは、ライセンスの使用条件を定義することができます。

Asset Managerによるソフトウェアライセンスの管理とインストールの詳細については、『**Software assets**』ガイドを参照してください。

一括発注契約

一括発注タイプの契約は、顧客が指定期間内の最低発注約定によってサプライヤに関連付けられているために、Asset Managerの調達モジュールと密接に関連付けられます。

一括発注タイプの契約の作成と管理の詳細については、『調達』ガイドの「発注」の章、「一括発注」を参照してください。

アプリケーションサービス契約

基本概念

アプリケーションサービスとは、アプリケーションサービスプロバイダ（ASP）と呼ばれるサードパーティによりホスティングされるソフトウェアアプリケーションを指します。このアプリケーションは通常、特定の業務分野（銀行口座の管理、顧客口座など）に関係していて、定期購入タイプの契約の対象になります。

アプリケーションサービスを使うと、アプリケーションのメンテナンスやアップグレードの必要がなくなります。

Asset Managerは、企業が使用するアプリケーションサービスに関するデータの保存とトラッキングができます。ユーザは、ASP契約データにアクセスし（アクションとワークフローによる）、自動処理手続きを作成することができます。

Asset Managerでのアプリケーションサービス契約の管理手順

Asset Managerでアプリケーションサービス契約を管理するには、次の手順を確実に実行する必要があります。

- 1 **契約を作成する**（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/ITサービスと仮想化/ASP/アプリケーションサービス]リンク）：ここでは、契約を定義するフィールドに必要な情報を入力します（契約責任者、リファレンス、アプリケーションのタイプなど）。
- 2 アプリケーションサービスの詳細画面の[従業員]タブで**契約へのアクセス権を持つ従業員を選択する契約の管理者**（およびそのログイン名）と**契約ユーザ**を選択します。
- 3 **日常の契約管理**：日常の管理の基本となるのは、アクションとワークフロー（管理、接続、電子メールの配信、ユーザの追加と削除、アカウントの変更など）です。Asset Manager Automated Process Managerでは、ワークフロースキームが実行されます。



警告:

ワークフローが正常に機能するには、実行グループ'**BST_ASP**'にワークフロー規則を適用モジュールをAsset Manager Automated Process Managerで有効にする必要があります。

- 4 契約責任者が変更を確定する（ナビゲーションバーの「**資産ライフサイクル／インフラストラクチャ管理／ワークフローのタスク**」）：この手順は自動処理ではないため、契約責任者はAsset Manager Automated Process Managerにより指示されたすべての変更を確認し、反映することができます。その後、契約に関連した情報は更新され、ワークフローによって契約ユーザに通知されます。

アプリケーションサービス契約の管理の詳細については、「**ASP契約の日常管理** [P. 125]」の章を参照してください。

サービスレベルアグリーメント

基本概念

サービスレベル管理（SLM）の目的は、IT部署でサービスのカタログを管理し、これらのサービスのパフォーマンスレベルを定義することです。

各サービスに**サービスレベルアグリーメント（SLA）**とサービスのクライアントが定義されます。

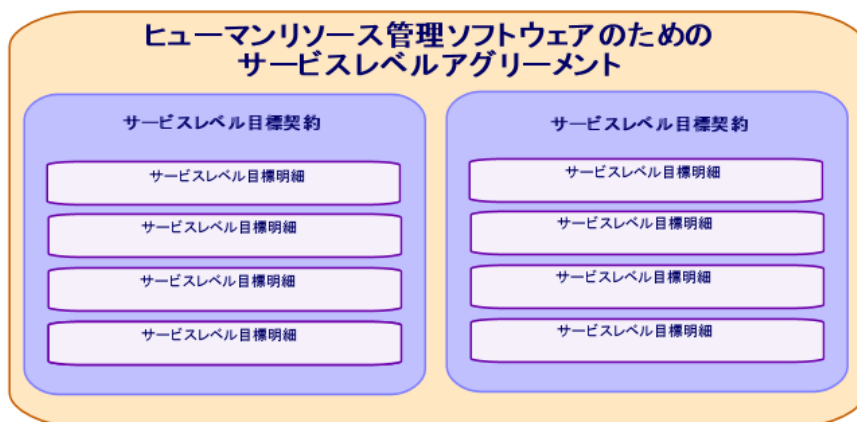
各サービスレベルアグリーメントには、1つまたは複数の**サービスレベル目標明細契約（SLO）**があります。サービスレベルアグリーメントが定義された期間区分ごとに、サービスレベル目標明細契約が1つ作成されます。

各サービスレベル目標明細契約は、**サービスレベル目標明細**から構成されます。契約の期間区分を構成する期間ごとに、1つのサービスレベル目標明細があります。

サービスレベルマネージャ（SLM）は、承認された品質インジケータをモニタし、必要に応じて是正措置をとります。

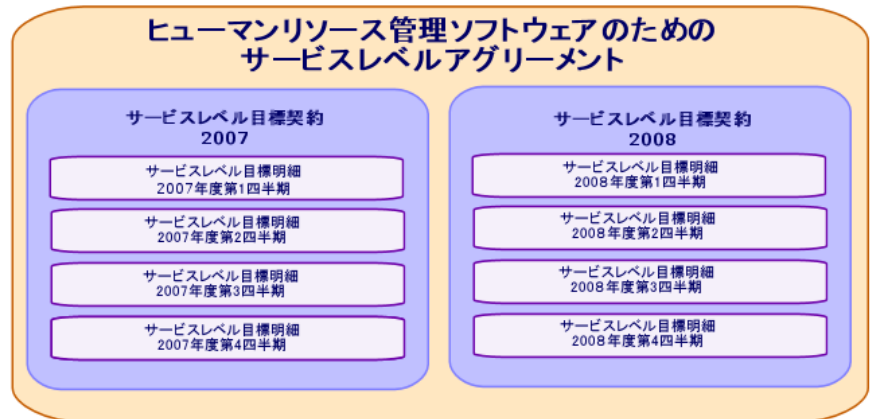
次の図は、**サービスレベルアグリーメント**、**サービスレベル目標明細契約**、および**サービスレベル目標明細**の関係を示しています。

図 2.3. サービスレベル管理 - 基本概念



次の図は、詳細な例を示しています。

図 2.4. サービスレベル管理 - 例



サービスレベルを管理する目的

企業は、サービスレベル管理（SLM）を通して中核事業をサポートするITシステムのパフォーマンスをモニタできます。

SLMにより、サービスレベルが維持されているかどうかを把握し、維持されていない場合は、原因を明確にすることが可能です。

サービスレベル目標には、IT部署の評価に使用できる目標を定義します。

サービスレベル管理の利点

- ITシステムの品質が維持、または改善されます。
- ITとビジネスサービスの関係が明らかになり、改善されます。
- ユーザは、IT関連の問題に悩まされることなく、コアビジネスに集中できます。
- IT部署は、何に注力すべきかがわかります。
- ユーザは、期待できること（可用性）がわかります。
- 問題の原因に、より多くの注意が払われます。
- 関係者間に明確な経費付替えシステムが存在します。
- 多くの場合、IT部署が提供するサービスのコストが減少します。

サービスレベル管理の内容

サービスレベル管理の内容は、次のとおりです。

- サービスレベルアグリーメントの準備、調整、文書作成、モニタ、およびレポート。
- 達成されたサービスレベルの継続評価。
- 目標が達成されない場合の違約金の付替え。

サービスレベルアグリーメントの内容

サービスレベルアグリーメントとは、IT部署（プロバイダ）とそのクライアント間で文書化される契約です。

これは、両当事者の目標と責任を定義します。

このアグリーメントの対象は、任意のサービス（およびそのすべてのユーザ）、任意のユーザグループ（およびそれらのすべてのサービス）、またはこの両方の組み合わせです。

すべての目標は、可能な限り矛盾が生じる状況を防ぐために、測定可能でなければなりません。

パフォーマンスの測定に使用する技術的な方法は、注意深く評価されなければなりません。

Asset Managerの使用目的

Asset Managerを使用して、次のことができます。

- サービスレベルアグリーメントを記述する。
- 各サービスレベルアグリーメントで、各期間区分（2011年など）のサービスレベル目標明細契約を記述する。
- 各サービスレベル目標明細契約で、期間区分（2011年の各四半期など）の対象となる各期間のパフォーマンス目標を記述する。

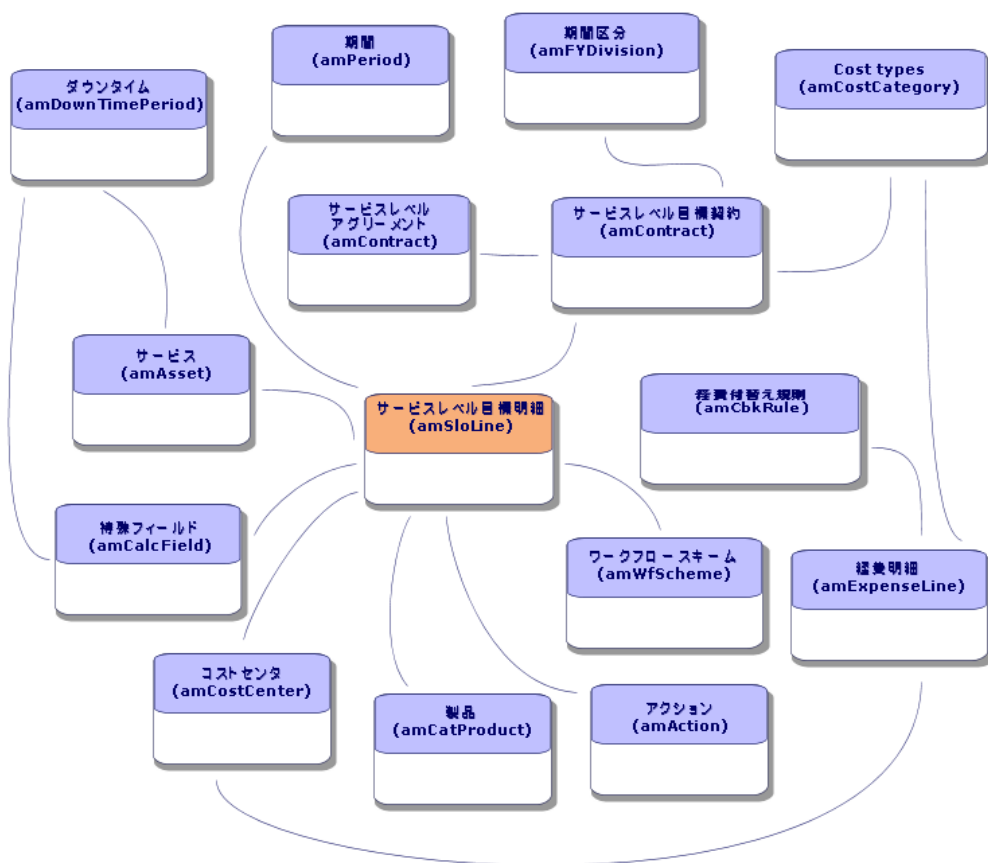
これらの目標は、サービスの可用性を評価するために使用します。

- 各サービスレベル目標明細契約にダウンタイムの違約金の計算規則を定義する。
- 可用性レベルと違約金を計算する。
- 違約金の経費付替えを行なう。

データモデル

次の図は、サービスレベル管理に使用するテーブルとテーブル間のリンクを示しています。

図 2.5. サービスレベル - 関連テーブル



3 手順1 - 契約を作成する

この章では、契約の作成方法、および以下について説明します。

- 使用可能なメニュー
- 必須入力フィールド
- この段階で入力不要なタブ
- 使用可能な契約タイプ

契約を作成する

Asset Managerには、契約の作成方法が2つあります。

- 方法1：契約のリストから行う
 - 1 次のいずれかのナビゲーションバーのリンクを使用して、契約のリストを表示します。

表 3.1. 契約にアクセスするナビゲーションバーのリンク

リンク	メニューを使用して表示する契約タイプ
資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／契約	すべてのタイプ（ASPを除く）
資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／リース ／リース明細	リース明細
資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／一括発 注タイプの契約	一括発注

リンク	メニューを使用して表示する契約タイプ
資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／リース／マスターリース	マスターリース
資産ライフサイクル／ITサービスと仮想化／アプリケーションサービス	ASP
資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／サービスレベル	サービスレベルアグリーメント

ヒント:

ナビゲーションバーの複数のリンクから、同じタイプが含まれている契約にアクセスできます。

ナビゲーションバーのリンクは、特定のタイプの契約のみを表示するため、契約をフィルタするのに便利です。

ナビゲーションバーには、**ASP**タイプの契約にアクセスするリンクは1つしかありません。[資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／契約] リンクからこのタイプの契約は表示できません。

- 2 新規契約を作成します（[新規作成] ボタン）。
- 3 契約のフィールドとリンクに、次の項目を含め必要な情報を入力します。

フィールドまたはリンク	値
タイプ (seType)	このフィールドの入力方法を調べるには ▶ 契約のタイプ [P. 38]
[全般] タブ	
親契約 (Parent)	このフィールドの入力方法を調べるには ▶ 契約の階層構造 [P. 38]
支払属性 (sePayType)	■ なし：契約は賃貸料またはローンのどちらによっても資金調達されない。 ■ 賃貸料：契約は賃貸料により資金調達される。 ▶ 手順3 - 賃貸料を定義する [P. 63] ■ ローン：契約はローンにより資金調達される。 ▶ 手順4 - ローンを定義する [P. 81] ■ 両方：契約は賃貸料とローンの両方によって資金調達される。 ▶ 手順3 - 賃貸料を定義する [P. 63] ▶ 手順4 - ローンを定義する [P. 81]
[サービスレベル] タブ	このタブは、[タイプ] フィールド (seType) が [サービスレベルアグリーメント] または [サービスレベル目標] に設定されている場合に表示されます。

フィールドまたはリンク	値
[リース] タブ	このタブは、[タイプ] (seType) フィールドが [リース] または [リース (マスターリース)] に設定されている場合に表示されます。
■ 業者指定 (bAssignable) ■ 貸付業者 ■ 条件 (AssignCond)	リース契約を割り当て可能：貸主は割り当て先により機器の資金調達ができます。このケースでは、これらのフィールドに必要な情報を入力します。
[ライセンス] タブ (ライセンス契約用)	このタブは、[タイプ] (seType) フィールドが ライセンス に設定された場合に表示されます。
[従業員] タブ	ライセンスのユーザリストを定義できます。
[オプション] タブ	[タイプ] (seType) フィールドが リース明細 に設定されているときに表示され、使用可能な期間満了オプションを決定することができます。 ▶ 手順7 - 損失額を定義する [P. 111]
■ Windowsクライアント：[契約] ボタン ■ Webクライアント：[アクション] ドロップダウンリストから [契約] を選択。	このボタンとエントリはアプリケーションサービス画面の詳細に表示されます。契約（この場合は ライセンス契約）の主なフィールドとリンクにアクセスできます。 アプリケーションサービスとライセンスをそれぞれ記述する画面は同じレコードに対応しています。 ▶ ASP契約の日常管理 [P. 125]

- 4 次のタブページには何も入力しないでください。この入力の後で行います。

タブ	参照する章またはセクション
資産	▶ 手順2 - 契約に資産を追加する [P. 55]
資産 (リース)	▶ 手順5 - 資産を検収する [P. 95]
賃貸料	▶ 手順3 - 賃貸料を定義する [P. 63]
ローン	▶ 手順4 - ローンを定義する [P. 81]



注意:

リース契約の場合、契約を作成するとデフォルト賃貸料が作成されます。
▶ 契約の作成時にデフォルト賃貸料を自動追加する [P. 48]

- 5 Windowsクライアント：[作成] ボタンをクリックします。
Webクライアント：[保存] ボタンをクリックします。
- 方法2：[契約を作成] ウィザードから



重要項目:

この方法では、[マスターリース]、[リース明細]、[保険]、および[メンテナンス] 契約のみを作成できます。

[一括発注]、[ライセンス]、[アプリケーションサービス]、および[その他] の各契約タイプを作成する場合は、前に説明した方法▶ [方法1：契約のリストから行う](#) [P. 35]を使用します。

- 1 ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/ユーザのアクション/契約を作成...] リンクをクリックします。
[契約を作成...] ウィザードが起動します。
- 2 ウィザードの各ページに入力し、[完了] をクリックして確定します。



注意:

ウィザードの最初のページでは、作成する契約タイプを選択できます。

[保険] または [メンテナンス] 契約の作成を選択をした場合、次のページに契約に資産を関連付けるオプションが表示されますが、このオプションを選択しないでください。契約に資産を追加する方法については後述します▶ [手順4 - ローンを定義する](#) [P. 81]。

契約の階層構造

親契約リンクにより、契約テーブルは階層構造を持ちます。

付属契約のリストは、親契約の[明細] サブタブにあります。

階層構造は次のような場合に便利です。

- マスターリースにリース明細を関連付ける。
- 契約に修正を関連付ける。

リース契約の場合、[マスターリース] では貸主と借主間の一般的な契約条件を指定しますが、リース対象の資産と賃貸条件は指定しません。[リース明細] は、リース契約に階層的に関連付けられた付属契約で、リース契約の特徴を継承します。

契約のタイプ

Asset Managerでは、さまざまなタイプの契約を管理できます。契約の詳細画面の上部の[タイプ] (seType) フィールドには、契約のタイプが表示されます。

このフィールドの値をリストデータから選択すると、その値に応じて契約の詳細画面に表示されるタブとその内容が決まります。

契約のタイプ	説明	ナビゲーションバーリンク	特有のタブ
リース（マスターリース）	リース契約の全般的な条件を定義します。実際にリースする資産の明細や支払条件は定義されません。	■ 資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／契約 ■ 資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／リース／マスターリース	■ リース ■ 明細
リース明細	次のことができます。 ■ リース明細（またはレンタルの同意事項）の定義 ■ 契約に含まれる資産のリストと支払条件の明記	■ 資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／契約 ■ 資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／リース／リース明細	リース
メンテナンス	次のことができます。 ■ メンテナンス契約の定義 ■ この契約に関連する作業指示の管理	資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／契約	メンテナンス
保険	保険契約（保険証券）を定義します。	資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／契約	
ライセンス	ライセンスの同意事項を定義します。	資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／契約	ライセンス契約
一括発注	【一括発注】タイプの契約では、購入者は指定された期間内に指定された最低金額分の製品を購入しなければなりません。期限までに最低金額に達しない場合は、購入者に罰則が課されます。	■ 資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／契約 ■ 資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／一括発注タイプの契約	

契約のタイプ	説明	ナビゲーションバーリンク	特有のタブ
ASP	アプリケーションサービスとは、アプリケーションサービスプロバイダ（ASP）と呼ばれるサードパーティによりホスティングされるソフトウェアアプリケーションを指します。定期購入契約はこれに使用されます。従業員は通信プロトコル（インターネット、X-25など）を介してこのアプリケーションを利用します。	資産ライフサイクル／ITサービスと仮想化／アプリケーションサービス	アプリケーションサービスの詳細画面では、一般の契約の詳細画面にない項目を補っています。 アプリケーションサービスの詳細画面から一般の画面にアクセスするには、Windowsクライアントで【契約】ボタンをクリックするか、またはWebクライアントで【アクション...】ドロップダウンリストから【契約】を選択します。
その他	上記のどのタイプにも該当しない契約を定義します。	資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／契約	
サービスレベルアグリーメント	サービスレベルアグリーメントを定義します。	資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／サービスレベル／サービスレベルアグリーメント	Service lvl.
サービスレベル目標	サービスレベル目標を定義します。	資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／サービスレベル／サービスレベル目標明細	Service lvl.

契約条件

Asset Managerを使用すれば、詳細な契約条件を入力することができます。

詳細な契約条件を入力するには、【条件】タブをクリックし、【契約条件】サブタブと【その他条件】サブタブの該当フィールドに必要な情報を入力します。

- 契約条件は、【契約条件】サブタブで追加できます。契約条件を追加する場合は、標準契約条件▶ 契約条件と契約の関連付け [P. 41]をベースに契約条件を追加できます。

各契約条件を入力するには、目標（【標準契約条件】（StandardConditions）フィールド）、内容（【説明】（Description）フィールド）、有効期間（【開始日】（dtStartDate）フィールドと【終了日】（dtEndDate）フィールド）、および出処（交渉の出処など）（【出処】（seSource）フィールド）を指定します。

また、契約の契約条件が時間とともに発展していくと、**【改訂】**（lRevision）フィールドに契約条件のすべての旧バージョンの履歴が維持されます。

- **【その他条件】** サブタブで、その他条件の説明を**【その他の契約条件】**（Terms）フィールドに入力できます。

このセクションでは、契約条件の作成および使用方法について説明します。

標準契約条件の定義

契約に関連付けることができる標準契約条件を定義するには：

- 1 **【標準契約条件】**（amStdConditions）テーブルを開きます（ナビゲーションバーの**【資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／標準契約条件】**リンク）。
- 2 新規レコードを作成します。



警告:

【説明】（Description）フィールドに説明を入力できますが、標準契約条件が契約 ▶ **契約条件と契約の関連付け** [P. 41]に関連付けられているときはその説明をインポートできません。

標準契約条件のコレクションの定義

次に、特定の標準契約条件をコレクションとしてまとめることができます。これによって、契約 ▶ **契約条件と契約の関連付け** [P. 41]との関連付けが容易になります。手順は次のとおりです。

- 1 **【標準契約条件のコレクション】**（amStdCondSets）テーブルを開きます（ナビゲーションバーの**【資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／標準契約条件のコレクション】**リンク）。
- 2 新規レコードを作成します。
- 3  ボタンをクリックして、標準契約条件を追加します。
- 4 変更を保存します。

契約条件と契約の関連付け

契約条件と契約を関連付けるには：

- 1 **【契約】**（amContract）テーブルを開きます（ナビゲーションバーの**【資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／契約】**リンク）。
- 2 契約条件を関連付ける契約を選択します。
- 3 **【条件】** タブの**【契約条件】** サブタブで、次のことができます。
 - **【コレクション】**（StdCondSet）フィールドにあるコレクションを関連付けます。

変更を保存するとき、コレクションのすべての契約条件が契約に自動的に関連付けられます。

 注意:

別のコレクションを契約に関連付けると、そのコレクションのすべての契約条件が契約に関連付けられます。新しいコレクションを追加してその変更を保存すると、先に関連付けられていた契約条件はどれも自動的に除去されます。

契約条件に関する情報を入力するには、契約条件をクリックしてその詳細を開きます。

- 契約条件に関連付けるには、 ボタンをクリックし、対象の契約条件を「標準契約条件」(StandardConditions) フィールドで選択します。

契約条件について追加情報も入力できます。

 ヒント:

「契約の契約条件」(amConditions) テーブルに追加情報を入力した場合でも、契約に関連付けるときは、標準契約条件の名前だけは考慮する必要があります。

 警告:

「セクション」(Section) も「改訂」(Revision) も同じである場合は、同一の契約条件を2回関連付けることはできません。

関連付けられたすべての契約条件は、「契約の契約条件」(amConditions) テーブル (ナビゲーションバーの「資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/契約の契約条件」リンク) に配置されます。

契約に関連付けられている契約条件を削除すると、the records in the 「契約の契約条件」(amConditions) テーブルにあるレコードが削除され、リンクが解除されます。

 警告:

契約を削除する場合は、その前に、それに関連付けられている契約条件を削除する必要があります。

契約に関連付けられたドキュメント

契約にドキュメントを追加する

契約にドキュメントを追加するには、複数の方法を利用できます。

- **方法1：[ドキュメントを作成/更新] ウィザードを使用する**

- 1 Windowsクライアントの場合、契約の詳細画面から：

- ウィンドウの右側にある **[ドキュメント]** ボタンを押します。

または：

ナビゲーションバーから **[契約/ドキュメントを追加/変更]** リンクをクリックします。

Webクライアントの場合、契約のリストから：

- 契約のリファレンスの前にあるチェックボックスを選択し、**[アクション]** ドロップダウンリストから **[ドキュメントを作成/変更...]** メニューを選択します。

[ドキュメントを作成/更新] ウィザードが起動します。

- 2 **[新しいドキュメントを作成]** オプションを選択します。

- 3 ウィザードの各ページに入力し、**[完了]** をクリックして確定します。

- 4 追加するドキュメントを確定します。

Windowsクライアント：**[変更]** をクリックします。

Webクライアント：**[保存]** ボタンをクリックします。

- **方法2：契約の詳細画面の[ドキュメント] タブを使用する**

契約の詳細画面から **[ドキュメント]** タブをクリックします。

- Windowsクライアント：

[ドキュメント] タブに、リスト形式とタブ形式という2つの表示モードが表示されます。

表示モードを切り替えるには、タブの内容（タイトル上ではない）を右クリックし、**[タブ形式で表示]** または **[リスト形式で表示]** を選択します。

- **[ドキュメント]** タブがタブ形式で表示されている場合：

- 1 **[ドキュメント]** タブの左下にあるサブタブを右クリックし、**[リンクの追加]** を選択します。

- 2 表示されるサブタブのフィールドに必要な情報を入力します。

- 3 入力された情報と追加されたドキュメントを確定します（**[変更]** ボタン）。

- **[ドキュメント]** タブがリスト形式で表示された場合：

- 1  ボタンをクリックします。
 【ドキュメントを追加】 ウィンドウが表示されます。
 - 2 必要なフィールドに入力し、**【追加】** をクリックして確定します。
 - 3 追加するドキュメントを確定します（**【変更】** ボタン）。
- Webクライアント：
 - 1 **【追加】** をクリックします。
 - 2 必要なフィールドに入力し、**【追加】** をクリックして確定します。
 - 3 追加するドキュメントを確定します（**【保存】** ボタン）。

契約に関連付けられたドキュメントを変更する

- **方法1：【ドキュメントを作成/更新】** ウィザードを使用する
 - 1 Windowsクライアントの場合、契約の詳細画面から：
 - ウィンドウの右側にある **【ドキュメント】** ボタンを押します。
 または：
 ナビゲーションバーの **【資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／ユーザのアクション／ドキュメントを作成/変更】** リンクをクリックします。
 - Webクライアントの場合、契約のリストから：
 - 契約のリファレンスの前にあるチェックボックスを選択し、**【アクション】** ドロップダウンリストから **【ドキュメントを作成/変更...】** メニューを選択します。
【ドキュメントを作成/更新】 ウィザードが起動します。
 - 2 **【既存ドキュメントを編集】** オプションを選択します。
 - 3 ウィザードの他のページに入力し、**【完了】** をクリックして確定します。
 - 4 変更内容を確定します。
 Windowsクライアント：**【変更】** をクリックします。
 Webクライアント：**【保存】** ボタンをクリックします。
- **方法2：契約の詳細画面の【ドキュメント】タブを使用する**
 契約の詳細画面からの方法
 - 1 **【ドキュメント】** タブをクリックします。
 - 2 変更するドキュメントの詳細画面を表示します。
 - 3 Windowsクライアント：ドキュメントの情報を変更し、**【変更】** ボタンをクリックします。
 Webクライアント：編集モードに切り替えます（**【変更】** ボタン）。ドキュメントの情報を変更し、**【保存】** ボタンをクリックします。

- 4 変更内容を確定します。
- Windowsクライアント：[変更] をクリックします。
- Webクライアント：[保存] ボタンをクリックします。

契約に関連付けられたドキュメントの自動承認

ここでは、Asset Managerを使用したドキュメントの承認を自動化する方法と、自動化の設定方法について説明します。

契約モジュールの専門分野データには、**契約ドキュメントの承認** (BST_CNTR_DOC_APPR)という名前のワークフロースキームが含まれています。

このワークフロースキームでは、契約に関連付けられたドキュメントの承認が自動的に行われます。

以下に、このスキームの特徴を示します。

特徴	説明															
ワークフロースキームをトリガするイベント	次のイベントが発生すると、ワークフロースキームが起動します。 ■ ドキュメントを追加する															
ワークフローの実行を継続するために必要な条件	ワークフロースキームは、次のようにフィールドに値が設定されている場合に実行を継続します。 <table><tr><th>テーブル名</th><th>フィールドまたはリンクの名前</th><th>フィールド値</th></tr><tr><td>ドキュメント (amDocument)</td><td>テーブル (DocObjTable)</td><td>amContract</td></tr><tr><td>契約 (amContract)</td><td>責任者 (Supervisor)</td><td>空白ではない</td></tr><tr><td>ドキュメント (amDocument)</td><td>ステータス (seStatus)</td><td>未承認</td></tr><tr><td>契約 (amContract)</td><td>契約ステータス (seStatus)</td><td>【却下済】と【保留】以外</td></tr></table>	テーブル名	フィールドまたはリンクの名前	フィールド値	ドキュメント (amDocument)	テーブル (DocObjTable)	amContract	契約 (amContract)	責任者 (Supervisor)	空白ではない	ドキュメント (amDocument)	ステータス (seStatus)	未承認	契約 (amContract)	契約ステータス (seStatus)	【却下済】と【保留】以外
テーブル名	フィールドまたはリンクの名前	フィールド値														
ドキュメント (amDocument)	テーブル (DocObjTable)	amContract														
契約 (amContract)	責任者 (Supervisor)	空白ではない														
ドキュメント (amDocument)	ステータス (seStatus)	未承認														
契約 (amContract)	契約ステータス (seStatus)	【却下済】と【保留】以外														
ワークフロースキームの起動と実行に Asset Manager Automated Process Manager が必要か？	はい															

特徴	説明
ワークフロースキームの概要説明	- このワークフロースキームは契約に追加されたドキュメントの承認依頼を作成します。 この承認依頼は、すでに定義されている場合はワークフローアクティビティに変換されて契約責任者に割り当てられ、それ以外の場合はファイナンスグループに直接割り当てられます。 - 契約責任者が定義されていて承認依頼を受諾すると、承認依頼が作成され、ファイナンスグループに割り当てられます。 - 承認依頼が否認された場合（契約責任者またはファイナンスグループによって）、ドキュメントのステータスは【却下】に設定されます。 ファイナンスグループと契約責任者によりすべての依頼が承認された場合、ドキュメントのステータスは【承認済】に設定されます。 契約責任者が定義されている場合、通知メッセージが送られます。

承認プロセスに関わる従業員の指定

契約の依頼を依頼する前に、次の設定を行ってください。

- グループを表示します（ナビゲーションバーの**【組織管理／処理／従業員グループ】**リンク）。
- 【ファイナンス】**グループを表示します。
- 少なくとも次のフィールドとリンクには入力してください。

フィールドまたはリンク	コメント
責任者 (Supervisor)	ワークフローアクティビティが 【契約ドキュメントの承認】 ワークフロースキームで作成されると、このリンクで指定されたユーザは通知メッセージを受け取ります。また、責任者はこれらのワークフローのアクティビティを確認します。
【明細】 タブ	
メンバー	グループメンバーは 【契約ドキュメントの承認】 ワークフロースキームによって作成されたドキュメント承認依頼のワークフローアクティビティを閲覧します。

Asset Manager Automated Process Managerを設定する

Asset Manager Automated Process Managerは、**【契約ドキュメントの承認】**ワークフロースキームをトリガするかどうかを、初期ワークフローイベントのスケジュール設定に応じて確認します。

Asset Managerでこのタスクを実行するには：

- Asset Manager Automated Process Managerを起動します。
- Asset Managerデータベースに接続します（**【ファイル／データベースに接続】**メニュー）。

- 3 モジュールを表示します（[ツール／モジュールの設定] メニュー）。
- 4 [実行グループ'**BST_CONTRACT**'にワークフロー規則を適用]モジュールを選択します。
- 5 モジュールをトリガするスケジュールを定義します（[検証スケジュール]）。

Asset Manager Automated Process Managerをバックグラウンドタスクとして実行する

Asset Manager Automated Process Managerは、[実行グループ'**BST_CONTRACT**'にワークフロー規則を適用]モジュールを定期的に行うために、バックグラウンドタスクとして実行する必要があります。

ドキュメントの承認依頼を受諾または却下する

各承認依頼に対して、[契約ドキュメントの承認]ワークフロースキームはワークフローアクティビティを作成します。

これらのワークフローアクティビティは契約責任者と承認担当のファイナンスグループに割り当てられます。

タスクが割り当てられた契約責任者とグループのメンバーはワークフロータスクを閲覧することができます。

承認依頼を受諾または却下するには：

- 1 責任者またはグループメンバーの一人としてログインし、Asset Managerに接続します。
- 2 ワークフローのタスクを表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル／インフラストラクチャ管理／ワークフローのタスク]リンク）。
- 3 承認依頼に対応するタスクを選択します。
- 4 ワークフロータスクを確認します。
- 5 Windowsクライアント：[承認]または[却下]をクリックし、[変更]をクリックします。

Webクライアント：[承認]または[却下]をクリックし、[保存]をクリックします。

現在のドキュメントの承認ステータスを表示する

- 1 ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／契約書]リンクをクリックします。
- 2 希望する契約のドキュメントを選択します。
- 3 [ワークフロー]タブを選択し、ドキュメントの承認ステータスを確認します。

契約の作成時にデフォルト賃貸料を自動追加する

 重要項目:

ここでは、[タイプ] フィールド (seType) が [リース明細] に設定されている契約のみを対象としています。

リース明細が作成されると、それにデフォルト賃貸料が自動的に割り当てられます。これは、[契約] モジュールの専門分野データに含まれる [デフォルト賃貸料の作成] (BST_CNTR_RENT) ワークフロースキームから自動化されます。リース明細が作成されると、ワークフロースキームはデフォルト賃貸料を自動的に作成し、次のプロパティとともに契約に関連付けます。

フィールドまたはリンク	フィールドまたはリンクのSQL名	値
詳細	Description	デフォルト
主賃貸料	bMainRent	はい

自動的に作成されるデフォルト賃貸料に対して何も設定する必要はありません。リース明細が作成されたときにデフォルト賃貸料がリース明細に関連付けられないようにするには、ワークフロースキームのパラメータを変更する必要があります。

 重要項目:

この操作を実行できるのはAsset Managerの管理者のみです。

- 1 ワークフロースキームを表示します (ナビゲーションバーの [管理/ワークフロー/ワークフロースキーム] リンク)。
- 2 [デフォルト賃貸料の作成] (BST_CNTR_RENT)チャートを選択します。
- 3 [全般] タブをクリックします。
- 4 Webクライアント: 編集モードに切り替えます ([変更] ボタン) 。
- 5 [終了] (dEnd) フィールドに現在の日付より前の日付を入力します。
- 6 入力内容を確定します。

Windowsクライアント: [変更] をクリックします。

Webクライアント: [保存] ボタンをクリックします。

契約とサプライヤのパフォーマンスを評価する



注意:

この機能は、次のタイプの契約には適用されません。

- サービスレベルアグリーメント
- サービスレベル目標

これらの契約の詳細には、[ベンダのパフォーマンス] タブが表示されません。

amContractテーブルでは、次の面から契約を評価できます。

- 契約の調達サイクルの効率と効果
 - 契約上の資産が、約束納期を守って納品された度合い。これは、定時に納品された受領明細の割合で評価されます。
 - 受領した資産がサプライヤに返品された割合。

- メンテナンスタイプの契約の実行

メンテナンス契約上の作業指示が、約束完了時間を守って完了した度合い。

これらの計算は、契約 (**amContract**) レベルとサプライヤ (**amCompany**) レベルで行われます。結果は、それぞれのテーブルの [ベンダのパフォーマンス] タブで確認できます。



注意:

サプライヤのパフォーマンスは、そのサプライヤと結んだすべての契約のパフォーマンスの平均です。

契約のパフォーマンスおよびサプライヤのパフォーマンスのコントロールパネルは、[資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/コントロールパネル] からアクセスできます。

契約内容に従って [ベンダのパフォーマンス] タブに入力する

まず、サプライヤと結んだ契約の契約条件に従って、**amContract**テーブルの [ベンダのパフォーマンス] タブの各種フィールドに入力する必要があります。これらのフィールドの値はワークフロースキームで使用され、契約とサプライヤを評価する指標となるさまざまなフィールド値が計算されます。

表 3.2. **amContract**テーブルの [ベンダのパフォーマンス] タブのフィールド

フィールド	説明
カレンダー (Calendar)	ここで指定するカレンダーは、特定の発注明細の約束納期の計算に使用されます。 また、作業指示レベルでカレンダーが定義されていない場合は、作業指示解決時間の計算にも使用されます。 Asset Managerカレンダーでは、非就業日を計算に入れない営業日に基づいて期間と日付を計算できます。カレンダーを管理する方法については、『高度な使い方』ガイドを参照してください。 契約がどのカレンダーにもリンクされていない場合、目標と達成は暦日です。
納期 (tsLeadTime)	契約上のすべての発注に対する 約束納期 。
作業指示解決時間 (tsWOResolTime)	メンテナンス契約上のすべての作業指示に対する 約束完了時間 。
合意定時デリバリ率 (pDelivOnTimeRatioSLO)	注文の合意済み定時納品率（契約で規定されたもの）。
合意返品率 (pReturnRatioSLO)	資産の合意済み返品率（契約で規定されたもの）。
合意作業指示定時解決率 (pWOResolOnTimeRatioSLO)	作業指示の合意済み定時完了率（契約で規定されたもの）。

このタブの灰色で表示されたフィールドの値は、定期的（デフォルトは毎週）に起動される**ベンダ管理パフォーマンスの更新**（BST_CNTR_PERFORMANCE）ワークフローによって自動的に計算されます。

これらの値がどのように計算されるかについては、以下のセクションを参照してください。

- [実績定時デリバリ率の計算方法 \[P. 51\]](#)
- [実績返品率の計算方法 \[P. 51\]](#)
- [作業指示の実績定時率の計算方法 \[P. 53\]](#)
- [定時デリバリ率SLOの達成率の計算方法 \[P. 51\]](#)
- [返品率SLOの達成率の計算方法 \[P. 52\]](#)
- [定時作業指示率SLOの達成率の計算方法 \[P. 53\]](#)

契約目標に対するサプライヤの納品パフォーマンスを測定する

契約の対象となっている資産の調達サイクルは、以下の尺度で評価されます。

- 定時デリバリ率
- 返品率

定時デリバリ率

定時デリバリの定義

以下で、付属するスクリプトで定時デリバリがどのように定義されているかを示します。

Asset Managerは、発注物の受領日時（SQL名：**Receipt.dtReceipt**、**Receive**ウィザードの実行日時に相当）

と

その発注に含まれる発注明細の約束納期（**dtCommittedDeliv**）を比較します（約束納期は、発注の送信日時（SQL名：**amPOrder.dtSent**、**発注**ウィザードの実行日時に相当）に、契約レベルで定義された約束リードタイム（**amContract.tsLeadTime**）を加えたものです）。

- 前者が後者より前の場合、注文明細の納期は守られています。
- そうでない場合は、注文明細が納期遅れに分類されます。

実績定時デリバリ率の計算方法

この比率は、定時に納品された受領明細の数を、受領明細の合計数で除算して求められます。

以下の条件を満たす受領明細のみが計算の対象です。

- 受領明細が、**amReceiptLine -> POrdLine -> CatalogRef -> Catalog -> Contract**のリンクで、契約に関連付けられていること。
- その受領伝票がサプライヤに関連付けられていること。

定時デリバリ率SLOの達成率の計算方法

この比率は、**実績定時デリバリ率**（**pDelivOnTimeRatioReal**）フィールドの値を**合意定時デリバリ率**（**pDelivOnTimeRatioSLO**）フィールドの値で除算して求められます。

返品率

返品の定義

返品とは、購入アイテムを受領後にサプライヤに返却することで構成される操作です。

返品は、**【受領数】**（**fQty**）フィールドが負の値の受領明細で表現されます。

実績返品率の計算方法

この比率は、特定の契約上の資産について、返品した資産の合計数を受領した資産の合計数で除算して求められます。

以下の条件を満たす受領明細のみが計算の対象です。

- 受領明細が、amReceiptLine -> POrdLine -> CatalogRef -> Catalog -> Contractのリンクで、契約に関連付けられていること。
- その受領伝票がサプライヤに関連付けられていること。

返品率SLOの達成率の計算方法

この比率は、実績受領率（1-【実績返品率】（pReturnRatioReal）フィールドの値）を、合意受領率（1-【合意返品率】（pReturnRatioSLO）フィールドの値）で除算して求められます。

メンテナンス契約に関連付けられた作業指示の実行パフォーマンスを評価する

注意:

この機能は、【タイプ】（seType）が【契約メンテナンス】で、【ステータス】（seStatus）が【クローズ済】の作業指示に対してのみ適用されます。

定時作業指示の定義

Asset Managerは、作業指示の実際の完了日（【トラッキング】タブ、【カレンダー】サブタブにある【作業完了日】フィールドに相当）

と

期待される完了日（作業指示の詳細の【解決予定期限】フィールドに相当）を比較します。

- 前者が後者より前の場合、作業指示の納期は守られています。
- そうでない場合、その作業指示は納期遅れの作業指示に分類されます。

注意:

【解決予定期限】（dtResolLimit）フィールドの値は、【報告日】（dtNotif）フィールドの値と、契約レベル（契約の詳細の【ベンダのパフォーマンス】タブ）で定義された【作業指示解決時間】フィールドの値を合計した値です。

Asset Managerはカレンダーを使用して上記の日時を計算します（カレンダーが存在する場合）。次に、Asset Managerが使用するカレンダーをその優先度順に示します。

- 作業指示で指定されたカレンダー（【トラッキング】タブ、【カレンダー】サブタブの【カレンダー】フィールド）が計算に使用されます。
- 契約レベルで指定されたカレンダー（契約の詳細の【ベンダのパフォーマンス】タブの【カレンダー】フィールド）。

作業指示の実績定時率の計算方法

この比率は、定時作業指示の数を作業指示の合計数で除算して求められます。
以下の条件を満たす作業指示のみが計算の対象です。

- 作業指示がサプライヤに（[トラッキング] タブ、[技術者] サブタブの[会社] フィールド）に関連付けられていること。
- 作業指示に契約（**Contract**）が関連付けられていること。

定時作業指示率SLOの達成率の計算方法

この比率は、実績作業指示定時解決率（pWOLResolOnTimeRatioReal）フィールドの値を合意作業指示定時解決率（pWOLResolOnTimeRatioSLO）フィールドの値で除算して求められます。

4 手順2 - 契約に資産を追加する

重要項目:

この章は、[タイプ] フィールド (seType) が [サービスレベル] または [サービスレベル (マスターリース)] に設定される契約のみを対象としています。

この章では、契約を資産と関連付ける方法と以下について説明します。

- 契約上の資産のリストを確認する
- 資産と契約との間のリンクを削除する

契約に資産をリンクする

手動の方法

資産と契約をリンクする手順は、契約のタイプによって異なります。

表 4.1. 資産と契約をリンクする

契約のタイプ	手順
メンテナンス	1 資産のリストを表示します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/資産] リンク）。 2 リスト画面で資産を選択します。 3 [メンテナンス] タブを選択します。 4 Windowsクライアント：[メンテナンス契約]（MaintContract）リンクに入力し、変更内容を確定します（[変更] ボタン）。 Webクライアント：編集モードに切り替えます（[変更] ボタン）。 [メンテナンス契約]（MaintContract）リンクに入力し、変更内容を確定します（[保存] ボタン）。 注意: この手順を実行すると、契約が資産の詳細画面の [契約] タブページに自動的に表示されます。

契約のタイプ

リース明細

手順

方法1:

- 1 資産のリストを表示します（ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル／インフラストラクチャ管理／資産】リンク）。
- 2 リスト画面で資産を選択します。
- 3 【取得】タブを選択します。
- 4 Windowsクライアント：【調達】サブタブを選択します。
Webクライアント：編集モードに切り替えます（【変更】ボタン）。
- 5 【取得方法】（seAcquMethod）フィールドに【購入】以外の値を入力します。
- 6 【リース明細】（AcquContract）リンクに入力します。
- 7 変更内容を確認します。
Windowsクライアント：【変更】をクリックします。
Webクライアント：【保存】ボタンをクリックします。

注意:

この手順を実行すると、契約が資産の詳細画面の【契約】タブページに自動的に表示されます。

方法2:

- 1 契約のリストを表示します（ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／リース／リース明細】リンク）。
- 2 リスト画面で契約を選択します。
- 3 【資産（リース）】タブを選択します。
- 4 Windowsクライアント：✚ボタンをクリックします。
Webクライアント：【追加】をクリックします。
【リース明細に資産を関連付ける...】ウィザードが起動します。
- 5 ウィザードの各ページに入力し、【完了】をクリックして確定します。
選択した資産が契約に追加されます。

ヒント:

- 資産の【取得方法】フィールド（seAcquMethod）（資産の詳細画面の【取得】タブ）には、契約レベル（【全般】タブ）の【取得方法】フィールド（seAcquMethod）の値が入ります。
- 【調達】サブタブページには、貸主の名前と参照番号が入力され、【リース明細】フィールド（AcquContract）にリンクしたリース契約の参照番号が表示されます。
- 【価格と条件】サブタブページには、リース期間の開始日と終了日が表示されます。

契約のタイプ	手順
■ 保険 ■ ライセンス ■ その他	方法1： 1 資産のリストを表示します（ナビゲーションバーの「資産ライフサイクル／インフラストラクチャ管理／資産」リンク）。 2 リスト画面で資産を選択します。 3 「契約」タブを選択します。 4 Windowsクライアント：  ボタンをクリックします。「資産に契約を追加」ウィンドウが表示されます。 Webクライアント：「追加」をクリックします。「契約明細の詳細」ウィンドウが表示されます。 5 このウィンドウに入力し、「追加」をクリックして確定します。 6 Windowsクライアント：「変更」をクリックします。 方法2： 1 ナビゲーションバーのいずれかのリンクを使用して、契約のリストを表示します。 2 リスト画面で契約を選択します。 3 「資産」タブを選択します。 4 Windowsクライアント：  ボタンをクリックします。「資産に契約を追加」ウィンドウが表示されます。 Webクライアント：「追加」をクリックします。「契約明細の詳細」ウィンドウが表示されます。 5 このウィンドウに入力し、「追加」をクリックして確定します。 6 Windowsクライアント：「変更」をクリックします。 方法3： 1 ナビゲーションバーの「資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／ユーザのアクション／契約に資産を追加...」リンクをクリックします。 「契約に資産を追加...」ウィザードが起動します。  警告： メンテナンス契約がウィザードに表示されますが、この契約タイプの場合は、この表の最初に説明した手順を使うことをお勧めします。ウィザードを使って資産を追加すると、メンテナンス契約は、ウィザードで選択された資産の詳細画面の「メンテナンス」タブページに表示されなくなります。 2 ウィザードの各ページに入力し、「完了」をクリックして確定します。

調達モジュールを使用する

調達サイクルを使用すると、資産の契約との関連を管理することができます。
既存の契約または取得予定の契約を参照することができます。

既存の資産または取得予定の資産を参照することができます。

この機能は、資産と契約を自動的に作成またはリンクすることができるため便利です。発注が受領されると、資産と契約が作成され、必要に応じてAsset Manager内で相互にリンクされます。

操作手順については、『調達』ガイドの「特殊な例」、「契約」の章を参照してください。

 注意:

「リース明細」タイプの契約の場合：

発注した資産を受領すると、たとえ却下した場合でも資産はデータベースに作成されます。作成された資産の[取得状況] (seAcquStatus) フィールドの値は[受領済]です（資産の[取得]タブ、[調達]サブタブ）。必要な場合は、ここで資産の検収を行なうことができます。資産の検収を行なうと、資産の[取得状況] (seAcquStatus) フィールドの値は[検収済]になります。

▶ [手順5 - 資産を検収する](#) [P. 95]

契約上の資産のリストを確認する

契約上の資産のリストを確認するには：

- 1 ナビゲーションバーのいずれかのリンクを使用して、契約のリストを表示します。
- 2 リスト画面で契約を選択します。
- 3 次のタブのいずれかを選択します。

契約のタイプ	タブ
リース明細	資産（リース）
保険	資産
メンテナンス	資産
ライセンス	資産
その他	資産

資産に関連付けられた契約のリストを確認する

資産に関連付けられた契約のリストを確認するには：

- 1 資産のリストを表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル／インフラストラクチャ管理／資産]リンク）。

- 2 資産の詳細画面を表示します。
- 3 次のタブのいずれかを選択します。

契約のタイプ	タブ	サブタブ	フィールドまたはリンク
リース明細	取得 契約	調達	リース明細 (AcquContract)
保険	契約		
メンテナンス	メンテナンス		メンテナンス契約 (MaintContract)
	契約		
ライセンス	契約		
その他	契約		

資産と契約との間のリンクを削除する

なぜ資産と契約とのリンクを削除するのか？

資産と契約とのリンクを削除するのは、リンクが誤って作成された場合にのみ行います。

正常な状況では、このリンクを削除してはいけません。資産が指定日以降契約対象ではないことを指定する方法は他にもあります。

このリンクを保持することで、期間中のある時点で資産が契約対象であったことが履歴として残ります。

資産と契約との間のリンクを削除する

資産と契約とのリンクを削除するには、次の選択肢の中から1つを選択します。

- 契約の詳細画面からの方法
 - 1 **【資産】** または **【資産（リース）】** タブを選択します。
 - 2 リンクを解除する資産を選択します。
 - 3 Windowsクライアント：  ボタンをクリックします。
Webクライアント： **【削除】** ボタンをクリックします。
- 資産の詳細画面での方法
 - 1 **【契約】** タブを選択します。
 - 2 リンクを解除する契約を選択します。
 - 3 Windowsクライアント：  ボタンをクリックします。
Webクライアント： **【削除】** ボタンをクリックします。

資産が契約対象ではなくなったことを指定する

資産が契約対象でなくなる理由は、さまざまです。
それぞれのケースに応じた処理が必要です。

ケース	変更するテーブル	変更するフィールド	コメント
この契約の契約対象のすべての資産について期間満了になりました。	契約 (amContract)	終了日 (dEnd)	この日付は契約期間が満了間近であることを示しています。満了すると、リンクされたすべての資産は契約対象から外れることになります。
ある資産は契約対象ではなくなりますが、その他の資産はまだ契約対象です。	契約上の資産 (amAstCntrDesc)	予定削除日 (dPlannedRemov)	契約満了日とは異なる削除予定日を設定したい場合は、このフィールドで資産の実際の削除予定日を指定する必要があります。
資産は期間満了時に貸主に返却されます。			▶ 手順7 - 損失額を定義する [P. 111]
資産は期間満了時に貸主から買い取られます。			▶ 手順7 - 損失額を定義する [P. 111]
資産は期間満了前に紛失または盗まれました。			▶ 手順7 - 損失額を定義する [P. 111]

5 手順3 - 賃貸料を定義する

重要項目:

この章は、[タイプ] フィールド (seType) が [サービスレベル] または [サービスレベル (マスターリース)] に設定される契約のみを対象としています。

この章では、契約賃貸料の定義方法、および以下について説明します。

- 賃貸料の支払を追加する
- 賃貸料の支払スケジュールを定義する
- 賃貸料の分配方法を選択する

基本概念

賃貸料は、契約ごとに定義します。賃貸料は、分配方法によって、契約にリンクされている資産に自動的に渡すことができます。

契約賃貸料と資産の賃貸料は、別々のテーブルに格納されます。

- 契約賃貸料テーブル (amCntrRent)
- 資産の賃貸料テーブル (amAssetRent)

契約のレベルで賃貸料を追加する

契約賃貸料は、契約の詳細画面の【賃貸料】タブページに記述されます。マスターリースを除くすべての契約は、賃貸料によって支払われることができます。このタブページは、契約の詳細画面で次の2つの条件が満たされた場合にのみ表示されます。

- 【タイプ】フィールド（seType）が【マスターリース】以外の値に設定されている。
- 【支払属性】フィールド（sePayType）が【賃貸料】または【両方】に設定されている。



注意:

リース契約の場合、契約を作成するとデフォルト賃貸料が作成されます。▶ [契約の作成時にデフォルト賃貸料を自動追加する \[P. 48\]](#)

契約への賃貸料の追加

契約に賃貸料を追加する方法は、契約の詳細画面の【賃貸料】タブの表示モードによって異なります。

【賃貸料】タブの表示方法を選択する（Windowsクライアント）

Windowsクライアントでは、次の2つの方法で【賃貸料】タブを表示できます。

- タブ形式
- リスト形式

表示モードを切り替えるには、【賃貸料】タブ内（タブのタイトル上ではない）を右クリックし、ショートカットメニューから【**タブ形式で表示**】または【**リスト形式で表示**】を選択します。

Windowsクライアント

タブ形式で契約に賃貸料を追加する（Windowsクライアント）

- 1 【賃貸料】タブを表示します。
- 2 【賃貸料】タブの左下にあるサブタブを右クリックし、ショートカットメニューから【**リンクの追加**】を選択します。
- 3 表示されるサブタブのフィールドに必要な情報を入力します。
賃貸料の支払スケジュールの入力方法を調べるには：▶ [賃貸料の支払スケジュール \[P. 66\]](#)
賃貸料の分配方法の選択の仕方を調べるには：▶ [賃貸料の配賦方法 \[P. 68\]](#)

賃貸料の経費配賦方法の定義の仕方を調べるには：▶ [賃貸料にリンクする経費](#) [P. 106]

- 4 [変更] をクリックします。

[リスト] ビューに表示された契約に賃貸料を追加する

- 1 [賃貸料] タブを表示します。
- 2  をクリックします。
賃貸料の追加ウィンドウが表示されます。
- 3 賃貸料の詳細画面に必要な情報を入力します。
賃貸料の支払スケジュールの入力方法を調べるには：▶ [賃貸料の支払スケジュール](#) [P. 66]
賃貸料の分配方法の選択の仕方を調べるには：▶ [賃貸料の配賦方法](#) [P. 68]
- 4 [追加] をクリックします。
- 5 Windowsクライアント：[変更] をクリックします。

Webクライアント

- 1 [賃貸料] タブを表示します。
- 2 [追加] をクリックします。
- 3 賃貸料の詳細画面に必要な情報を入力します。
賃貸料の支払スケジュールの入力方法を調べるには：▶ [賃貸料の支払スケジュール](#) [P. 66]
賃貸料の分配方法の選択の仕方を調べるには：▶ [賃貸料の配賦方法](#) [P. 68]
- 4 [追加] をクリックします。

資産のレベルで賃貸料を追加する

賃貸料の支払を資産のレベルで直接作成することはできません。契約賃貸料が資産に比例配分または配賦される状況で、この資産が契約に追加された時に資産レベルの賃貸料が自動的に作成されます。

この資産レベルの情報は、契約の詳細画面の [賃貸料] タブページの情報と類似しています。

資産の賃貸料の詳細は、資産の詳細画面の [賃貸料] タブで確認することができます。



注意:

このタブは、[取得方法] (seAcquMethod) フィールドで指定する資産の取得方法が[レンタル]、[リース]、または[ローン]の場合にのみ表示されます。

契約の詳細画面で資産がリース明細に追加されると、Asset Managerは資産の取得方法を自動的に更新し、[賃貸料]タブが表示されます。

資産レベルの賃貸料は、契約レベルで賃貸料を資産レベルに配賦しないことを指定したり、賃貸料の支払を契約から削除したりすると自動的に削除されます。

賃貸料の支払スケジュール

ここでは、賃貸料の支払スケジュールを指定するフィールドについて説明します。これらのフィールドは、賃貸料の詳細画面の[全般]タブページにあります。

賃貸料の支払スケジュールを指定するフィールド

表 5.1. 賃貸料 - 賃貸料の支払スケジュールを指定するフィールド

フィールドラベル	フィールドのSQL名	使用
回数	sePeriodicity	支払回数
開始	dStart	賃貸期間の開始日
終了	dEnd	賃貸期間の終了日 🔔 アイコンを使用して、終了日を知らせるアラームを設定することができます (Windowsクライアントのみで使用可能)。
支払	seAdvArrears	賃貸料を [回数] (sePeriodicity) フィールドで定義した賃貸期間の開始日に支払うか、終了日に支払うかどうかを決定します。
支払期日	tsBillCycDay	[支払] (seAdvArrears) フィールドに入力した値を基準として、賃貸料を支払う日時 (何月何日で表示) を決定します。 負の値を入力することもできます。

フィールドラベル	フィールドのSQL名	使用
猶予	tsGrace	賃貸料の支払が遅れたときの猶予期間を指定します。

回数フィールドの働きの詳細

次の表は、【回数】フィールドの値に応じてAsset Managerがレンタル期間の開始日を設定する方法を示しています。

表 5.2. 【回数】フィールド - 概要

【回数】フィールドの値	支払期間の開始日
毎日	00:00
毎週	月曜日
月2回	各月の1日と16日
月1回	各月の1日
隔月	1月1日、3月1日、5月1日、7月1日、9月1日、11月1日
年4回	1月1日、4月1日、7月1日、10月1日
年2回	1月1日と7月1日
年1回	1月1日

賃貸料の支払スケジュールの適用方法の例

例1

次の値を入力した場合：

フィールドラベル	フィールドのSQL名	値
回数	sePeriodicity	月1回
支払	seAdvArrears	先払い
支払期日	tsBillCycDay	-5日

この場合、支払期日は指定されている賃貸期間の開始日（その月の1日）の5日前になります。

例2

次の値を入力した場合：

フィールドラベル	フィールドのSQL名	値
回数	sePeriodicity	月1回
支払	seAdvArrears	先払い

フィールドラベル	フィールドのSQL名	値
支払期日	tsBillCycDay	4日
猶予	tsGrace	7日

この例では、月初めの1日から4日後、つまり5日までに賃貸料を支払わなければなりません。貸主は支払の遅れを7日間まで許容します。この結果、借主は月の12日までに支払えばいいことになります。

賃貸料の配賦方法

ここでは、さまざまな配賦方法を紹介し、その適切な選択方法について説明します。

賃貸料の比例配分方法を選択する

手順

賃貸料の比例配分方法を選択するには：

- 1 契約の詳細画面を表示します。
- 2 **【賃貸料】** タブを選択します。
- 3 賃貸料の詳細画面を表示します。
- 4 **【賃貸料の比例配分】** (seProrateRule) フィールドに必要な情報を入力します。

次の比例配分方法のいずれかを選択できます。

比例配分方法	計算方法
資産に支払を配分または配賦しない	賃貸料は契約ごとに計算され、資産には配賦されません。
すべての資産に支払を比例配分して配賦	賃貸料は契約ごとに計算されてから、契約上の各資産に配賦されます。
選択した資産に支払を比例配分して配賦	賃貸料は契約ごとに計算されてから、契約上の選択した資産に配賦されます。
すべての資産に1件当たりの支払を配賦	1件当たりの賃貸料の支払額は契約ごとに定義され、その後契約上の各資産に現状のまま配賦されます。

比例配分方法	計算方法
選択した資産に1件当りの支払を配賦	1件当たりの賃貸料の支払額は契約ごとに定義され、その後、契約上の選択した資産に現状のまま配賦されます。

選択方法

賃貸料を契約上のすべての資産に比例配分または配賦するのはどんなときか？

- すべての資産の賃貸料のパラメータが同じで、賃貸料をすべての資産に適用するときです。

賃貸料を契約上の選択した資産に比例配分または配賦するのはどんなときか？

- 選択した資産に応じて、異なる料率または1件当たりの賃貸料を配分するときです。

このように、リース契約の場合、借主はこの方法を使って複数のリース賃貸料を作成し、それぞれを選択した資産ごとに配分できます。のオプションを使うと、特定のブランドの資産には特定の料率で計算する賃貸料または1件当たりの賃貸料を設定し、料率または1件あたりの賃貸料の異なる別のブランドの資産には別の賃貸料を設定することができます。

- さらに、契約賃貸料を契約上の主資産と見なされる資産だけに配分し、その他の資産には配分しないことを選択できます。

例えば、PCの保守に関連する賃貸料をハードドライブだけに配分し、ディスプレイには配分しないようにすることができます。

賃貸料を資産に配分しないオプション

- 契約上の資産のリストが賃貸料の支払額に影響しない場合。
資産に配分しないので、契約期間中に資産を追加または削除しても、賃貸料の支払額は変更されません。
例：定額保険料
- 時間とディスク容量を節約する場合。
- 資産の詳細を考慮せずに、契約内容を検討する場合。

すべての資産または選択した資産に契約賃貸料を配分する

ここでは、賃貸料の支払を契約上のすべての資産または選択した資産に配分する方法について説明します。

- 1 契約を作成します
- 2 契約に資産を追加します。

各資産の【市場価格】(mMarketVal)フィールドに必要な情報が入力されていることを確認します（【取得】タブ、【調達】サブタブ）。



警告:

資産レベルの賃貸料を定義しないでください。
 資産の賃貸料は、必要に応じて、契約賃貸料から自動的に作成されます。

- 3 契約賃貸料を作成します（契約の詳細画面の【賃貸料】タブ）。



ヒント:

リース契約の場合は、契約を作成したときに自動的に作成されたデフォルト賃貸料を使用できます。▶ [契約の作成時にデフォルト賃貸料を自動追加する](#) [P. 48]

特に、次のフィールドおよびリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	値
賃貸料の比例配分（seProrateRule）	■ すべての資産に支払を比例配分して配賦 ■ 選択した資産に支払を比例配分して配賦
主賃貸料（bMainRent）	複数の賃貸料が存在する場合、主賃貸料と副賃貸料を区別します。主賃貸料の概念はリースの場合に重要です。リース契約に特有のものとして初回賃貸料の支払がありますが、これは主賃貸料のみ使用されるからです。 主賃貸料に適用する原則は次のとおりです。 ■ ある特定の支払がある契約の主賃貸料の支払である場合、この支払はこの契約に関連する全資産の主賃貸料の支払になります。 ■ 契約1件につき、主賃貸料は1件のみです。 賃貸料支払を主賃貸料支払として定義するには、賃貸料の詳細画面の【全般】タブで【主賃貸料】（bMainRent）オプションを選択します。 警告: Asset Managerは、契約または資産1件につき、主賃貸料の支払が1件のみであるかどうかを検証することはありません。

【賃貸料の比例配分】（seProrateRule）フィールドで【選択した資産に支払を比例配分して配賦】を選択した場合：

- 1 Windowsクライアント：【賃貸料】タブをリスト形式で表示します（ショートカットメニューの【リスト形式で表示】）。
- 2 賃貸料の詳細画面を表示します。

3 Windowsクライアント：[賃貸料の比例配分]（seProrateRule）フィールドの右にある[資産] ボタンをクリックします。

Webクライアント：[アクション...] ドロップダウンリストから[資産]を選択します。

[賃貸料に関連付けられている資産のリストを変更...] ウィザードが起動します。

4 賃貸料を配分する資産を選択し、[追加] をクリックします。

5 選択内容を確定します。

Windowsクライアント：[完了] をクリックします。

Webクライアント：[OK] をクリックします。

 重要項目:

契約賃貸料の詳細画面で[資産の検収日から計算] オプション（bFromAcceptDate）を選択すると、契約上の資産が検収されるまでその賃貸料の支払の経費明細は計算されません。

契約レベルで賃貸料を計算する

契約の詳細画面の[賃貸料] タブページには、賃貸料のリストと詳細が表示されます。

賃貸料の支払額は次のフィールドから計算されます。

表 5.3. 賃貸料 - 契約賃貸料の計算に使用されるフィールド

フィールドラベル	SQL名	使用
市場価格	mValue	このフィールドの値は、賃貸料に関連付けられた資産の[市場価格]（mMarketVal）フィールドの合計になります。
料率	pLRF	契約条件に対応する値を手動で入力します。

フィールドラベル	SQL名	使用
賃貸料	mPayments	賃貸料の支払額は、 【料率】 フィールド（pLRF）の値を 【値】 フィールド（mValue）に適用することで計算されます。
		注意: この金額は、 【比例配分方法】 （ProrateField）フィールドの値から完全に独立しています。このフィールドの値は、資産の賃貸料を計算するときのみ使用されます。

資産レベルの賃貸料を計算する

賃貸料は、契約上の各資産ごとに契約レベルの次のフィールドで定義された条件に基づき計算されます。

表 5.4. 賃貸料 - 資産の賃貸料の計算に使用されるフィールド

フィールドラベル	SQL名	使用
賃貸料	mPayments	このフィールドには、契約の賃貸料が保存されます。それは、この賃貸料に関連付けられている資産の賃貸料の合計に相当します。
比例配分方法	ProrateField	このフィールドは、資産ごとに契約賃貸料を比例配分および配賦するのに使用される資産のフィールドを指定します。
四捨五入	fPrecision	このフィールドは、各資産ごとに賃貸料の値を四捨五入する方法を指定します。

フィールドラベル	SQL名	使用
検収日	bFromAcceptDate	このオプションは、【タイプ】（seType）フィールドがリース明細に設定されている契約の場合のみ使用されます。 このオプションを解除すると、資産賃貸料の支払いは契約の賃貸開始日に開始されます。 このオプションを選択すると、資産の検収日から第1回目の賃貸契約期間までの期間を対象とする初回賃貸料の支払いが作成されます。

賃貸料を資産に配分するための参照フィールド

賃貸料を資産に配分するための参照フィールドは、契約賃貸料の**【比例配分方法】**フィールド（ProrateField）によって定義されます。

参照フィールドの保存フィールドの値

【比例配分方法】（ProrateField）フィールドは次の値に設定することができます。

値	賃貸料を資産に比例配分するための参照として使用されるフィールドの場所（資産の詳細画面）		この参照フィールドが表示されるために 【取得方法】 （seAcquMethod）フィールドがとるべき値（ 【取得】 タブ、 【調達】 サブタブ）。
	タブ	サブタブ	
支払（mPayments）	賃貸料	全般	■ レンタル ■ リース
転売価格（mResalePrice）	全般		■ 購入 ■ レンタル ■ リース
購入価格（mPrice）	取得	価格と条件	■ 購入
表記価格（mListPrice）	取得	価格と条件	
税金（mIntPayTax）	取得	価格と条件	■ レンタル ■ リース
税金（mTax）	取得	価格と条件	■ 購入
市場価格（mMarketVal）	取得	調達	
買い取り額（mPurchOptVal）	取得	価格と条件	■ リース

値	賃貸料を資産に比例配分するための参照として使用されるフィールドの場所（資産の詳細画面）		この参照フィールドが表示されるために [取得方法] (seAcquMethod) フィールドがとるべき値（[取得] タブ、[調達] サブタブ）。
	タブ	サブタブ	
残存価額 (mNetValue)	固定資産		■ 購入
初回金 (mIntPay)	取得	価格と条件	■ レンタル ■ リース



注意:

【市場価格】 (mMarketVal)、【買い取り額】 (mPurchOptVal) などの特定の参照フィールドはリース賃貸料の計算に使用されます。

他のフィールドは、賃貸またはリース以外で取得した資産の賃貸料を計算するのに使われます。例えば、保険料は契約賃貸料と見なされるので、【購入価格】フィールドに比例して、購入した資産に配賦（配分）されます。

ここでは、これら参照フィールドの値を「比例配分値」と呼ぶことにします。

資産の【支払】 (mPayments) フィールドを計算する式は次のとおりです。

$$\text{資産賃貸料} = \text{契約賃貸料} \times \frac{\text{資産1件の比例配分値}}{\sum \text{契約上の資産の比例配分値}}$$

参照フィールドの保存フィールドの役割の詳細

【比例配分方法】 (ProrateField) フィールドには、参照フィールドのシステム名 (SQL名ではない) が保存されます。このフィールドを使いやすくするために、Asset Managerは次の2つの要素を使用します。

- **LeasingLib** スクリプトライブラリの **strMonetaryName** スクリプト（ナビゲーションバーの【管理/スクリプト】リンク）。

このスクリプトは、賃貸料の配賦方法の参照フィールドのシステム名をSQL名に変換するため、またはその逆にSQL名をシステム名に変換するために使用されます。

このスクリプトを使用するには、**amEvalScript** APIを使用します。このAPIは次のコンテキストで使用できます。

- フィールドおよびリンクのBASICスクリプト
- スクリプトタイプのアクション

- **【比例配分】**（sysLeaseProrateField）特殊フィールド（ナビゲーションバーの**【管理／システム／特殊フィールド】**リンク）。

この特殊フィールドでは**strMonetaryName**スクリプトを使用します。このスクリプトは、**【比例配分方法】**（ProrateField）フィールドに保存されている賃貸料の配賦方法の参照フィールドのシステム名をSQL名に変換するために、またはその逆にSQL名をシステム名に変換するために使用されます。

【比例配分】特殊フィールドは、次の場合に使用できます。

- SQL名をリストで表示するため。

例を表示するには：

- 1 Asset Manager Windowsクライアントを起動します。
- 2 データベースに接続します。
- 3 リース明細を表示します（ナビゲーションバーの**【資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／リース／リース明細】**リンク）。
- 4 リース明細の詳細画面を表示します。
- 5 **【賃貸料】**タブを選択します。
- 6 賃貸料をリスト形式で表示します（**【リスト形式で表示】**ショートカットメニュー）。
- 7 リストの設定を表示します（ショートカットメニューの**【ユーティリティ／リストの設定...】**）。
- 8 **【比例配分】**（sysLeaseProrateField）特殊フィールドを選択します。

【比例配分方法】列は、**【比例配分】**特殊フィールドに対応し、**【比例配分方法】**フィールドには対応しません。

- 参照フィールドのSQL名を参照したい場合、フィールドおよびリンクのBASICスクリプトおよび**【スクリプト】**タイプのアクションで。

例を表示するには：

- 1 Asset Manager Windowsクライアントを起動します。
- 2 データベースに接続します。
- 3 リース明細を表示します（ナビゲーションバーの**【資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／リース／リース明細】**リンク）。
- 4 リース明細の詳細画面を表示します。
- 5 **【賃貸料】**タブを選択します。
- 6 賃貸料の詳細画面を表示します。
- 7 **【賃貸料の比例配分】**（seProrateRule）フィールドを**【すべての資産に支払を比例配分して配賦】**または**【選択した資産に支払を比例配分して配賦】**に設定します。
- 8 **【比例配分方法】**（ProrateField）フィールドの設定を表示します（ショートカットメニューの**【オブジェクトの設定...】**）。
- 9 このフィールドのデフォルト値を確認します。

```
RetVal = AmEvalScript( "LeasingLib", "strMonetaryName", "", "mMarketVal")
```

四捨五入

丸め誤差は、最初の賃貸資産に繰り越されます。**Asset Manager Automated Process Manager**は、最初の資産を除く各資産の賃貸料を計算し、その結果派生した誤差を最初の資産の賃貸料に繰り越して、資産賃貸料の合計が契約賃貸料に等しくなるように調整します（どれを最初の資産と見なすかは、データベース管理システムとそのインデックスの設定方法によって決まります）。

四捨五入の値が「0」に設定されている場合は、各資産の賃貸料を浮動小数のデフォルトの精度で計算します。例えば、価格が「100」の契約賃貸料を3つの資産に等しく分割する場合は、指定した四捨五入の値によって次のように各資産の賃貸料が算出されます。

■ 四捨五入の値が0.01の場合

- 1 33.34
- 2 33.33
- 3 33.33

■ 四捨五入の値が0の場合

- 1 33.33333333333333433
- 2 33.33333333333333254
- 3 33.33333333333333254



注意:

四捨五入の値は、税金の値を配分する場合にも使われます。

賃貸料に関連付けられた資産に分配される賃貸料の計算例

ある企業が次に示す3つの資産をリースすると仮定します。

- 2台のPC（XとY）（市場価格はそれぞれ150,000円）
- 1台のPC（Z）（市場価格は200,000円）
- 契約賃貸料は**市場価格**によって比例配分されます。

契約の初期料率は3%です。

契約賃貸料を計算する

契約賃貸料

= 契約賃貸資産の価格 X 料率

= 契約上の資産の市場価格の合計 X 料率

= \$5000 x 3%

$$= \$150$$

資産レベルの賃貸料を計算する

Yの賃貸料	= 契約賃貸料 X 「Y」の比例配分値/（「X」、 「Y」、 「Z」の比例配分値の合計）
	= 契約賃貸料 X 「Y」の市場価格/（「X」、 「Y」、 「Z」の市場価格の合計）
	= 150 x 1500 / (1500 + 1500 + 2000)
	= \$45
Zの賃貸料	= 1500 x 2000 / 5000 = \$60
Xの賃貸料	= 契約賃貸料 - （「X」以外の資産の賃貸料の 合計）
	= 150 - 45 - 60
	= \$45

契約上のすべての資産または選択した資産に1件当りの賃貸料を配賦する

ここでは、契約賃貸料を計算し、契約賃貸料に関連付けられたすべての資産に1件当りの賃貸料を配賦する手順を説明します。

実行手順

すべての資産または選択した資産に契約賃貸料を配分する [P. 69]のセクションに記載された手順を使用します。

次のフィールドの手順のみ異なります。

フィールドまたはリンク	値
賃貸料の比例配分（seProrateRule）	■ すべての資産に1件当りの支払を配賦 ■ 選択した資産に1件当りの支払を配賦

なお、資産の【市場価格】（mMarketVal）フィールドは入力しないでおくこともできます（【取得】タブ、【調達】サブタブ）。

資産レベル、契約レベルの賃貸料を計算する

契約の詳細画面の【賃貸料】タブページには、賃貸料のリストと詳細が表示されます。

賃貸料の支払額は次のフィールドから計算されます。

表 5.5. 賃貸料 - 契約賃貸料の計算に使用されるフィールド

フィールドラベル	SQL名	使用
1件当賃貸料	mUnitPayments	契約賃貸料に関連付けられた資産ごとの賃貸料の支払額を定義します。

次の計算が行われます。

■ 契約賃貸料

契約賃貸料 = 1件当賃貸料 X 選択した契約上の資産数

■ 資産の賃貸料

資産ごとの賃貸料 = 1件当りの賃貸料

契約上の資産に賃貸料を配賦しない

ここでは、契約賃貸料を計算し、資産に配分しない場合の手順について説明します。

実行手順

実行される自動計算が正しく機能するためには、次の手順に従います。

- 1 契約を作成します。契約賃貸料は作成しません。
- 2 資産のレベルで賃貸料を作成しないで、契約に資産を追加します（資産の詳細画面の【取得】タブ）。

各資産の【市場価格】(mMarketVal)フィールドに必要な情報が入力されていることを確認します（【取得】タブ、【調達】サブタブ）。

- 3 契約賃貸料を作成します（契約の詳細画面の【賃貸料】タブ）。

特に、次のフィールドおよびリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	値
賃貸料の比例配分 (seProrateRule)	資産に支払を配分または配賦しない
主賃貸料 (bMainRent)	主賃貸料ではこのオプションを選択します。

契約賃貸料を計算する

契約の詳細画面の【賃貸料】タブページには、賃貸料のリストと詳細が表示されます。

賃貸料の支払額は次のフィールドから計算されます。

表 5.6. 賃貸料 - 契約賃貸料の計算に使用されるフィールド

フィールドラベル	SQL名	使用
市場価格	mValue	このフィールドの値は、賃貸料に関連付けられた資産の【市場価格】（mMarketVal）フィールドの合計になります。 警告: この値は、賃貸料の詳細を定義する前に契約に資産を追加した場合にのみ、正しく計算されます。
料率	pLRF	契約条件に対応する値を手動で入力します。
賃貸料	mPayments	賃貸料の支払額は、【料率】フィールド（pLRF）の値を賃貸料の【値】フィールド（mValue）に適用することで計算されます。

資産レベルの賃貸料を計算する

【賃貸料の比例配分】（seProrateRule）フィールドが【資産に支払を配分または配賦しない】である場合、契約上の資産に賃貸料は作成されません。

賃貸料を配賦する

定期的な賃貸料の経費の配賦方法を定義するには：

- 1 契約の詳細画面を表示します。
- 2 【賃貸料】タブを選択します。
- 3 賃貸料の詳細画面を表示します。
- 4 【ファイナンス】タブを表示します。
- 5 【コストタイプ】（CostCategory）および【コストセンタ】（CostCenter）リンクに必要な情報を入力します。



注意:

（リース明細の）初回賃貸料の経費は資産のコストタイプとコストセンタに配賦されます。

6 手順4 - ローンを定義する

この章では、契約ローンの定義方法、および以下の点について説明します。

- ローンを追加する
- ローン返済スケジュールを定義する
- ローン支払の配賦方法を選択する

基本概念

ローンについては、契約ごとに定義します。

契約にリンクするローンは**ローンテーブル**（amLoan）に格納されます。

ローン返済明細は**ローン返済明細テーブル**（amLoanPayment）に格納されます。

契約ごとにローンを追加する

契約ローンは、契約の詳細画面の【**ローン**】タブページに記述されます。マスターリースを除くすべての契約は、ローンによって支払われることができます。このタブページは、契約の詳細画面で次の2つの条件が満たされた場合にのみ表示されます。

- **【タイプ】** フィールド (seType) が **【マスターリース】** 以外の値に設定されている。
- **【支払属性】** フィールド (sePayType) が **【ローン】** または **【両方】** に設定されている。

Windowsクライアント

契約にローンを追加する方法は、契約の詳細画面の **【ローン】** タブの表示モードによって異なります。

【ローン】タブの表示方法を選択する

【ローン】 は次の2つの方法で表示できます

- タブ形式
- リスト形式

表示モードを切り替えるには、**【ローン】** タブ内（タブのタイトル上ではない）を右クリックし、ショートカットメニューから **【タブ形式で表示】** または **【リスト形式で表示】** を選択します。

タブ形式で契約にローンを追加する

- 1 **【ローン】** タブを表示します。
- 2 **【ローン】** タブの左下にあるサブタブを右クリックし、ショートカットメニューから **【リンクの追加】** を選択します。
- 3 新しいサブタブページに情報を入力します。
- 4 **【変更】** をクリックします。

リスト形式で契約にローンを追加する

- 1 **【ローン】** タブを表示します。
- 2  ボタンをクリックします。
ローンの追加ウィンドウが表示されます。
- 3 ローンの詳細画面に必要事項を入力します。
- 4 **【追加】** をクリックします。
- 5 **【変更】** をクリックします。

Webクライアント

- 1 **【ローン】** タブを表示します。
- 2 **【追加】** をクリックします。
- 3 ローンの詳細画面に必要事項を入力します。

- 4 [追加] をクリックします。

資産ごとにローンを追加する

ローンは契約にのみリンクされているため、資産の詳細画面からローンを直接作成することはできません。

ローン返済明細

ここでは、ローン返済スケジュールの作成方法について説明します。

支払を追加する

- 1 契約の詳細画面を表示します。
- 2 [ローン] タブを選択します。
- 3 ローンの詳細画面を表示します。
- 4 ローン返済明細にエントリを追加します（Windowsクライアントでは  ボタン、Webクライアントでは [追加] ボタン）。
- 5 支払の詳細画面に入力します。
- 6 入力内容を確認します（[追加] ボタン）。
- 7 Webクライアント：[ドキュメントに戻る] リンクをクリックします。
- 8 支払の追加を確認します（Windowsクライアントでは [変更] ボタン、Webクライアントでは [保存] ボタン）。

外部プログラムからローン返済スケジュールをコピーする



警告:

この機能は、Windowsクライアントでのみ使用できます。

ローン返済明細を1つずつ作成するのではなく、それらをどこかへコピーしてからリストに直接ペーストすることができます。

外部ソフトウェアのデータの各行は、Asset Managerのローン返済支払明細と同じ構造でなければなりません（各フィールドに対して同じ列数と同じ値タイプ）。データのコピー中に、データ行に支払明細が作成されます。外部アプリケーションのファイルにある各行のフィールドは、ローン返済明細の列に自動的に関連付

けられます。最初のフィールドは最初の列と関連付けられ、2番目のフィールドは2番目の列と関連付けられるというようになります。

ローン返済スケジュールを記述するために使われるフィールド

表 6.1. ローン - ローン返済スケジュールを記述するために使われるフィールド

フィールドラベル	フィールドのSQL名	使用
金額	mAmount	借入資本の全額を定義します。 このフィールドは、ローン返済スケジュールの残金の計算に使用します。
開始	dStart	ローン返済開始日。 このフィールドは参照専用です。
利率	pInterestRate	ローンの固定金利を定義します。 このフィールドは参照専用です。
変動為替	FloatingRate	ローンの変動金利を定義します。 このフィールドは参照専用です。
支払 日付	dPayment	ローン返済明細の支払日 この日付はローン返済明細から生成された経費明細で使用されます。
元金	mPrincipal	返済する借入資本 このフィールドの値は、返済スケジュールの残金を算出するためにローンの【金額】フィールド（mAmount）から差し引かれます。 元金はローン返済明細の合計で使用されます。
利率	pInterestRate	利率は返済明細の支払日に適用されます。 このフィールドは参照専用です。
利子	mInterest	支払う利子の合計 この金額はローン返済明細の合計で使用されます。

フィールドラベル	フィールドのSQL名	使用
手数料	mFees	支払う手数料の合計 この金額はローン返済明細の合計で使用されます。

例

まず、ローンの詳細画面で次の値を入力します。

フィールドラベル	フィールドのSQL名	値
金額	mAmount	300

次に、ローン返済明細の詳細画面に次の値を入力します。

フィールドラベル	フィールドのSQL名	値
日付	dPayment	2011年5月1日
元金	mPrincipal	20
利子	mInterest	5
手数料	mFees	1

すると、ローン返済スケジュールに次の明細が表示されます。

列	値
日付	2011年5月1日
元金	20
残金	前の支払残金 - 元金 = 300 - 20 = 280
利子	5
手数料	1
合計	元金 + 利子 + 手数料 = 20 + 5 + 1 = 26

ローンの配賦方法

ここでは、さまざまな配賦方法を紹介し、その適切な選択方法について説明します。

ローンの比例配分方法を選択する

手順

ローンの比例配分方法を選択するには：

- 1 契約の詳細画面を表示します。
- 2 **【ローン】** タブを選択します。
- 3 ローンの詳細画面を表示します。
- 4 ウィンドウの下**の【賃貸料の比例配分】**（seProrateRule）フィールドに必要な情報を入力します。

次の比例配分方法のいずれかを選択できます。

比例配分方法	計算方法
資産に支払を配分または配賦しない	ローン返済明細ごとに1つの経費明細が作成されます。 これらの経費明細は（資産レベルではなく）契約レベルのみで作成されます。 経費明細の金額はローン返済スケジュールの 【合計】 列に表示される額に対応します。
すべての資産に支払を比例配分して配賦	ローン返済明細ごとに、契約上の各資産用の経費明細が作成されます。 これらの経費明細は契約にリンクされ、対応する資産ごとに複製されます。 経費明細の金額は、資産の配賦後にローン返済スケジュールの 【合計】 列に表示される額に対応します。
選択した資産に支払を比例配分して配賦	ローン返済明細ごとに、あらかじめ選択しておいたローン対象の各資産用の経費明細が作成されます。 これらの経費明細は契約にリンクされ、対応する資産ごとに複製されます。 経費明細の金額は、資産の配賦後にローン返済スケジュールの 【合計】 列に表示される額に対応します。
すべての資産に1件当りの支払を配賦	この計算方法は、ローン管理には有効ではありません。

比例配分方法	計算方法
選択した資産に1件当りの支払を配賦	この計算方法は、ローン管理には有効ではありません。

選択方法

支払を契約上のすべての資産に配賦するのはどのようなときか？

- すべての資産のローン返済スケジュールが同じで、そのスケジュールをすべての資産に適用する場合です。

選択した資産に支払を配賦するのはどのようなときか？

- 一部の資産のローン返済スケジュールが、契約上のその他の資産と異なる場合です。
例：料率、スケジュール、手数料が資産ごとに異なる場合など。
- 契約レベルの支払を契約上の主資産と見なされる資産だけに配分し、その他の資産には配分しない場合。
このようにすると、モニタではなく、ハードドライブに支払を配賦することが可能になります。

支払を資産に配分しないのはどのような場合か？

- 契約上の資産リストが、ローン返済額に影響しない場合です。
契約期間中に資産を追加または削除しても、結果としてローンの返済額は変更されません。
- 時間とディスク容量を節約する場合。
- 資産の詳細を考慮せずに、契約内容を検討する場合。

契約上のすべての資産または選択した資産にローン返済を配分する

ここでは、ローン返済を契約上のすべての資産または選択した資産に配分する方法について説明します。

実行手順

- 1 ローンを作成せずに、契約を作成します。
- 2 契約に資産を追加します。
各資産の【市場価格】(mMarketVal)フィールドに必要な情報が入力されていることを確認します（【取得】タブ、【調達】サブタブ）。
- 3 契約の詳細画面の【全般】タブで、必要な返済タイプに応じて【支払属性】(sePayType)フィールドを【ローン】または【両方】に設定します。
【ローン】タブページが表示されます。

- 4 Windowsクライアント：[ローン] タブをタブ形式で表示します（ショートカットメニューの[タブ形式で表示]）。
- 5 [ローン] タブページで、ローンを追加します。
- 6 Windowsクライアント：[変更] をクリックします。
- 7 Webクライアント：ローンの詳細画面を表示します。

サブタブページのテーブルにローンの支払額がリストされます。[残金] 列には、支払が残っている資本が示されます。

フィールドまたはリンク	値
賃貸料の比例配分 (seProrateRule)	■ すべての資産に支払を比例配分して配賦 ■ 選択した資産に支払を比例配分して配賦

ウィンドウの下の[賃貸料の比例配分] (seProrateRule) フィールドに、次の値を入力します。

- [選択した資産に支払を比例配分して配賦] を選択した場合、[賃貸料の比例配分] (seProrateRule) フィールドの下にリストが表示されます。このリストでは、支払を配分する資産を選択できます。デフォルトでは、このリストは空です。
- 資産をリストに追加するには：
 - 1 Windowsクライアント：[賃貸料の比例配分] (seProrateRule) フィールドの右下にある  ボタンをクリックします。
 - Webクライアント：[賃貸料の比例配分] (seProrateRule) フィールドの左下にある[追加] ボタンをクリックします。
 - 2 契約上の資産リストが表示されます。
 - 3 このリストで、ローン返済を配賦する資産を選択します。
 - 4 選択した資産を確定します（Windowsクライアントでは[選択]、Webクライアントでは[追加]）。
 - 資産を削除するには、リストで資産を選択し、Windowsクライアントの場合は  を、Webクライアントの場合は[削除] をクリックします。

経費明細を生成する

ローン返済明細ごとに、ローンが適用される契約上の各資産に対する経費明細が作成されます。

これらの経費明細は、次のタブページに表示されます。

詳細	タブ
契約	コスト

詳細	タブ
資産	コスト



ヒント:

経費明細は2度表示されますが、内容は同じです。
2度生成されることはありません。

経費明細の金額は、次のフィールドで生成されます。

表 6.2. ローン（支払を配賦） - 経費明細の計算に使用されるフィールド

フィールドラベル	SQL名	経費明細レベルでの使用法
【ローン返済明細】（amLoanPayment）テーブル		
日付	dPayment	【日付】（dCreation）フィールドに必要な情報を入力します。
元金	mPrincipal	これらのフィールドの金額を合計すると、ローンが適用される全資産の合計支払額が算出されます。
利子	mInterest	
手数料	mFees	
この合計額は【合計】列のローン返済明細に表示されます。		
ローン（amLoan）テーブル		
比例配分方法	ProrateField	このフィールドでは、ローンに関連付けられた複数の資産に対して、【合計】列の金額を比例配分するのに使用するフィールドを指定します。
四捨五入	fPrecision	このフィールドでは、ローンに関連付けられた複数の資産への配分後に取得した支払額を四捨五入する方法を指定します。

支払を資産に配分する参照フィールドを選択する

ローンに関連付けられた資産に対して支払を配分するための参照フィールドは、
[比例配分方法] (ProrateField) フィールドで定義されます。

[比例配分方法] (ProrateField) フィールドは次の値に設定することができます。

値	ローン支払を資産に配賦するために使用するフィールド（資産の詳細画面上）の場所		
	タブ	サブタブ	この参照フィールドが表示されるために [取得方法] (seAcquMethod) フィールドがとるべき値（[取得] タブ、[調達] サブタブ）。
(同一)			
減価償却 (mDeprVal)	固定資産		購入
減価償却基準 (mDeprBasis)	固定資産		購入
支払 (mPayments)	賃貸料	全般	■ レンタル ■ リース
転売価格 (mResalePrice)	全般		■ 購入 ■ レンタル ■ リース
購入価格 (mPrice)	取得	価格と条件	購入
表記価格 (mListPrice)	取得	価格と条件	
税金 (mIntPayTax)	取得	価格と条件	■ レンタル ■ リース
税金 (mTax)	取得	価格と条件	購入
市場価格 (mMarketVal)	取得	調達	
買い取り額 (mPurchOptVal)	取得	価格と条件	リース
残存価額 (mNetValue)	固定資産		購入
初回金 (mIntPay)	取得	価格と条件	■ レンタル ■ リース

ここでは、これら参照フィールドの値を「比例配分値」と呼ぶことにします。
次の式は、【比例配分方法】 (ProrateField) フィールドが(同一)と異なる場合に、経費明細の【借方】 (mDebit) フィールド値の計算に使用されます。

$$\text{資産の返済金額} = \text{契約の返済金額} \times \frac{\text{資産 1個あたりの価値}}{\text{資産 1個あたりの価値の合計}}$$

次の式は、【比例配分方法】（ProrateField）フィールドが(同一)に設定されている場合に、経費明細の【借方】（mDebit）フィールド値の計算に使用されます。

$$\text{資産の返済金額} = \frac{\text{契約の合計返済金額}}{\text{選択した資産の個数}}$$

四捨五入

四捨五入のエラーは、最初の返済明細に繰り越されます。Asset Manager Automated Process Managerは、最初の資産を除き、ローンと関連付けられている各資産への支払を計算し、次にすべての資産のローン支払の合計が契約のローン金額と一致するように最初の資産の支払を調整します("最初"の資産はデータベース管理システム、およびそのインデックスの設定方法によって異なります)。

四捨五入の値が「0」に設定されている場合は、各資産の支払を浮動小数のデフォルトの精度で計算します。例えば、価格が「100」の契約ローンを3つの資産に等しく分割する場合は、指定した四捨五入の値によって次のようにローン支払が算出されます。

- 四捨五入の値が0.01の場合

- 1 33.34
- 2 33.33
- 3 33.33

- 四捨五入の値が0の場合

- 1 33.33333333333333433
- 2 33.33333333333333254
- 3 33.33333333333333254



注意:

四捨五入の値は、税金の値を配分する場合にも使われます。

計算例

ある企業が掛売りで3つの資産を購入すると仮定します。

- 2台のPC（XとY）、市場価格はそれぞれ**\$1500**
- 1台のPC（Z）、市場価格は**\$2000**
- ローン返済は**市場価格**によって比例配分されます。

次の値は、ローンの詳細画面に表示されます。

フィールドラベル	フィールドのSQL名	値
金額	mAmount	\$5000

最初のローン返済明細の詳細画面に、次の値を入力したとします。

フィールドラベル	フィールドのSQL名	値
日付	dPayment	2011年1月5日
元金	mPrincipal	200
利子	mInterest	50
手数料	mFees	10

すると、ローン返済スケジュールに次の明細が表示されます。

列	値
日付	2011年1月5日
元金	200
残金	前の支払残金 - 元金 = 5 000 - 200 = 4 800
利子	50
手数料	10
合計	元金 + 利子 + 手数料 = 200 + 50 + 10 = 260

資産ごとの支払計算

Yの支払	= 支払合計 × 「Y」の比例配分値 / (「X」、 「Y」、 「Z」の比例配分値の合計)
	= 支払合計 X 「Y」の市場価格 / (「X」、 「Y」、 「Z」の市場価格の合計)
	= 260 x 1500 / (1500 + 1500 + 2000)
	= \$78

Zの支払	= 260 x 2000 / 5000
	= \$104

Xの支払	= 支払合計 - (「X」以外の資産の賃貸料の合 計)
	= 260 - 78 - 104

契約上のすべての資産または選択した資産にローン返済を配賦する

実行手順

この配賦方法は、ローン管理には有効ではありません。

資産に支払を配分または配賦しない

実行手順

- 1 ローンを作成せずに、契約を作成します。
- 2 契約に資産を追加します。
各資産の【市場価格】(mMarketVal)フィールドに必要な情報が入力されていることを確認します（【取得】タブ、【調達】サブタブ）。
- 3 契約の詳細画面の【全般】タブで、必要な返済タイプに応じて【支払属性】(sePayType)フィールドを【ローン】または【両方】に設定します。
【ローン】タブページが表示されます。
- 4 ローン契約を作成します（契約の詳細画面の【ローン】タブ）。
- 5 Webクライアント：【ドキュメントに戻る】リンクをクリックします。
- 6 Windowsクライアント：【変更】をクリックします。
Webクライアント：【保存】をクリックします。
【ローン】タブのサブタブにあるテーブルには、ローン支払が表示されます。
【残金】列には、支払が残っている資本が示されます。

フィールドまたはリンク	値
賃貸料の比例配分 (seProrateRule)	資産に支払を配分または配賦しない

ウィンドウの下【賃貸料の比例配分】(seProrateRule)フィールドに次の値を入力します。

経費明細を生成する

ローン返済明細ごとに、経費明細が作成されます。
これらの経費明細は契約の【コスト】タブページに表示されます。
経費明細の金額は、次のフィールドで生成されます。

表 6.3. ローン（資産に支払を配分または配賦しない） - 経費明細の計算に使用されるフィールド

フィールドラベル	SQL名	経費明細レベルでの使用法
【ローン返済明細】（amLoanPayment）テーブル		
日付	dPayment	【日付】（dCreation）フィールドに必要な情報を入力します。
元金	mPrincipal	これらのフィールドの金額を合計すると、合計支払額が算出されます。 この合計額は【合計】列のローン返済明細に表示されます。
利子	mInterest	
手数料	mFees	

ローンの配賦

ローン経費の配賦方法を定義するには：

- 1 契約の詳細画面を表示します。
- 2 【ローン】タブを選択します。
- 3 ローンの詳細画面を表示します。
- 4 【コストタイプ】（CostCategory）および【コストセンタ】（CostCenter）リンクに必要な情報を入力します。

7 手順5 - 資産を検収する

重要項目:

この章は、[タイプ] フィールド (seType) が [リース明細] に設定されている契約のみを対象としています。

ここでは、資産の検収を行い、初回賃貸料を計算する手順について説明します。

基本概念

借主は、資産を受領すると一定の時間をかけて資産を評価し、正しく機能することを確認します。資産を検収すると、リースと賃貸料の支払が実際に開始されます。

検収は、リース手続きの中で重要な処理手続きで、借主と貸主との間で契約ドキュメントが交換されます。借主は貸主に検収書を送付し、資産の検収を表明します。

資産の検収

資産の検収を行うには：

- 1 契約のリストを表示します（ナビゲーションバーの **【資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／リース／リース明細】** リンク）。
- 2 契約を選択します。
- 3 **Windowsクライアント**：契約の詳細画面の右にある **【検収】** をクリックします。
Webクライアント：**【アクション...】** ドロップダウンリストから **【検収】** を選択します。
【資産を検収...】 ウィザードが起動します。
- 4 ウィザードの各ページに入力します。
 - 検収する資産の選択
 - 検収日（▶ **【検収日:】 フレームの入力方法 [P. 96]**）と初回賃貸料計算の基準（▶ **【初回賃貸料計算の基準】 フレームの入力方法 [P. 96]**）
- 5 ウィザードを終了します（**【完了】** ボタン）。

【検収日:】 フレームの入力方法

表 7.1. 【資産の検収】 ウィザード 【検収日と初回賃貸料計算の基準を定義】 ページ

フィールド	割り当てる値	資産の詳細画面に影響するフィールド
取得状況	検収済	取得状況（seAcquStatus）
開始日	契約の開始日が表示されます。	
検収日	資産を検収した日	検収日（dAccept）
シリアル番号	資産を個別に検収する場合、このフィールドに資産のシリアル番号を入力してください。	シリアルNo.（SerialNo）

ヒント:

この情報は貸主にとって貴重です。借主に送られる検収書は検収した資産、その検収日、シリアル番号がまとめて記載されます。

【初回賃貸料計算の基準】 フレームの入力方法

資産を検収すると、支払が開始されます。同時に、借主は貸主に初回賃貸料を支払う必要があります。

初回賃貸料は、資産を検収した日からリース期間の第1回目の支払日までの賃貸料を対象とします。



警告:

Asset Managerでは、契約の主賃貸料に付属する初回賃貸料の計算だけを行います。

次のオプションに応じて初回賃貸料が計算されます。このオプションは、契約の詳細画面の【賃貸料】タブページにある主賃貸料サブタブページの【賃貸料の比例配分】（seProrateRule）フィールドで選択します。

- すべての資産に支払を比例配分して配賦
- 選択した資産に支払を比例配分して配賦
- 資産に支払を配分または配賦しない
- すべての資産に1件当りの支払を配賦
- 選択した資産に1件当りの支払を配賦

【すべての資産に支払を比例配分して配賦】オプション

この操作は、複数のステップで実行されます。

- 1 まず、【資産を検収...】ウィザードで選択したすべての資産の初回賃貸料を計算します。これは、選択した資産の賃貸料の総額とウィザードで定義した初回賃貸料の計算方法に基づいて計算されます。契約上のすべての資産を選択する必要はありません。
- 2 この初回賃貸料を、選択した各資産に配分します。これは、初回賃貸料の分配方法、およびウィザードで定義した【賃貸料】（mPayments）フィールドと【回数】（sePeriodicity）フィールド（【賃貸料】タブ、主賃貸料サブタブ）に基づいて計算されます。各資産の初回賃貸料は、【価格と条件】タブページの【初回金】フィールドに保存されます。
- 3 契約の全初回賃貸料を再計算します。この金額は、契約上の全資産の初回賃貸料の合計に等しくなります。契約の初回賃貸料の総額は、契約の詳細画面の【全般】タブページの【初回金】（mIntPay）フィールドに表示されます。

ウィザードですべての資産の初回賃貸料を計算する場合は、以下の手順に従います。

- 1 【検収日と初回賃貸料計算の基準を定義】ページで初回賃貸料の【計算方法】を選択します。デフォルトで選択される方法は、契約の詳細画面の【リース】タブページにある【計算方法】（seIntRentType）フィールドの値と同じです。
- 2 選択したモードに応じて、次のページの【最少日数】、【最大日数】、【パーセント】フィールドに入力します。【固定】モードを選択した場合は、【適用する初回賃貸料の合計】フィールドに値を入力します。
- 3 【計算】をクリックし、すべての資産の適用する初回賃貸料の合計を表示します。



注意:

【比例配分】および【四捨五入】フィールドには、すべての資産の初回賃貸料の分配方法および初回賃貸料の計算に使用する四捨五入のタイプが表示されます。ウィザードで資産を1つ選択している場合、これらのフィールドは情報の提供のみを目的としています。複数の資産を選択している場合は、これらのフィールドのデフォルト値を変更できます。

- 4 【完了】をクリックし、資産ごとの初回賃貸料と契約上の初回賃貸料の計算結果を保存します。結果は次のようになります。
 - 1 契約の詳細画面の【全般】タブページにある【初回金】（mIntPay）フィールドが再計算され、契約上の初回賃貸料の総額が更新されます。
 - 2 各資産に対して、【初回金支払日】（mIntPay）フィールド（資産の詳細画面の【取得】タブにある【価格と条件】サブタブ）に資産の初回賃貸料が表示されます。この賃貸料は、ウィザードの【比例配分】および【四捨五入】フィールドの規則に従って、契約の初回賃貸料の総額を資産に比例配分することにより計算されます。
 - 3 各資産の詳細画面の【コスト】タブページに、初回賃貸料の経費明細が表示されます。

【選択した資産に支払を比例配分して配賦】オプション

複数資産を検収する場合の初回賃貸料を計算する手順は、主賃貸料をすべての資産に比例配分する前述の方法と同様です。ただし、次の条件が異なります。

- 選択した資産それぞれにつき、「検収」時に初回賃貸料が計算されます。選択していない資産の初回賃貸料はゼロです。
- 契約上の初回賃貸料の総額は、選択した資産の初回賃貸料の合計に等しくなります。契約の初回賃貸料の総額は、契約の詳細画面の【全般】タブページの【初回金】（mIntPay）フィールドに表示されます。

【資産に支払を配分または配賦しない】オプション

資産ごとの初回賃貸料はありません。

契約上の初回賃貸料の総額は、契約の詳細画面の【全般】タブページの【初回金】（mIntPay）フィールドに借主が直接入力します。

この場合、ウィザードの【完了】ボタンを押しても初回賃貸料は計算されません。契約上の資産の検収にのみ使用されます。

契約の初回賃貸料の経費明細は、契約の詳細画面の【コスト】タブページに表示されます。

初回賃貸料の計算方法

注意:

初回賃貸料の計算方法は、契約の主賃貸料がすべての資産または選択した資産に比例配分されるときにのみ使用されます（契約の詳細画面の「賃貸料」タブの主賃貸料サブタブにある「賃貸料の比例配分」（seProrateRule）フィールド）。

Asset Managerでは、選択した複数の資産の初回賃貸料を次の3つの方法で計算できます。

- 資産の検収日に基づいて計算
- 選択した資産の賃貸料に対する比率（パーセント）で計算
- 固定値（直接金額を入力）

初回賃貸料の計算方法は、契約の詳細画面の「リース」タブおよび「資産を検収...」ウィザードに表示されます。

【検収日】による計算

初回賃貸料は、資産を検収した日から計算されます。つまり、初回賃貸料の期間に比例配分されます。Asset Managerでは、1ヶ月は30日と見なします。

計算の参照金額は、ウィザードの「検収日と初回賃貸料計算の基準を定義」ページの「賃貸料の合計」フィールドの値と一致します。これは、選択した資産の定期支払賃貸料の合計です。契約賃貸料を選択した資産に比例配分する場合（契約の詳細画面の「賃貸料」タブの「賃貸料の比例配分」（seProrateRule）フィールド）、選択されていない資産の主賃貸料は、0に置き換えられます。

その他の計算パラメータは、ウィザードの「資産の初回賃貸料を計算」ページに一覧表示されます。計算に使う日数は、Asset Managerで自動的に決定されます。

■ 日数

検収日から賃貸期間の最初の賃貸料支払日までの日数（Asset Managerで自動的に計算されます）。

ヒント:

この日数より大きい値を「最少日数」フィールドに入力した場合、Asset Managerでは「日数」フィールドの値を「最少日数」フィールドに入力された値に置き換えて計算が実行されます。

■ 最小日数

初回賃貸料の計算に使う最小の日数

■ 最大日数

初回賃貸料の計算に使う最大の日数

検収日による初回賃貸料の計算例

リース契約は、2011年7月1日に始まります。月1回の賃貸料（月額30000円）を月初めに支払います。これは、契約上のすべての資産に配分されます。借主は、2011年6月17日に契約上の資産を2件を検収しました。これらの資産の賃貸料は、それぞれ月額8000円（資産A）と4000円（資産B）です。

- これらの2件の資産の初回賃貸料は、7月17日から7月30日まで（初日と最終日を含む）の14日間です。したがって、初回賃貸料は $14/30 * (8000 + 4000)$ = ¥5600と計算されます。

これで、契約上の初回賃貸料の総額（契約の詳細画面の【全般】タブページの【初回金】（mIntPay）フィールドに表示される金額）が、5600円増えます。

- 検収した2件の資産の初回賃貸料は、それぞれの資産の詳細画面の【取得】タブページの【価格と条件】サブタブページの【初回金】（mIntPay）フィールドに表示されます。

2件の資産の初回賃貸料は、契約上の初回賃貸料総額を月額の賃貸料に比例配分し、少数点以下第二位を四捨五入して計算するものとします。

Aの初回賃貸料： $5600 * 8000 / (8000 + 4000) = ¥3733.3$

Bの初回賃貸料： $5600 * 4000 / (8000 + 4000) = ¥1866.7$

【最小日数】と【最大日数】フィールドを使う初回賃貸料の計算例

リース契約は、2011年7月1日に始まります。賃貸料は、すべての資産に配賦され、月1回、月初めに支払います。初回賃貸料は検収日に応じて計算されます。

【最少日数】は3日、【最大日数】は25日です。

- 契約上の資産がすべて2011年7月29日に検収された場合、初回賃貸料は実際に期間が2日しかなくても、3日分が計算されます。
- 契約上の資産がすべて2011年7月2日に検収された場合は、検収日から賃貸期間の初日（2011年8月1日）までの日数が25日を超えています。結果として、初回賃貸料は（初回賃貸料の計算に使う最大日数の）25日間についてのみ計算されます。
- 契約上の資産が契約初日（2011年7月1日）に検収された場合は、請求期間が賃貸料全体の支払に相当するため、これらの資産について計算する初回賃貸料はありません。

賃貸料比（パーセント）による計算

初回賃貸料は、ウィザードの【検収日と初回賃貸料計算の基準を定義】ページに表示される【賃貸料の合計】フィールドの値のパーセントを適用することにより計算されます。

- このパーセントは、【検収日と初回賃貸料計算の基準を定義】ページで賃貸料比（パーセント）による計算方法を選択した後、【資産の初回賃貸料を計算】ページの【パーセント】フィールドで指定します。



注意:

パーセントのデフォルト値は、契約の詳細画面の【リース】タブの【パーセント】（plntRentPercent）フィールドの値になります。【パーセント】（plntRentPercent）フィールドは、【計算方法】（selntRentType）フィールドで賃貸料比（パーセント）による計算方法を選択した場合にのみこのタブに表示されます。

- 【賃貸料の合計】は、選択した資産の定期的に支払う賃貸料の合計です。契約賃貸料を選択した資産に比例配分する場合（契約の詳細画面の【賃貸料】タブの【賃貸料の比例配分】（seProrateRule）フィールド）、選択されていない資産の主賃貸料は、0に置き換えられます。

この方法の場合、初回賃貸料は資産の検収日には無関係です。

例

リース契約は、2011年7月1日に始まります。月1回の賃貸料（月額30000円）を月初めに支払います。契約の詳細画面の【リース】タブページで定義した初回賃貸料との比率は30%です。賃貸料はすべての資産に配分され、契約上のすべての資産を2011年6月中に検収します。

- 契約の初回賃貸料は、2011年6月1日から6月30日までの期間を対象とします。初回賃貸料は、 $30000 * 30\% = \text{¥}9000$ となります。
- 資産ごとの初回賃貸料は、選択した方法で初回賃貸料を比例配分して計算します。

「固定値」による計算

初回賃貸料は、固定値になります。ウィザードの【資産の初回賃貸料を計算】ページの【適用する初回賃貸料の合計】フィールドに、この値を入力するだけで済みます。

8 手順6 - 経費明細を生成する

この章では、賃貸料とローン返済経費明細の生成と再計算方法について説明します。

基本概念

契約に関連する以下のすべてのコストについて、経費明細が作成されます。

- 定期的な賃貸料
- 初回金（リース契約の場合は初回賃貸料）
- ローン返済
- サービスレベル目標の未達成

定期的な賃貸料とローン返済の経費明細は、**Asset Manager Automated Process Manager**によって作成されます。**Asset Manager Automated Process Manager**は、インストールされ、稼働している必要があります。

Asset Managerによって、初回金と初回賃貸料の経費明細は作成されます。

定期的な賃貸料およびローン支払の経費明細の生成

Asset Manager Automated Process Managerを設定する

- 1 Asset Manager Automated Process Managerを起動します。
- 2 データベースに接続します（[ファイル/データベースへの接続] メニュー）。
- 3 [ツール/モジュールの設定] メニューを選択します。
- 4 [賃貸料とローンの計算]（Rent）モジュールを選択します。
- 5 『管理』ガイドの「**Asset Manager Automated Process Manager**」の章、「**Asset Manager Automated Process Managerでモニタするモジュールを設定する/賃貸料とローンの計算モジュール（Rent）**」のセクションに記載された手順に従って、[賃貸料とローンの計算] モジュールのオプションに入力します。

Asset Manager Automated Process Managerをバックグラウンドタスクとして実行する

- 1 Asset Manager Automated Process Managerを起動します。
- 2 データベースに接続します（[ファイル/データベースへの接続] メニュー）。

経費明細を生成する

Asset Manager Automated Process Managerは接続されると、経費明細の作成が必要かどうかを定期的に検証します。必要な場合は経費明細を作成します。

定期的な賃貸料の経費明細



重要項目:

経費明細は、賃貸料の有効日を基に生成されます。

定期的な賃貸料に関連する経費明細のチェックと作成が終ると、Asset Manager Automated Process Managerは生成された最新の経費明細の日付を[計算開始日] フィールド（dRecalcul）に入力します。

- 契約賃貸料を資産に配分または配賦する場合、Asset Manager Automated Process Managerは資産の詳細画面の[賃貸料] タブページのサブタブページにある[計算開始日]（dRecalcul）フィールドを変更します。
- 契約賃貸料を資産に配分または配賦しない場合、Asset Manager Automated Process Managerは、契約の詳細画面の[賃貸料] タブの[賃貸料] サブタブにある[計算開始日]（dRecalcul）フィールドを変更します。

ただし、1つ1つの経費明細を作成するたびに再計算を行うわけではありません。

- 定期的な賃貸料に関連する経費明細の見積は、必ず再計算されます。
- 各賃貸料に固有の【計算開始日】（dRecalcul）フィールドは、定期的に支払う賃貸料の過去および現在の経費明細が再計算される日付を設定します。

借主は、【計算開始日】（dRecalcul）フィールドを直接編集し、見積られた経費明細以外の再計算日を直接変更できます。これにより、税率が変更された場合などに不適切な経費明細を再計算することができます。

ローン支払の経費明細

重要項目:

経費明細は、ローンの有効日を基に生成されます。

Asset Manager Automated Process Managerは、経費明細をローン返済明細の各行に生成します。経費明細の日付は、支払作成日と同じになります。各支払の場合は、以下を生成します。

- 支払をすべての資産に配分する場合、Asset Manager Automated Process Managerはローンに関連付けられている資産と同じ数の経費明細を生成します。

配分の場合、ローン支払額は、ローンの詳細画面の【比例配分方法】

（ProrateField）フィールドの値に応じて、各経費明細に配分されます。

- ローン支払をすべての資産に配分する場合、Asset Manager Automated Process Managerは選択されていない資産のみに経費明細を生成します。

配分の場合、ローン支払額は、ローンの詳細画面の【比例配分方法】

（ProrateField）フィールドの値に応じて、各経費明細に配分されます。

- ローン支払を資産に配賦しない場合、Asset Manager Automated Process Managerはローン支払に経費明細を1つ生成します。

初回金または初回賃貸料の経費明細の生成

どの契約の種類にも初回金が存在します。初回金の額は、契約の詳細画面の【全般】タブにある【初回金】（mIntPay）フィールドで指定します。

リース契約の場合、この初回金は初回賃貸料です。初回賃貸料は通常、契約賃貸料に関連付けられた資産が検収済みになると、Asset Managerによって計算されます。

経費明細には、以下があります。

- 契約上の資産ごとの経費明細（資産の詳細画面の【取得】タブの【価格と条件】サブタブにある【初回金】（mIntPay）フィールドに対応）
- 選択した契約上の資産を基にした資産ごとの経費明細

- 契約上のすべての資産に対する経費明細（契約の詳細画面の【全般】タブにある【初回金】（mIntPay）フィールドに対応）。

最初の2つの場合、経費明細は資産の詳細画面の【ポートフォリオ】タブの【全般】サブタブで定義されたコストセンタに配賦されます。3番目の経費明細には、契約の【全般】タブページで定義したコストセンタが割り当てられます。

賃貸料にリンクする経費

経費明細を表示する

- 1 ナビゲーションバーのいずれかのリンクを使用して、契約のリストを表示します。
- 2 契約の詳細画面を表示します。
- 3 【コスト】タブページを開きます。

経費明細の生成に使用する規則

経費明細の発生元	各賃貸期間に対して：			
	比例配分方法	生成される経費明細	経費明細の配賦に使用されるコストセンタおよびコストタイプ	経費明細の配賦
定期的な賃貸料	すべての資産に支払を比例配分して配賦	契約上の資産ごとの経費明細	資産の詳細画面、【賃貸料】タブ、【ファイナンス】サブタブ	資産と契約
	すべての資産に1件当りの支払を配賦			
	選択した資産に支払を比例配分して配賦	選択した資産ごとの経費明細	資産の詳細画面、【賃貸料】タブ、【ファイナンス】サブタブ	資産と契約
	選択した資産に1件当りの支払を配賦			
	資産に支払を配分または配賦しない	固有の経費明細	契約の詳細画面、【賃貸料】タブ、【ファイナンス】サブタブ	契約

経費明細の発生源	各賃貸期間に対して：			
	比例配分方法	生成される経費明細	経費明細の配賦に使用されるコストセンタおよびコストタイプ	経費明細の配賦
初回賃貸料（リース契約の場合）	すべての資産に支払を比例配分して配賦	契約上の資産ごとの経費明細	資産の詳細画面、 【ポートフォリオ】タブ、 【全般】サブタブ	資産と契約
	すべての資産に1件当りの支払を配賦	金額の発生源：資産の詳細画面、 【取得】タブ、 【価格と条件】サブタブ、 【初回金】（mIntPay）フィールド		
	選択した資産に支払を比例配分して配賦	選択した資産ごとの経費明細	資産の詳細画面、 【ポートフォリオ】タブ、 【全般】サブタブ	資産と契約
	選択した資産に1件当りの支払を配賦	金額の発生源：資産の詳細画面、 【取得】タブ、 【価格と条件】サブタブ、 【初回金】（mIntPay）フィールド		
	資産に支払を配分または配賦しない	この場合、初回賃貸料は作成されません。		

コストセンタまたはコストタイプを変更する

経費明細を配賦するために契約または資産レベルでコストセンタまたはコストタイプを変更する場合、変更後の新規コストセンタまたはコストタイプはすでに生成された経費明細には適用されません。

このことによる将来の経費明細への影響はなく、Asset Manager Automated Process Managerは新規コストセンタとコストタイプを考慮に入れながら、経費明細を自動的に再計算します。

それとは反対に、Asset Manager Automated Process Managerは、次の手順で明示的に指定する場合に、過去の経費明細のみを再計算します。

- 1 契約のリストを表示します（ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／契約】リンク）。
- 2 変更する契約の詳細画面を表示します。
- 3 【賃貸料】タブの【全般】サブタブを選択します。
- 4 【計算開始日】（dRecalcul）フィールドに新規コストセンタを適用する日付を入力します。

例：

2011年10月31日まで、賃貸料の経費明細はコストセンタ**C1**に配賦されます。
2011年11月1日から、賃貸料の経費明細はコストセンタ**C2**に配賦されます。
資産の詳細画面の【賃貸料】タブ、【RRR】賃貸料サブタブ、【ファイナンス】サブタブでは、【コストセンタ】（CostCenter）フィールドを**2011年12月24日**に**C2**に変更しただけでした。
この日まで、**2011年12月31日**までの経費明細を生成しています。
Asset Manager Automated Process Managerが2011年の11月と12月の賃貸料の経費明細**RRR**をコストセンタ**C2**に配賦するようにするには、単に【計算開始日】（dRecalcul）フィールドを**2011年11月01日**に設定するだけです。

ローンにリンクする経費

経費明細を表示する

- 1 ナビゲーションバーのいずれかのリンクを使用して、契約のリストを表示します。
- 2 契約の詳細画面を表示します。
- 3 【コスト】タブページを開きます。

経費明細の生成に使用する規則

各支払の場合：			
比例配分方法	生成される経費明細	経費明細の配賦に使用されるコストセンタおよびコストタイプ	経費明細の配賦
すべての資産に支払を比例配分して配賦 すべての資産に1件当りの支払を配賦	契約上の資産ごとの経費明細	資産の詳細画面、 【ポートフォリオ】タブ、 【全般】サブタブ	
選択した資産に支払を比例配分して配賦 選択した資産に1件当りの支払を配賦	契約上の選択した資産ごとの経費明細	資産の詳細画面、 【ポートフォリオ】タブ、 【全般】サブタブ	

各支払の場合：

比例配分方法	生成される経費明細	経費明細の配賦に使用されるコストセンタおよびコストタイプ	経費明細の配賦
資産に支払を配分または配賦しない	固有の経費明細	配賦なし	契約

コストセンタまたはコストタイプを変更する

経費明細を配賦するために契約または資産レベルでコストセンタまたはコストタイプを変更する場合、変更後の新規コストセンタまたはコストタイプはすでに生成された経費明細には適用されません。

実行手順：

- 1 経費明細を削除します。
- 2 契約ローンを削除します。
- 3 契約ローンを再度作成します。
- 4 Asset Manager Automated Process Managerで経費明細を生成します。

9 手順7 - 損失額を定義する



重要項目:

この章は、[タイプ] フィールド (seType) が [リース明細] に設定されている契約のみを対象としています。

この章では、資産の紛失または破損の管理方法について説明します。

基本概念

リース契約では、契約上の資産を紛失または破損した場合のために、次の情報を指定しておく必要があります。

契約の詳細画面の [リース] タブページで、次の方法で損失額の計算方法を指定します。

フィールドまたはリンク	詳細
損失額の計算規則 (LossValRule)	損失額規則を選択可能にします。

フィールドまたはリンク	詳細
計算 (seLossValCalcMode)	損失額の計算を指定日またはすべての期間について行うかどうかを指定します。

損失額の計算規則を定義する

一般に、紛失または破損した資産の価値は契約に規定されています。

Asset Managerでは、損失額の計算規則を入力し、1件の資産または選択した複数の資産の損失額を参考値を使って見積ることができます。

これらの作業は、リース契約の詳細画面の【リース】タブページで行います。資産の詳細画面で直接資産の損失額を計算することはできません。

資産の損失額を計算する前に、計算規則を定義する必要があります。損失額を求める計算規則では、契約の開始以降の経過時間によって資産の参照値にかける損失率が決まります。

計算規則を作成するには（Windowsクライアントのみに有効）：

- 1 リース契約の詳細画面を表示し、【リース】タブをクリックします。
- 2 【損失額の計算規則】（LossValRule）フィールドに移動します。
- 3 新しい計算規則の名前を入力し、カーソルを別のフィールドに置きます。
Asset Managerは、仮作成と詳細設定のどちらを希望するかをユーザに確認します。【詳細設定】をクリックします。
- 4 計算規則のフィールドに入力します。
- 5 入力した情報を確定します（【追加】ボタン）。
- 6 契約の計算規則を確定します（【変更】ボタン）。

ある期間にわたり線形パーセントを使用する損失率の作成

契約の開始時に資産の値に適用する損失率が2つの時間値の間で直線的に変化する場合、次の手順に従います。

- 1 損失額の計算規則のリストを表示します（ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/リース/損失額の計算規則】リンク）。
- 2 線形配分で損失率を作成する計算規則の詳細を表示します。
- 3 必要に応じて、【回数】（sePeriodicity）、【桁数】（tPrecision）、および【時間】（tsDuration）フィールドの値を変更します。

Windowsクライアント：値を変更し、入力した情報を確定します（【変更】ボタン）。

Webクライアント：編集モードに切り替えます（【変更】ボタン）。値を変更し、変更内容を確定します（【保存】ボタン）。

- 4 ゼロ日の損失率と最大期間経過後の損失率を作成します。

Windowsクライアント：  ボタンをクリックします。

Webクライアント： **【追加】** をクリックします。

5 Windowsクライアント： **【変更】** をクリックします。

6 Windowsクライアント： **【線形配分】** をクリックします。

Webクライアント： **【アクション...】** ドロップダウンリストから **【線形配分】** を選択します。

【暫定損失率を作成...】 ウィザードが起動します。

7 ウィザード内のページに入力します。

8 ウィザードを終了します（ **【完了】** ボタン ）。

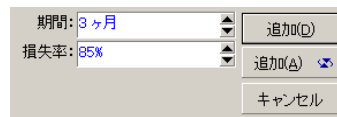
これで、選択した時間値の間のパーセントが生成されます。

ある期間にわたり線形パーセントを使用しない損失率の作成

パーセントの変化が直線的でない場合は、計算規則の詳細画面にさまざまな損失額を手動で入力する必要があります。

Windowsクライアント：  ボタンをクリックします。

Webクライアント： **【追加】** をクリックします。



この例では、リース期間の開始後3ヶ月間の損失額は、資産の参考値（計算基準値）の85%になります。

損失額を計算する

契約に損失額の計算規則を選択すると、この計算規則を使って損失額が計算されます。損失額の計算には、次のいずれかの方法を使います。

- すべての期間について計算する
- 指定した日付について計算する

【全期間で計算】

契約の詳細画面の **【リース】** タブで、次の手順に従います。

1 Webクライアント：編集モードに切り替えます（ **【変更】** ボタン ）。

- 2 まだ入力していない場合は、**【損失額の計算規則】**（LossValRule）フィールドに入力します。
- 3 **【計算】**（seLossValCalcMode）フィールドで**【全期間で計算】**を選択します。
- 4 入力内容を確定します。
Windowsクライアント：**【変更】**をクリックします。
Webクライアント：**【保存】**ボタンをクリックします。
- 5 計算の実行を開始します。
Windowsクライアント：**【損失額】**をクリックします。
Webクライアント：
 - 1 **【アクション...】**ドロップダウンリストから**【損失額】**を選択します。
 - 2 計算の実行を確定します（**【はい】**ボタン）。
 - 3 **【指定された契約に適用可能な損失額】**リンクをクリックします。この方法を選択すると、Asset Managerは契約の開始日（**【全般】**タブページ内）以降の規則の有効期間に属するすべての期間について損失額を計算します。計算したリース契約専用の損失額のテーブルが作成されます。
- 6 Windowsクライアント：ウィンドウを閉じます（**【閉じる】**ボタン）。

【指定した日付で計算】

契約の詳細画面の**【リース】**タブで、次の手順に従います。

- 1 Webクライアント：編集モードに切り替えます（**【変更】**ボタン）。
- 2 まだ入力していない場合は、**【損失額の計算規則】**（LossValRule）フィールドに入力します。
- 3 **【計算】**（seLossValCalcMode）フィールドで**【指定した日付で計算】**を選択します。
- 4 入力内容を確定します。
Windowsクライアント：**【変更】**をクリックします。
Webクライアント：**【保存】**ボタンをクリックします。
- 5 計算処理を開始します。
Windowsクライアント：**【計算】**をクリックします。
Webクライアント：**【アクション...】**ドロップダウンリストから**【計算】**を選択します。
【指定日の損失額を計算...】ウィザードが起動します。
- 6 ウィザードのページに入力します。
この方法を選択すると、Asset Managerはその契約に指定された計算規則を使って、特定の日付の時点における損失額を計算します。

【計算基準】

デフォルトでは、【資産総額】（mMarketVal）フィールド（契約の【リース】タブ）の値が入力されます。1件の資産または複数の資産の合計額を入力できます。

【開始】

損失額の計算規則の適用開始日を設定します。この日付は、デフォルトでは契約の開始日（【全般】タブページ内）になります。この日付を変更すれば、例えば契約の開始後に追加した資産の損失額を計算できます。

【損失日】

損失額の計算に使用する日付。

【計算】 ボタン

このボタンをクリックすると、次の操作が行なわれます。

- 計算基準値にかける損失率を表示する。この損失率は、選択した計算規則と資産の紛失日によって決まります。
- 計算基準値を基に損失額を計算する。

7 ウィザードを閉じます（【OK】ボタン）。

損失額を更新する

損失額の計算規則の詳細は、次の方法で変更できます。

- ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／リース／損失額の計算規則】リンクを使用する。
- 契約の詳細画面の【リース】タブを使用する。
 - Windowsクライアント：【損失額の計算規則】（LossValRule）フィールドの右にあるボタンをクリックします。
 - Webクライアント：【損失額の計算規則】（LossValRule）フィールドで計算規則の名前をクリックします。

この場合、この損失額を使うすべての契約を更新する必要があります。

損失額の変更直後の更新

変更したばかりの損失額規則を使ってすべての契約を更新するには、損失額の詳細画面で【伝達】をクリックする（Windowsクライアント）か、または【アクション...】ドロップダウンリストから【伝達】を選択します（Webクライアント）。

Asset Manager Automated Process Managerによる更新

Asset Manager Automated Process Managerは、計算方法が「全期間で計算」

（リース契約の詳細画面の「リース」タブページの「計算」

（seLossValCalcMode）フィールド）に設定されているリース契約の損失額を定期的に再計算します。このように、Asset Manager Automated Process Managerがデータベースにアクセスした後に損失額の計算規則を変更すると、損失額が更新されます。

損失額の再計算を設定するには：

- 1 Asset Manager Automated Process Managerを起動します。
- 2 データベースに接続します（「ファイル/データベースへの接続」メニュー）。
- 3 「ツール/モジュールの設定」メニューを選択します。
- 4 「規定の損失額の計算」モジュール（LostVal）を選択します。
- 5 『管理』ガイドの「Asset Manager Automated Process Manager」の章、「Asset Manager Automated Process Managerでモニタするモジュールを設定する/規定の損失額の計算（賃貸料）」のセクションに記載された手順に従って、「規定の損失額の計算」（LostVal）モジュールのオプションに入力します。

損失額の再計算の頻度を定義するには、『管理』ガイドの「Asset Manager Automated Process Manager」の章、「Asset Manager Automated Process Manager検証スケジュール」のセクションに記載された手順に従います。

10 手順8 - 終了日の管理

重要項目:

この章は、[タイプ] フィールド (seType) が [リース明細] に設定されている契約のみを対象としています。

この章では、契約の終了日オプションについて説明します。

Asset Managerでは、3つの契約オプションタイプ（更新、返却、および買い取り）を管理できます。

契約上の資産を更新する

期間満了時に、借主はすべてまたは一部の資産についてリースを延長できます。これを資産の更新と呼びます。

資産を更新するに：

- 1 リース明細を表示します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/リース/リース明細] リンク）。
- 2 リース明細の詳細を表示します。
- 3 Windowsクライアント：[更新] ボタンをクリックします。
Webクライアント：[アクション...] ドロップダウンリストから [更新] を選択します。



警告:

このボタンと入力は、契約の詳細画面の【オプション】タブで【更新許可】オプション (bRenOpt) が選択されている場合にのみ使用できます。

【資産を更新...】ウィザード (sysLeaseWAssetRenew) が起動します。

4 ウィザード内のページに入力します。

1 【資産の選択】ページに必要な情報を入力します。

【支払】列

契約の詳細画面の【賃貸料】タブの主賃貸料サブタブにある【賃貸料の比例配分】 (seProrateRule) フィールドで、主賃貸料を選択した資産またはすべての資産に比例配分するように指定した場合、この列に各資産の主賃貸料が一覧表示されます。この指定をしない場合、賃貸料は表示されません。

資産を選択してから、【次へ】をクリックします。

2 【更新する賃貸料を選択】ページに必要な情報を入力します。

このページでは、前の手順で選択したすべての資産について、更新する契約の賃貸料を選択できます。

賃貸料を選択してから、【次へ】をクリックします。

3 【新規賃貸料を定義】ページに必要な情報を入力します。

このページでは、更新する各賃貸料の適用条件を指定できます。新規賃貸料のデータを変更するには、このページで新規賃貸料を選択し、【賃貸料を変更】をクリックし、次のフィールドに入力します（【適用】をクリックすると、入力した情報が確定されます）。

詳細

新しい賃貸料の名前を入力します。新しい賃貸料を作成すると、契約の詳細画面の【賃貸料】タブページに、作成した賃貸料に対応する賃貸料サブタブページが作成されます。

開始

新しい賃貸料の開始日は、デフォルトでは更新する前の賃貸期間の終了日に1日加えた日付（翌日）になります。

終了

新しい賃貸料の終了日は、デフォルトでは、前の賃貸期間の終了日（契約の終了日）に、契約の【オプション】タブページの【更新】サブタブページにある【新規更新期限】フィールド (tsDefRenDur) で指定した期間を加算した日付になります。

賃貸料

新しいリース賃貸料です。これは、元の賃貸料に適用されるパーセントです。このパーセントは、契約の詳細画面の【オプション】タブの【更新】サブタブにある【元の賃貸料比】（pDefRenPercent）フィールドで定義されます。

新しい賃貸料を定義したら、【次へ】をクリックします。

5 【資産の更新日を定義】 ページに必要な情報を入力します。

このページでは、選択した資産の更新期間を指定します。

デフォルトでは次のようになります。

- 資産の更新日は、新しい賃貸料の最初の支払の初日になります。
- 更新した資産の終了日は、新しい賃貸料の最後の支払の最終日になります。

6 ウィザードを終了します（【完了】 ボタン）。

資産の更新の結果

【資産を更新...】（sysLeaseWAssetRenew）ウィザードを実行すると、

- 入力された情報を使用して、既存の契約の詳細画面の【賃貸料】タブに新しい賃貸料のサブタブが作成されます。新しい契約は作成されません。これらの新しい賃貸料が計算され、元のリース賃貸料として管理されます。
- 作成された賃貸料のサブタブページは、資産の詳細画面の【取得】タブページに表示されます。

資産の返却

ここでは、満了時に資産を返却する手順について説明します。

資産を返却するには：

- 1 リース明細を表示します（ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／リース／リース明細】リンク）。
- 2 リース明細の詳細を表示します。
- 3 Windowsクライアント：【返却】をクリックします。

Webクライアント：【アクション...】ドロップダウンリストから【返却】を選択します。



警告:

このボタンと入力は、契約の詳細画面の【オプション】タブで【返却許可】オプション（bRetOpt）が選択されている場合にのみ使用できます。

【返却伝票】ウィンドウが表示されます。

- 4 【新規作成】をクリックして新しい返却伝票を作成します。
- 5 返却伝票の名前を入力します。

Windowsクライアント：【作成】ボタンをクリックします。

Webクライアント：【ファイナンス契約】（Schedule）フィールドの右にある  ボタンをクリックし、返却伝票に関連付けられているファイナンス契約を選択し、【保存】をクリックします。

返却伝票は、ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／リース／返却伝票】リンクを使って管理することもできます。このリンクを選択すると、関連付けられているファイナンス契約に関わらず、すべての返却伝票のリストを表示できます。これに対し、リース契約の詳細画面の【返却】ボタンは、作業中のリース契約にリンクされている返却伝票のみを表示します。

1件の返却に、同じ契約に含まれる資産が複数リンクする場合もあります。

返却を契約に関連付ける

返品伝票の詳細画面の【全般】タブページの【ファイナンス契約】（Schedule）フィールドで、返品伝票をリンクする契約を指定します。

返却する資産のリスト

返却する資産の一覧を、返却の詳細画面の【資産】タブページで見ることができます。

- 1 （Windowsクライアント）または【追加】（Webクライアント）をクリックすると、返品伝票の詳細画面の【全般】タブで指定されているファイナンス契約に関連する資産を選択できます。
- 2 （Windowsクライアント）または【削除】（Webクライアント）をクリックすると、リストから資産を削除できます。

輸送に関する情報は、返却の詳細画面の【輸送】タブにあります。

資産が返品伝票に入れられると、そのステータスが自動的に変更されます。資産の詳細画面の【取得】タブの【調達】サブタブにある【取得状況】（seAcquStatus）フィールドが【返却予定】になります。

返却する資産のリストに資産を加えても、資産のテーブルや契約上の資産のリスト（契約の詳細画面の【資産】タブページに表示）からは削除されません。

資産を除却する

返却に入っている資産は、自動的に除却されるわけではありません。

返却伝票に含まれている資産を効率的に除却するには：

- 1 Webクライアント：編集モードに切り替えます（【変更】ボタン）。
- 2 返品伝票の【全般】タブにある【実行日】フィールド（dCarriedOut）に日付を入力します。
- 3 Webクライアント：【保存】ボタンをクリックします。
- 4 返品伝票の詳細画面の【資産】タブページで除却する資産を選択します。
- 5 Windowsクライアント：【償還】をクリックします。
Webクライアント：【アクション...】ドロップダウンリストから【償還】を選択します。
資産の償還ウィザードが起動し、【資産を償還】ページが表示されます。
- 6 資産の除却を確定します。
Windowsクライアント：【完了】をクリックします。
Webクライアント：【OK】をクリックします。
これで、返品伝票の各資産の次のフィールドが変更されます。

タブ	フィールド	新しい値
取得	取得状況（seAcquStatus）	【返却済】
【ポートフォリオ】タブ、 【全般】サブタブ	割り当て（seAssignment）	除却済(または消費済)
全般	日付（sDispos）	返却の実行日の値
全般	理由（DisposReason）	【返却】（[返却名]）

資産を買い取る

ここでは、契約の終了時に資産を買い取る方法について説明します。
資産を買い取る場合は：

- 1 リース明細を表示します（ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／リース／リース明細】リンク）。
- 2 リース明細の詳細を表示します。
- 3 Windowsクライアント：【買い取り】をクリックします。

Webクライアント：【アクション...】ドロップダウンリストから【買い取り】を選択します。



警告:

このボタンと入力、契約の詳細画面の【オプション】タブで【買い取り許可】オプション（bPurchOpt）が選択されている場合にのみ使用できます。

【資産を買い取り...】ウィザードが起動します。

4 ウィザード内のページに入力します。

1 **【資産の選択】** ページに必要な情報を入力します。

2 **【価格と買い取り日を定義】** ページに必要な情報を入力します。

Asset Managerは、買い取る資産について次の金額を計算します。

【総合計(賃貸料)】

主賃貸料に対応する**【賃貸料】** タブの**【全般】** サブタブに表示される**【賃貸料】** (mPayments) フィールドの合計額。

【総合計(市場価格)】

【取得】 タブページの**【調達】** サブタブページにある**【市場価格】** (mMarketVal) フィールドの合計額。

次のように、特定の買い取り条件は自動的に入力されます。

【提案買い取り額】

買い取り額は、選択した資産の**【取得】** タブページの**【価格と条件】** サブタブページにある**【買い取り額】** フィールド (mPurchOptVal) の合計になります。

購入日

買い取り日は、デフォルトでは、契約終了日に1日加えた日付になります。

【比例配分】

このフィールドでは、選択した資産の購入価格の分配方法を定義します。このフィールドの値は、契約の詳細画面の**【賃貸料】** タブにある**【比例配分方法】** (ProrateField) フィールドの値に対応します。

四捨五入

このフィールドでは、購入価格の計算における四捨五入の方法を定義します。

必要に応じて、**購入価格**を手動で入力し、**購入日**を変更します。



注意:

賃貸料の合計、市場価格の合計、および提案買い取り額は、情報の提供のみを目的としています。**【購入価格】**を決定する時の参考用です。

5 ウィザードを終了します（**【完了】** ボタン）。

買い取りを確定すると、選択した資産の次のフィールドが自動的に変更されます。

タブ	フィールド	新しい値
[取得]、[調達] サブタブ	取得方法 (seAcquMethod)	購入
[取得]、[価格と条件] sub-tab	購入日(sDispos)	購入日の値
[取得]、[価格と条件] sub-tab	購入価格 (mPrice)	[価格と買い取り日を定義] ウィザードページで定義された パラメータから計算された値。

資産の詳細画面の【コスト】タブページに経費明細が作成されます。

その他の場合

- ▶ 資産と契約との間のリンクを削除する [P. 60]

11 ASP契約の日常管理

この章では、アプリケーションサービス契約の管理方法について説明します。

前提条件

ASPワークフローを使用するためには、Asset Manager Automated Process Managerを設定し、実行する必要があります。

- 1 Asset Manager Automated Process Managerを起動します（Windowsの【スタート】メニュー）。
- 2 データベースに接続します（【ファイル/データベースへの接続】メニュー）。
- 3 実行グループ'**BST_ASP**'にワークフロー規則を適用モジュールを設定します（【ツール/モジュールの設定】メニュー）。
- 4 モジュールを有効にします（【有効】オプションを選択）。
- 5 モジュールをトリガする頻度を設定します。

注意:

あらかじめ設定された頻度に応じてワークフローはトリガされます。手動で変更の有無を確認する場合は、Asset Manager Automated Process Managerのメインウィンドウから【アクション/起動】メニューを使用してワークフローを起動できます。

ヒント:

Asset Manager Serverの検証スケジュールの詳細については、『管理』ガイドの「**Asset Manager Automated Process Manager**」の章、「**Asset Manager Automated Process Manager**でモニタするモジュールを設定する/検証スケジュール」のセクションを参照してください。

ASP管理Webページに接続する

警告:

この章で説明する機能は、Windowsクライアントのみで使用できます。

ここでは、アプリケーションサービスの管理者が、ユーザアカウントの管理（アカウントの作成や変更、権限、プロファイルの変更等）などを行うためにASPインターネットサイトの管理ページにすばやく接続する方法について説明します。

ヒント:

注：ASP管理ページは、[管理URL]（ASPUserRegURL）で指定します（契約の[全般]タブ）。

ASPインターネットサイトに管理者として接続するには：

契約のリストから行う：

- 1 契約を表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/ITサービスと仮想化/ASP/アプリケーションサービス]リンク）。
- 2 契約ローンを右クリックします。
- 3 [アプリケーションサービスの管理]アクションをトリガします（[アクション]ショートカットメニュー）。

契約に含まれるユーザリストから行う：

- 1 契約を表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/ITサービスと仮想化/ASP/アプリケーションサービス]リンク）。
- 2 契約を選択します。
- 3 [従業員]タブを選択します。
- 4 [従業員]タブの内側を右クリックします。
- 5 [このアプリケーションサービスの管理]アクションをトリガします（[アクション]ショートカットメニュー）。

お使いのWebブラウザにASP管理アクセスページが表示されます。

ASP Webサイトに接続する



警告:

この章で説明する機能は、Windowsクライアントのみで使用できます。

ここでは、ASPインターネットサイトにすばやく接続する方法について説明します。



ヒント:

注：一般的なASPのアドレスは、[アプリケーションのURL] (ASPConnectionURL) フィールドで指定します (契約の [全般] タブ)。

ASPインターネットサイトにユーザとして接続するには：

- 1 契約を表示します (ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/ITサービスと仮想化/ASP/アプリケーションサービス] リンク)。
- 2 契約を選択します。
- 3 [従業員] タブを選択します。
- 4 [従業員] タブの内側を右クリックします。
- 5 [アプリケーションサービスに接続] アクションをトリガします ([アクション] ショートカットメニュー)。

お使いのWebブラウザにASPアクセスページが表示されます。

テクニカルサポートに電子メールを送信



警告:

この章で説明する機能は、Windowsクライアントのみで使用できます。

ここでは、テクニカルサポートに電子メールを送信する方法について説明します。



ヒント:

注：一般的なASPのアドレスは、[テクニカルサポート] (ASPEMail) フィールドで指定します (契約の [全般] タブ)。

サポートに電子メールを送信するには：

- 1 契約を表示します（ナビゲーションバーの「**資産ライフサイクル／ITサービスと仮想化／ASP／アプリケーションサービス**」リンク）。
- 2 契約ローンをクリックします。
- 3 「**テクニカルサポートに電子メールを送信**」アクションをトリガします（「**アクション**」ショートカットメニュー）。

メッセージシステムにより、サポートチームに送信する新しいメッセージウィンドウが表示されます。

ユーザアカウントを管理する

前提条件

ASPユーザアカウントを管理するには、Asset Manager Automated Process Managerをインストールして設定し、実行しておく必要があります。

Asset Manager Automated Process Managerを設定する

- 1 Asset Manager Automated Process Managerを起動します。
- 2 データベースに接続します（「**ファイル／データベースへの接続**」メニュー）。
- 3 「**ツール／モジュールの設定**」メニューを選択します。
- 4 「**実行グループ'BST_ASP'にワークフロー規則を適用**」（WkGroupBST_ASP）モジュールを選択します。
- 5 『**管理**』ガイドの「**Asset Manager Automated Process Manager**」の章、「**賃貸料とローンの計算モジュール（賃貸料）**」のセクションに記載された手順に従って、「**実行グループ'BST_ASP'にワークフロー規則を適用**」モジュールのオプションに入力します。

バックグラウンドタスクとしてAsset Manager Automated Process Managerを起動する

- 1 Asset Manager Automated Process Managerを起動します。
- 2 データベースに接続します（「**ファイル／データベースへの接続**」メニュー）。

ASP契約の主な情報が入力されていることを確認します。

ユーザアカウントの**管理**ワークフローを実行するには、ASP契約の次のフィールドに入力します。

フィールドまたはリンク

「**全般**」タブ

責任者（Supervisor）

メッセージシステムが設定されていることを確認する

通知メッセージを目的のユーザに正しく届けるには、メッセージシステムを正しく設定し、ユーザ側でも必要な情報を入力しておく必要があります。

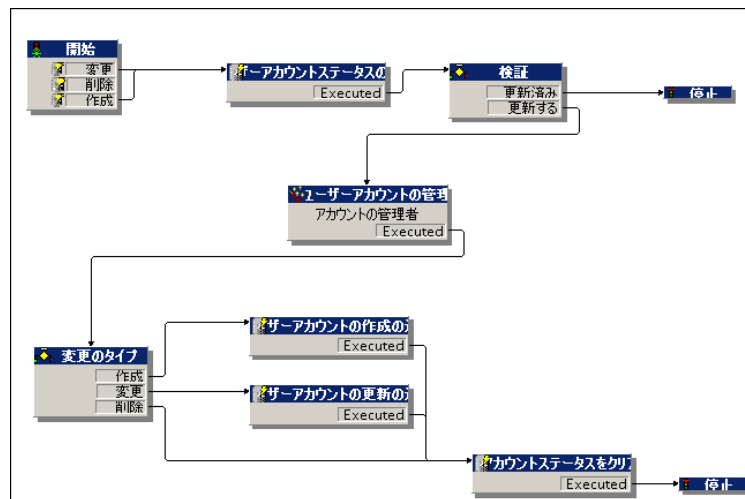
▶ 『管理』ガイドの「メッセージシステム」の章。

プロセス

グローバルプロセス

ユーザアカウントの管理ワークフロースキームの詳細画面では、プロセス全体を理論的に理解することができます。

図 11.1. ユーザアカウントの管理ワークフロー - 図



ユーザアカウントを作成する

ユーザアカウントを作成するには：

- 1 Asset Managerデータベースで契約に含めるユーザを作成します。
 - 方法1：【ソフトウェアの管理】ウィザード (sysSamLauncher) を使用する

- a [ソフトウェアの管理] ウィザードを起動します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル／ソフトウェア資産管理／ユーザのアクション／ソフトウェアの管理...] リンク）。
 - b 現在の契約が、ユーザアカウントを追加しようとしているASP契約であることを確認します。（契約を変更するには[対象の／別の対象となるソフトウェア契約を選択] ボタンを使用します）。
 - c [ソフトウェアの管理アクションを選択...] ページで、[ソフトウェアライセンスとインストールの管理] オプションを選択します。
 - d [次へ] をクリックします。
 - e [ソフトウェアライセンスとインストールの管理] ページで、[ASPユーザを追加] ボタンをクリックします。
これにより、[ASPユーザを追加...] ウィザード（sysSamAddAspUsers2Cntr）が開始します。
 - f 必要に応じてウィザードに入力します。
 - g すべてのパラメータを確定します（[完了] ボタン）。
ウィザードによって契約にユーザが追加されます。
- 方法2：メニューを使用する
- a 契約を表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル／ITサービスと仮想化／ASP／アプリケーションサービス] リンク）。
 - b 契約の詳細画面を表示します。
 - c [従業員] タブを選択します。
 - d 契約ユーザを追加します（Windowsクライアントでは+ボタン、Webクライアントでは[追加] ボタン）。
特に、次のフィールドおよびリンクを入力します。

フィールドまたはリンク

ユーザ (User)

ログイン (ASPLLogin)

プロフィール (Profile)



注意:

ユーザの詳細画面の[ステータス]（seStatus）フィールドは、ASP管理者がユーザアカウントを登録するまで[未作成]に設定されています。

- 2 [実行グループ'BST_ASP'にワークフロー規則を適用] がAsset Manager Automated Process Managerで実行されると、サーバは新規契約ユーザが作

成されたことを認識し、契約責任者に割り当てるワークフローのタスクを作成します。

- 3 契約責任者は、ワークフローのタスクを確認します（ナビゲーションバーの**【資産ライフサイクル／インフラストラクチャ管理／ワークフローのタスク】**リンク）。

次に、契約責任者はウィザードを起動し（Windowsクライアントでは**【ウィザード】** ボタン、Webクライアントでは**【ウィザード】** リンク）、ASP Webサイトの管理ページにアクセスします（**【アプリケーションサービスの管理】** ボタン、Windowsクライアントのみで使用可能）。

- 4 契約責任者はこのWebサイトでアカウントを作成します。
- 5 Asset Managerウィザードで、（**【アカウントが作成されました。】** チェックボックスをオンにして）契約責任者はアカウントが作成されたことを示し、ウィザードを終了します（**【完了】** ボタン）。
- 6 Asset Manager Automated Process Managerの**【実行グループ'BST_ASPにワークフロー規則を適用】** モジュールは、次回実行時にAsset Manager データベースの契約ユーザのステータスを更新します。

ステータスを確認するには：

- 1 契約を表示します（ナビゲーションバーの**【資産ライフサイクル／ITサービスと仮想化／ASP／アプリケーションサービス】** リンク）。
- 2 契約の詳細画面を表示します。
- 3 **【従業員】** タブを選択します。
- 4 契約ユーザの詳細画面を表示します。
 【ステータス】（seStatus）フィールドが**【未作成】** から**【更新済】** に変わっています。
- 7 このワークフローからは、契約責任者により作成が行われたことを知らせるメッセージもユーザに送信されます。

ユーザアカウントのログインまたはプロフィールを変更する

ユーザアカウントのログインまたはプロフィールを変更するには：

- 1 次の手順で、Asset Managerデータベースで契約ユーザの詳細画面を表示します。
 - 1 契約を表示します（ナビゲーションバーの**【資産ライフサイクル／ITサービスと仮想化／ASP／アプリケーションサービス】** リンク）。
 - 2 契約の詳細画面を表示します。
 - 3 **【従業員】** タブを選択します。
 - 4 契約ユーザの詳細画面を表示します（ ボタン）。
 次のフィールドを変更します。



注意:

ユーザの詳細画面の「ステータス」 (seStatus) フィールドは、ASP管理者がASP Webサイトでユーザアカウントを更新するまで「未更新」に設定されています。

- 2 「実行グループ'**BST_ASP**'にワークフロー規則を適用」がAsset Manager Automated Process Managerで実行されると、サーバは新規契約ユーザが変更されたことを認識し、契約責任者に割り当てるワークフローのタスクを作成します。

- 3 契約責任者は、ワークフローのタスクを確認します（ナビゲーションバーの「**資産ライフサイクル／インフラストラクチャ管理／ワークフローのタスク**」リンク）。

次に、契約責任者はウィザードを起動し（「**ウィザード**」ボタン）、ウィザードからASP Webサイトの管理ページにアクセスします（「**アプリケーションサービスの管理**」ボタン、Windowsクライアントのみで使用可能）。

- 4 契約責任者はこのWebサイトでアカウントを作成します。
- 5 Asset Managerウィザードで、（「**アカウントが変更されました。**」チェックボックスをオンにして）契約責任者はアカウントが変更されたことを示し、ウィザードを終了します（「**完了**」ボタン）。
- 6 Asset Manager Automated Process Managerの「実行グループ'**BST_ASP**'にワークフロー規則を適用」モジュールは、次回実行時にAsset Manager データベースの契約ユーザのステータスを更新します。

ステータスを確認するには：

- 1 契約を表示します（ナビゲーションバーの「**資産ライフサイクル／ITサービスと仮想化／ASP／アプリケーションサービス**」リンク）。
- 2 契約の詳細画面を表示します。
- 3 「**従業員**」タブを選択します。
- 4 契約ユーザの詳細画面を表示します。
「**ステータス**」 (seStatus) フィールドが「**未更新**」から「**更新済**」に変わります。
- 7 このワークフローからは、契約責任者により変更が行われたことを知らせるメッセージもユーザに送信されます。

ユーザアカウントを削除する

ユーザアカウントを削除するには：

- 1 Asset Managerデータベースで契約に含めるユーザを更新します。

- a 契約を表示します（ナビゲーションバーの**〔資産ライフサイクル／ITサービスと仮想化／ASP／アプリケーションサービス〕** リンク）。
- b 契約の詳細画面を表示します。
- c **〔従業員〕** タブを選択します。
- d 契約ユーザの詳細画面を表示します。
次のフィールドに値を入力します。

フィールドまたはリンク	値
ログイン (ASPLogin)	空

- 2 **〔実行グループ'BST_ASP'にワークフロー規則を適用〕** がAsset Manager Automated Process Managerで実行されると、サーバは契約ユーザが変更されたことを識別し、契約責任者に割り当てるワークフローのタスクを作成します。
- 3 契約責任者は、ワークフローのタスクを確認します（ナビゲーションバーの**〔資産ライフサイクル／インフラストラクチャ管理／ワークフローのタスク〕** リンク）。
次に、契約責任者はウィザードを起動し（**〔ウィザード〕** ボタン）、ウィザードからASP Webサイトの管理ページにアクセスします（**〔アプリケーションサービスの管理〕** ボタン、Windowsクライアントのみで使用可能）。
- 4 このWebサイトで契約責任者はアカウントを削除します。
- 5 Asset Managerウィザードで、（**〔アカウントが削除されました。〕** チェックボックスをオンにして）契約責任者はアカウントが削除されたことを示し、ウィザードを終了します（**〔完了〕** ボタン）。
- 6 Asset Manager Automated Process Managerの**〔実行グループ'BST_ASP'にワークフロー規則を適用〕** モジュールは、次回実行時にAsset Manager データベースの契約ユーザのステータスを更新します。
ステータスを確認するには：
 - 1 契約を表示します（ナビゲーションバーの**〔資産ライフサイクル／ITサービスと仮想化／ASP／アプリケーションサービス〕** リンク）。
 - 2 契約の詳細画面を表示します。
 - 3 **〔従業員〕** タブを選択します。
 - 4 契約ユーザの詳細画面を表示します。
〔ステータス〕 (seStatus) フィールドが**〔未更新〕** から**〔更新済〕** に変わります。
- 7 このワークフローからは、契約責任者により削除が行われたことを知らせるメッセージもユーザに送信されます。
- 8 次の手順で契約ユーザを削除することができます。

- **方法1：［ソフトウェアの管理］ウィザード（sysSamLauncher）を使用する**
 - a **［ソフトウェアの管理］ウィザードを起動します（ナビゲーションバーの［資産ライフサイクル／ソフトウェア資産管理／ユーザのアクション／ソフトウェアの管理...］リンク）。**
 - b **現在の契約が、ユーザアカウントを削除しようとしているASP契約であることを確認します。**
 - c **［ソフトウェアの管理アクションを選択...］ ページで、［ソフトウェアライセンスとインストールの管理］ オプションを選択します。**
 - d **［次へ］ をクリックします。**
 - e **［ライセンスおよびソフトウェアのインストール］ ページで、［ASPユーザを削除...］ ボタンをクリックします。**
 - f **これにより、［ASPユーザを削除...］（sysSamDelAspUsersFromCntr）ウィザードが開始します。必要に応じてウィザードに入力します。**
 - g **すべてのパラメータを確定します（［完了］ ボタン）。ウィザードが選択したユーザと契約の間のリンクを削除します。**
- **方法2：メニューを使用する**
 - a **契約を表示します（ナビゲーションバーの［資産ライフサイクル／ITサービスと仮想化／ASP／アプリケーションサービス］リンク）。**
 - b **契約の詳細画面を表示します。**
 - c **［従業員］ タブを選択します。**
 - d **ユーザと契約のリンクを削除します（Windowsクライアントでは  ボタン、Webクライアントでは［削除］ ボタン）。**

12 サービスレベルの管理

一般概念

サービスレベル管理の概要については、▶「サービスレベルアグリーメント [P. 29]」のセクションを参照してください。

サービスレベルを管理するには、次の手順を実行します。

- 1 初期実装 [P. 136]:
 - a ライセンス契約、モジュール、専門分野データ [P. 136]
 - 2 参照項目を作成する [P. 136]:
 - a サービスの作成 [P. 136]
 - b ダウンタイムの説明 [P. 136]
 - c 期間区分と期間の作成 [P. 136]
 - d 違約金の単価の作成 [P. 137]
 - 3 サービスレベル管理 [P. 137]:
 - a サービスレベルアグリーメントの作成 [P. 137]
 - b サービスレベル目標明細契約の作成 [P. 138]
 - c サービスレベル目標明細契約へのサービスレベル目標明細の追加 [P. 138]
- ▶ 計算方法については、「ダウンタイムと違約金の計算方法を理解する [P. 140]」のセクションを参照してください。
- ▶ 独自の計算方法を作成する方法については、「独自のダウンタイムおよび違約金経費付替え規則の作成 [P. 142]」のセクションを参照してください。

初期実装

ライセンス契約、モジュール、専門分野データ

サービスレベルの管理を始める前に、適切なライセンスを取得し、Windowsクライアントに必要なモジュールを起動し、特定の専門分野データをインポートする必要があります。

- ▶ この方法は、「[使用前の準備 \[P. 17\]](#)」の章で説明されています。

参照項目を作成する

サービスの作成

サービスレベルを定義する前に、サービス自体を作成する必要があります。

- ▶ サービスの作成方法については、『[ポートフォリオ](#)』ガイドの「[ビジネスサービス](#)」の章を参照してください。

ダウンタイムの説明

サービスの実効可用性を評価し、ダウンタイム違約金を計算する前に、サービスのダウンタイム期間を入力する必要があります。

- ▶ ダウンタイム期間の入力方法については、『[ポートフォリオ](#)』ガイドの「[ビジネスサービス](#)」の章、「[ビジネスサービスのリソースのダウンタイム](#)」のセクションを参照してください。

期間区分と期間の作成

サービスレベル目標明細契約では、ある期間区分の目標を定義します。

サービスレベル目標明細では、期間区分の各期間についてこれらの目標を定量化します。

サービスレベル目標明細契約やサービスレベル目標明細を作成する前に、期間区分と期間を作成する必要があるのはこのためです。

- ▶ 期間区分と期間の作成方法については、『[ファイナンス](#)』ガイドの「[経費](#)」の章を参照してください。

違約金の単価の作成

サービスレベル目標は、違約金の単価（サービスダウンタイムのインパクトを受ける従業員の時給など）を指定するときに製品情報にアクセスします。

このタイプの製品を作成するには：

- 1 製品を作成します（ナビゲーションバーの **【ポートフォリオ管理／カタログ／製品】** リンク）。
- 2 新規レコードを作成します。

サービスレベル管理には、次のフィールドとリンクが必要です。

フィールドまたはリンク の名前	フィールドまたはリンク のSQL名	値（特定の値が必要な場合）
【取得】タブ 表記価格	mPrice	サービスレベル目標明細の詳細画面で、 【計算方法】 （seSloRule）フィールドに 【サービス可用性の比率】 または 【サービスダウンタイムの長さ】 の値を入力した場合、 【表記価格】 フィールドは時間当たりの価格になります。 【その他】 を選択した場合は、定義した計算規則が使用されます（▶ 『独自のダウンタイムおよび違約金経費付替え規則の作成』 [P. 142]）。

他の製品の場合に調達サイクルで行なうその他のフィールドやリンクへの入力には必要はありません（▶ **『調達』** ガイドの **「カタログ」** の章）。

サービスレベル管理

サービスレベルアグリーメントの作成

サービスレベルアグリーメントを作成するには：

- 1 サービスレベルアグリーメントを表示します（ナビゲーションバーの **【資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／リース／リース明細】** リンク）。
- 2 新規レコードを作成します。

以下は、サービスレベル管理に固有のフィールドとリンクです。

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名	値（特定の値が必要な場合）
タイプ 【サービスレベル】タブ	seType	サービスレベルアグリーメント

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名	値（特定の値が必要な場合）
サービス	SlaAsset	

他の契約の場合と同様に、その他のフィールドとリンクに入力します（▶これを行なうには、このガイドの他の章とセクションを参照してください）。

サービスレベル目標明細契約の作成

サービスレベルアグリーメントを適用する各期間区分（暦年など）について、次の手順でサービスレベル目標明細契約を作成します。

- 1 サービスレベル目標明細契約を表示します（ナビゲーションバーの**【資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／サービスレベル／サービスレベル目標明細】**リンク）。
- 2 新規レコードを作成します。

サービスレベル管理には、次のフィールドとリンクが使用されます。

フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名	値（特定の値が必要な場合）
タイプ	seType	サービスレベル目標
【全般】 タブ		
コストタイプ	CostCategory	このリンクは、サービスレベル目標が達成されなかった場合、違約金経費付替えの経費明細のコストタイプに入力するために使用します。
【サービスレベル】 タブ		
期間区分	分割	
サービス	SlaAsset	
次のリンクに入力する前にレコードを作成する必要があります。		
サービスレベル目標明細	SloLines	期間区分の期間ごとにサービスレベル目標明細を追加します。 サービスレベル目標明細の詳細画面のフィールドやリンクの詳細については、フィールドとリンクの状況依存ヘルプを使用してください。

他の契約の場合と同様に、その他のフィールドとリンクに入力します（▶これを行なうには、このガイドの他の章とセクションを参照してください）。

サービスレベル目標明細契約へのサービスレベル目標明細の追加

期間区分の各期間（暦年の四半期など）について、次の手順でサービスレベル目標明細を作成します。

- 1 サービスレベル目標明細契約を表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/サービスレベル/サービスレベル目標明細]リンク）。
- 2 サービスレベル目標明細契約を選択します。
- 3 [サービスレベル目標契約に明細を追加]（sysSloAddLines）を起動します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/サービスレベル/ユーザのアクション/サービスレベル目標契約に明細を追加]リンク）。
- 4 ウィザードに入力し、[完了]をクリックします。

 ヒント:

サービスレベル目標明細の詳細画面のフィールドやリンクの詳細については、フィールドとリンクの状況依存ヘルプを使用してください。

予想したサービスレベルが達成されたかの確認、違約金の計算、経費付替えの作成

サービスレベル目標明細を確認して、予想したサービスレベルが達成されたかどうかを調べ、違約金を計算するには、次の手順に従います。

- 1 サービスレベル目標明細契約を表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/サービスレベル/サービスレベル目標明細]リンク）。
- 2 サービスレベル目標明細契約の詳細画面を表示し、評価します。
- 3 [サービスレベル] タブを表示します。
- 4 分析する期間に対応するサービスレベル目標明細を表示します。
- 5 その期間の実効可用性と超過したすべてのしきい金額を計算します（[超過金計算] ボタン）。
[超過金額]（tsChargedLostSecs）フィールドが更新されます。
その値を確認します。
- 6 サービスレベル目標が達成されなかった場合は、違約金金額を計算します（[違約金計算] ボタン）。
[違約金]（mPenalty）フィールドが更新されます。
その値を確認します。
- 7 [違約金]（mPenalty）フィールドの値に納得した場合は、[処理]（seStatus）フィールドの値を[計算済み]に設定します。
違約金金額の自動経費付替えがトリガされ、違約金金額が経費明細に表示されます。

経費明細		サービスレベル目標明細	
フィールドまたはリンクのラベル	入力されたフィールドまたはリンクのSQL名	使用されたフィールドまたはリンクのラベル	使用されたフィールドまたはリンクのSQL名
借方	mDebit	違約金	mPenalty
コストセンタ	CostCenter	コストセンタ	CostCenter

- 8 自動経費付替え操作が正常に実行された場合、**【処理】**（seStatus）フィールドは**【請求済み】**になり、**【発行日】**（dProcReq）フィールドの値は経費明細が作成された日付になります。

ダウタイムと違約金の計算方法を理解する

ここでは、「予想したサービスレベルが達成されたかの確認、違約金の計算、経費付替えの作成 [P. 139]」のセクションで概説されている各手順について、どのように計算がトリガされ、実行されるかを説明します。

- 1 サービスレベル目標明細契約を表示します（ナビゲーションバーの**【資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／サービスレベル／サービスレベル目標明細】**リンク）。
- 2 サービスレベル目標明細契約の詳細画面を表示し、評価します。
- 3 **【サービスレベル】**タブを表示します。
- 4 分析する期間に対応するサービスレベル目標明細を表示します。
表示されるときに、サービスレベル目標明細の詳細画面に表示される次の特殊フィールドが自動的に計算されます。
 - **実ダウタイム**（SloLostSecs）：サービスに適用される**【ダウタイム】**テーブルのレコードの対象となる期間中のダウタイムの秒数を計算します。この計算は、**【計算方法】**（seSloRule）フィールドの値によって異なります。
 - **許容ダウタイム**（SloAutLostSecs）：サービスレベル目標明細の情報の対象となる期間中のダウタイムの秒数を計算します。この計算は、**【計算方法】**（seSloRule）フィールドの値によって異なります。
 - **ダウタイムの見積り**（SloEstimatedAvailability）：**【ダウタイム】**テーブルの該当するレコードを使用し、全期間と累計ダウタイムからサービスが使用できた時間のパーセントを計算します。
 - **違約金見積**（SloEstChargedPenalty）：違約金の単価（HourlyPenaltyリンク）を許可されたしきい値を超えるダウタイム量に適用することにより、違約金金額を計算します。この計算は、**【計算方法】**（seSloRule）フィールドの値によって異なります。

特殊フィールドに使用されるスクリプトを調べ、それらのフィールドに対してどのような計算が行なわれるかを確認します。

- a 特殊フィールドを表示します（ナビゲーションバーの【管理／システム／特殊フィールド】リンク）。
 - b 特殊フィールドの詳細画面を表示して確認します。
 - c 【シンタックス】タブを表示します。
- 5 その期間の実効可用性と超過したすべてのしきい金額を計算します（【超過金計算】ボタン）。

計算は、【超過金額を計算】（sysSloUpdateChargedLostSecs）アクションによって実行されます。

スクリプトのアクションを調べ、特殊フィールドに対してどのような計算が行なわれるかを確認します。

 - a アクションを表示します（ナビゲーションバーの【管理／アクション】リンク）。
 - b アクションの詳細を表示します。
 - c 【スクリプト】タブを表示します。

【超過金額】（tsChargedLostSecs）フィールドが更新されます。
- 6 サービスレベル目標が達成されなかった場合は、違約金金額を計算します（【違約金計算】ボタン）。

計算は、【違約金を計算】（sysSloUpdateChargedPenalty）アクションによって実行されます。

スクリプトのアクションを調べ、特殊フィールドに対してどのような計算が行なわれるかを確認します。

【違約金】（mPenalty）フィールドが更新されます。
- 7 【違約金】（mPenalty）フィールドの値に納得した場合は、【処理】（seStatus）フィールドの値を【計算済み】に設定します。

変更を保存します。

これにより、【SLO明細の請求を有効にする】（BST_CNTR_SLO）ワークフロースキームが自動的にトリガされます。

このワークフロースキームでは、値【請求済み】が【処理】（seStatus）フィールドに割り当てられ、【発行日】（dProcReq）フィールドの値は経費明細が作成された日付になります。
- 8 【発行日】（dProcReq）を変更すると、違約金請求（SLOCOST）経費付替え規則がトリガされます。

この経費付替え規則により、経費明細が生成されます。

独自のダウンタイムおよび違約金経費付替え規則の作成

デフォルトでは、【計算方法】（seSloRule）フィールドが【サービス可用性の比率】または【サービスダウンタイムの長さ】（▶ [ダウンタイムと違約金の計算方法を理解する](#) [P. 140]）である場合、Asset Managerは可用性と違約金を計算できます。

これらの計算方法がユーザの環境に当てはまらない場合は、独自の計算方法を作成できます。

独自の計算方法は、【計算方法】フィールドのみを使用する代わりに、次のフィールドを組み合わせることによって識別されます。

フィールドまたはリンクのラベル	フィールドまたはリンクのSQL名	値（特定の値が必要な場合）
計算方法	seSloRule	その他
計算方法の説明	OtherSloRule	独自に作成した値

実装しようとしている計算方法の計算規則を定義するには、次のオブジェクトを変更する必要があります。

オブジェクトタイプ	オブジェクト名	オブジェクト識別子	実行するカスタマイズ
特殊フィールド	実ダウンタイム	SloLostSecs	次のような条件を追加： Elseif [seSloRule]=99 AND [OtherSloRule]= "<独自の計算方法の識別子>"
特殊フィールド	許容ダウンタイム	SloAutLostSecs	
特殊フィールド	違約金見積	SloEstChargedPenalty	
特殊フィールド	ダウンタイムの見積り	SloEstimatedAvaibility	
アクション	超過金額を計算	sysSloUpdateChargedLostSecs	
アクション	違約金を計算	sysSloUpdateChargedPenalty	
製品	単価当たりの違約金金額を定義する新しい製品を作成します（この単価を選択できます）。		

III 実用例

13 実用例

この章では、Asset Managerにおける以下の契約の管理方法を実用例を用いて説明します。

- メンテナンス契約を管理する [P. 146]
- 保険契約を管理する [P. 151]
- ASP契約を管理する [P. 151]
- サービスレベルの管理 [P. 135]
- サービスレベルの管理 [P. 159]

また、アラームの作成方法についても実用例を用いて説明します▶ [アラームを作成する \[P. 166\]](#)。

説明されている操作を、実用例を終了したときに入力するデモ用データベースで実行されることをお勧めします。

各手順は、ガイドで説明されている順に最後まで実行する必要があります。必要なフィールドとリンクだけが示されています。その他のフィールドとリンクは、独自に探究してください。

前提条件

実用例を活用するには、以下を実行しておく必要があります。

- 1 Asset Managerを起動します。
- 2 Asset Managerデモ用データベースに管理者 ("Admin") として接続する必要があります。パスワードは空です。
- 3 Windowsクライアントを使用している場合は、[\[ファイル/モジュールの管理...\]](#) メニューを使用して最小限のモジュール、つまりポートフォリオ、契約、ファイナンス、調達、および管理モジュールを有効にします。

モジュールの起動方法の詳細については、『**Tailoring**』ガイドの「**Customizing client computers**」、「**Customizing a client workstation**」の章、「**Activating the modules**」のセクションを参照してください。

メンテナンス契約を管理する

実用例について

このシナリオでは、Broca社とRodon社を用いています。

Broca社はRodon社とThompsonブランドコンピュータのメンテナンス契約を結びました。このコンピュータはCPUとモニタを装備しますが、CPUだけが契約の対象となっています。

このシナリオでは、Broca社は自社のデータベースに対するメンテナンス契約を保有し、一方のRodon社は契約対象のコンピュータに対して2種類の明確な作業指示（CPUとモニタに対してそれぞれ1つずつ）を出しました。

このシナリオの手順は次のとおりです。

- 1 ブランド「Thompson」を作成します。
- 2 属性を作成します（CPUとモニタ）。
- 3 モデルを作成します。
- 4 会社「Rodon」を作成します。
- 5 メンテナンス契約を作成します。
- 6 ポートフォリオ品目を作成します。
- 7 最初の作業指示を作成し、トラッキングします（CPU用）。
- 8 2番目の作業指示を作成し、トラッキングします（モニタ用）。



注意:

注：実用例を活用するには、各手順を指定されている順に最後まで実行する必要があります。

ユーザアカウントを使って接続する必要がある1つの手順を除き、Asset Manager デモ用データベースに管理者として接続する必要があります（ログイン：「Admin」、パスワードなし）。

手順1：ブランドを作成する

- 1 ブランドを表示します（ナビゲーションバーの「ポートフォリオ管理／カタログ／ブランド」リンク）。

- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	Thompson

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

手順2：属性を作成する

- 1 属性を表示します（ナビゲーションバーの［ポートフォリオ管理／資産構成／属性］リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - コンピュータ
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル (seOverflowTbl)	コンピュータ (amComputer)
管理条件 (seMgtConstraint)	固有資産タグ

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - モニタ
作成 (seBasis)	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル (seOverflowTbl)	(テーブルなし)
管理条件 (seMgtConstraint)	固有資産タグ

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

手順3：モデルを作成する

- 1 モデルを表示します（ナビゲーションバーの［ポートフォリオ管理／資産構成／モデル］リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - デスクトップ
ブランド (Brand)	Thompson

フィールドまたはリンク	値
属性 (Nature)	PC1 - コンピュータ

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC1 - モニタ
ブランド (Brand)	Thompson
属性 (Nature)	PC1 - モニタ

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

手順4：会社を作成する

- 1 会社を表示します（ナビゲーションバーの〔組織管理／組織／会社〕リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	Rodon

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

手順5：メンテナンス契約を作成する

- 1 契約を表示します（ナビゲーションバーの〔資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／契約〕リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
リファレンス (Ref)	PC1 - メンテナンス契約
タイプ (seType)	メンテナンス
契約ステータス (seStatus)	有効
有効期間 - 開始日 (dStart)	2011年1月1日
有効期間 - 終了日 (dEnd)	2011年12月31日

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

手順6：ポートフォリオ品目を作成する

- 1 ポートフォリオ品目を表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル／インフラストラクチャ管理／ポートフォリオ品目]リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC1 - デスクトップ
コード (Code)	PC1 - 001
[メンテナンス] タブ	
メンテナンス契約 (MaintContract)	PC1 - メンテナンス契約

フィールドまたはリンク	値
モデル (Model)	PC1 - モニタ
コード (Code)	PC1 - 002
親レコード (Parent)	Thompson PC1 - デスクトップ

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

手順7：最初の作業指示を作成しトラッキングする

- 1 作業指示を表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル／作業指示／作業指示]リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
作業指示番号 (WONo)	PC1 - 001
[全般] タブ	
資産 (Asset)	Thompson PC1 - デスクトップ
タイプ (seType)	契約メンテナンス

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。
- 4 契約を表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／契約]リンク）。
- 5 **PC1 - メンテナンス契約**の詳細画面を表示します。
- 6 [メンテナンス] タブを選択します。
作業指示**PC1 - 001**があります。
- 7 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

- 8 資産を表示します（ナビゲーションバーの〔資産ライフサイクル／インフラストラクチャ管理／資産〕リンク）。
- 9 資産**PC1 - デスクトップ**の詳細画面を表示します。
- 10 〔メンテナンス〕タブを選択します。
〔この資産の作業指示〕サブタブに作業指示**PC1 - 001**があります。
- 11 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。



警告:

作業指示とメンテナンス契約をリンクする自動処理が正しく機能するには、資産の詳細画面の〔メンテナンス〕タブにある〔メンテナンス契約〕リンクに必要な情報を入力しておく必要があります。

手順8：2番目の作業指示を作成しトラッキングする

- 1 作業指示を表示します（ナビゲーションバーの〔資産ライフサイクル／作業指示／作業指示〕リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
作業指示番号（WONo）	PC1 - 002
〔全般〕タブ	
資産（Asset）	Thompson PC1 - モニタ
タイプ（seType）	契約メンテナンス
〔トラッキング〕タブ、〔技術者〕サブタブ	
契約	空
業者のメンテナンス番号	PC1 - 001

- 3 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。
- 4 契約を表示します（ナビゲーションバーの〔資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／契約〕リンク）。
- 5 **PC1 - メンテナンス契約**の詳細画面を表示します。
- 6 〔メンテナンス〕タブを選択します。
作業指示**PC1 - 002**はそこにありません。
- 7 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。
- 8 資産を表示します（ナビゲーションバーの〔資産ライフサイクル／インフラストラクチャ管理／資産〕リンク）。
- 9 資産**PC1 - モニタ**の詳細画面を表示します。
- 10 〔メンテナンス〕タブを選択します。

- [この資産の作業指示] サブタブに作業指示**PC1 - 002**があります。
- 11 Windowsクライアント：すべてのウィンドウを閉じます。

保険契約を管理する

保険タイプの契約には、関連する特定の管理規則はありません。Asset Managerにおける契約管理の概要については、このガイドに記載されたその他の実例を参照してください。

ASP契約を管理する



警告:

このセクションの実用例は、Windowsクライアントのみを使用して実行できます。

実用例について

このシナリオでは、Broca社とSontay社の2社を使用します。

両者共にASPに契約に加入しており、Broca社が顧客、Sontay社がサービスプロバイダです。

Broca社のASP契約責任者（Mr Balck）はAsset Managerを使用して契約管理を行います。

Mr Ramiは、Broca社のアプリケーションのユーザ担当テクニカルサポートマネージャです。

このシナリオでは、Broca社で働くMs Dianisはユーザとしてアプリケーションにアクセスすることを希望しています。次に、彼女はアプリケーションの使用に関する技術的な質問をするため、ASPに接続します。その後、Ms Dianisは退職することになったため、そのアプリケーションのユーザリストから削除されます。その処理のために、Mr Ramiはアプリケーションの再設定を行います。

このシナリオの手順は次のとおりです。

- 1 Sontay社を作成します。
- 2 従業員を作成します（Mr Black、Mr Rami、Ms Dianis）。
- 3 ASP契約を作成します。
- 4 Asset Manager Automated Process Managerの【実行グループ'BST_ASP'にワークフロー規則を適用】モジュールを実行します。
- 5 契約用のユーザアカウントを作成します。

- 6 Ms Dianisはアプリケーションサービスに接続し、テクニカルサポートに電子メールを送ります。
- 7 Mr BlackがMs Dianisのアカウントを削除します。
- 8 Mr Ramiがアプリケーションを再設定します。



注意:

注：実用例を活用するには、各手順を指定されている順に最後まで実行する必要があります。

特定の手順で別のユーザアカウントを使って接続するように特に指示されている場合を除き、Asset Managerデモ用データベースに管理者として接続する必要があります（ログイン：「Admin」、パスワードなし）。

前提条件：ASP専門分野データをインポートする

- 1 Asset Manager Windowsクライアントを起動します。
- 2 デモ用データベースに接続します。

フィールド	値
ログイン	Admin
パスワード	空

- 3 [ファイル／インポート] メニューを選択します。
- 4 [スクリプトの実行] をクリックします。
[インポートスクリプトの実行] ウィンドウが表示されます。
- 5 [実行するスクリプト] フィールドの右にある [フォルダ] アイコンをクリックします。
- 6 「asp.scr」ファイルを選択し、[インポート] をクリックします。
このファイルは、デフォルトではC:\Program Files\HP\Asset Manager 9.30xx\datakit\bestpracフォルダにあります。
- 7 ウィンドウを閉じます。
この手順を実行すると、必要なワークフローとアクションを含む専門分野データがAsset Managerにインポートされます。

手順1：Sontay社を作成します

- 1 会社を表示します（ナビゲーションバーの [組織管理／組織／会社] リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC4 - Sontay

- すべてのウィンドウを閉じます。

手順2：従業員を作成する

- 従業員を表示します（ナビゲーションバーの【組織管理／組織／従業員】リンク）。
- 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC4 - Black
役職 (Title)	契約責任者

注意:

【値'XXX'をリストデータ'YYY'に追加しますか?】という質問が表示されたら、【はい】をクリックします。

【プロフィール】タブ	
ユーザ名 (UserLogin)	aspblack
パスワード (LoginPassword)	黒
管理者権限 (bAdminRight)	このボックスをチェックします。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC4 - Rami
役職 (Title)	テクニカルサポートマネージャ

注意:

【値'XXX'をリストデータ'YYY'に追加しますか?】という質問が表示されたら、【はい】をクリックします。

【プロフィール】タブ	
ユーザ名 (UserLogin)	asprami
パスワード (LoginPassword)	rami
管理者権限 (bAdminRight)	このボックスをチェックします。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC4 - Dianis
【プロフィール】タブ	
ユーザ名 (UserLogin)	aspdianis
パスワード (LoginPassword)	dianis

フィールドまたはリンク	値
管理者権限 (bAdminRight)	このボックスをチェックします。

- すべてのウィンドウを閉じます。

Step 3 : ASP契約を作成する

契約

- 以下を使用し、Mr Blackとしてデモ用データベースに接続します（[ファイル/データベースに接続] メニュー）。

フィールド	値
ログイン	aspblack
パスワード	黒

- ASP契約を表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/ITサービスと仮想化/**ASP**/アプリケーションサービス] リンク）。
- 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
リファレンス (Ref)	PC4 - REF001
アプリケーションタイプ (seASPTType)	ASP
ネットワークアクセス (seASPAccessType)	インターネット
[全般] タブ	
責任者 (Supervisor)	Pc4 - Black
会社 (Company)	PC4 - Sontay
アプリケーションのURL (ASPConnectionURL)	http://www.hp.com/#Product
管理URL (ASPUserRegURL)	www.hp.com/go/hpsoftwaresupport
テクニカルサポート (ASPEmail)	support@sontay.com
技術担当者 (TechCnct)	Pc4 - Rami
[作成] をクリックします。	
[従業員] タブ：契約ユーザを追加します (+ボタン)。	
ユーザ (User)	Pc4 - Rami
ログイン (ASPLogin)	asprami
プロフィール (Profile)	Administrator

注意:

「値'XXX'をリストデータ'YYY'に追加しますか?」という質問が表示されたら、[はい] をクリックします。

[追加] をクリックします。

フィールドまたはリンク	値
[従業員] タブ： 契約に別のユーザを追加します (✚ ボタン)。	
ユーザ (User)	Pc4 - Dianis
ログイン (ASPLLogin)	aspdianis
プロフィール (Profile)	ユーザ

注意:

【値'XXX'をリストデータ'YYY'に追加しますか?】という質問が表示されたら、【はい】をクリックします。

[追加] をクリックします。



注意:

ユーザの詳細画面の [ステータス] (seStatus) フィールドは、アプリケーションサービス管理者がユーザアカウントを登録するまで [未作成] に設定されています。

- 4 [変更] をクリックします。
- 5 [契約] ボタンをクリックします。
これで、ASP契約の使用条件にアクセスすることができます。
- 6 すべてのウィンドウを閉じます。

手順4：Asset Manager Automated Process Managerの [実行グループ'BST_ASP'にワークフロー規則を適用] モジュールを実行します。

- 1 Asset Manager Automated Process Managerを起動します。
- 2 「Admin」としてデモ用データベースに接続します（[ファイル/データベースに接続] メニュー）。
注： このログインのパスワードはありません。
- 3 [アクション/起動] メニュー選択します。
- 4 [実行グループ'BST_ASP'にワークフロー規則を適用] モジュールを選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

手順5：契約用のユーザアカウントを作成する

- 1 Asset Manager Windowsクライアントに戻ります。
- 2 Mr Blackに割り当てるワークフローのタスクを表示します（ナビゲーションバーの [資産ライフサイクル/インフラストラクチャ管理/ワークフローのタスク] リンク）。

【アクティビティ】列に両方のタスクの【ユーザアカウントの管理】が表示されます。

- 3 【ウィザード】 ボタンをクリックします。
- 4 新規ウィンドウで、【アプリケーションサービスの管理】をクリックします。
- 5 シナリオの内容に応じて、インターネットサポートページ www.hp.com/go/hpsoftwaresupport が自動的に開きます。ここでは、ASP契約の管理ページに接続していると仮定します。
- 6 Asset Manager Windowsクライアントに戻ります。
- 7 作成ウィンドウで【アカウントが作成されました。】チェックボックスを選択します。
- 8 【完了】、【OK】の順にクリックします。
- 9 他のワークフローアクティビティにこの操作を繰り返します。
- 10 【閉じる】をクリックします。
- 11 Asset Manager Automated Process Managerに戻ります。
- 12 【アクション／起動】メニュー選択します。
- 13 【実行グループ'BST_ASP'にワークフロー規則を適用】モジュールを選択します。
- 14 【OK】をクリックします。
- 15 Asset Manager Windowsクライアントに戻ります。
- 16 ASP契約**PC4-REF001**の詳細画面を表示します（ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル／ITサービスと仮想化／ASP／アプリケーションサービス】リンクから【リファレンス】（Ref）フィールド）。
- 17 【従業員】タブページでユーザRamiの詳細画面、次にDianisの詳細画面にアクセスします。両方のユーザの【ステータス】（seStatus）フィールドは、【未作成】から【更新済】に変わっています。
- 18 すべてのウィンドウを閉じます。

手順6：Mrs. Dianisはアプリケーションサービスに接続し、テクニカルサポートに電子メールを送る

- 1 以下を使用し、Mrs Dianisとしてデモ用データベースに接続します（【ファイル／データベースに接続】メニュー）。

フィールド	値
ログイン	aspdianis
パスワード	dianis

- 2 従業員を表示します（ナビゲーションバーの【組織管理／組織／従業員】リンク）。

- 3 **Pc4 - Dianis**の詳細画面を表示します。
- 4 **【アプリケーションサービス】** タブに、Ms DianisがアクセスできるASP契約が表示されます。
- 5 アプリケーションサービスに接続するには：
契約の明細で**【PC4-REF001】**を右クリックし、**【アクション／アプリケーションサービスに接続】**を選択します。
- 6 サポートに電子メールを送信するには：
 - 1 **PC4-REF001** 契約明細をダブルクリックします。
[契約に含まれる従業員] ウィンドウが表示されます。
 - 2 **【契約】** フィールドの編集ゾーンを右クリックし、**【アクション／テクニカルサポートに電子メールを送信】** メニューを選択します。
メッセージシステムにより、サポートチームに送信する新しいメッセージウィンドウが表示されます。
- 7 すべてのウィンドウを閉じます。

手順7：Mr BlackがMrs. Dianisのアカウントを削除する

- 1 以下を使用し、ASP契約管理者のMr Blackとしてデモ用データベースに接続します（**【ファイル／データベースに接続】** メニュー）。

フィールド	値
ログイン	aspblack
パスワード	黒

- 2 契約を表示します（ナビゲーションバーの**【資産ライフサイクル／ITサービスと仮想化／ASP／アプリケーションサービス】** リンク）。
- 3 ASP契約の詳細画面を表示します。
- 4 **【従業員】** タブで、ユーザ'Dianis' をダブルクリックします。



警告:

[従業員] タブページにアプリケーションサービスの登録ユーザと管理者が表示されます。予防措置としてAsset Managerでは、をクリックするだけでは従業員を削除できないようになっています。削除するときは次の手順でその可否を確定する必要があります。

- 5 **【ログイン】** (ASPLogin) フィールドには何も入力しないで、**【変更】** をクリックします。
【ステータス】 (seStatus) フィールドの表示は**【更新済】** のままになります。

- 6 Asset Manager Automated Process Managerに戻ります。
- 7 [アクション／起動] メニュー選択します。
- 8 [実行グループ'BST_ASP'にワークフロー規則を適用] モジュールを選択します。
- 9 [OK] をクリックします。
- 10 Asset Manager Windowsクライアントに戻ります。
- 11 Mrs Dianisの詳細画面を更新します（[F5] キーを押す）。
[ステータス]（seStatus）フィールドの表示は[未更新]になります。
- 12 Mr Blackに割り当てるワークフローのタスクを表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル／インフラストラクチャ管理／ワークフローのタスク] リンク）。
[アクティビティ] 列に[ユーザアカウントの管理] が表示されます。
- 13 [ウィザード] ボタンをクリックします。
- 14 新しいウィザードのウィンドウで、[アプリケーションサービスの管理] をクリックします。
- 15 処理中のページを終了し、ウィザードの[アカウントが削除されました。] チェックボックスを選択します。
- 16 [完了]、[OK]、[閉じる] の順にクリックします。
- 17 Asset Manager Automated Process Managerに戻ります。
- 18 [アクション／起動] メニュー選択します。
- 19 [実行グループ'BST_ASP'にワークフロー規則を適用] モジュールを選択します。
- 20 [OK] をクリックします。
- 21 Asset Manager Windowsクライアントに戻ります。
- 22 Mrs Dianisの詳細画面を更新します（[F5] キーを押す）。
[ステータス]（seStatus）フィールドの表示は[更新済]になります。

手順8：Mr. Ramiがアプリケーションを再設定する

Mr Ramiとしてデータベースに接続します。次の2つの方法があります。

- 1 ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル／ITサービスと仮想化／ASP／アプリケーションサービス] リンクで、ASP契約を右クリックし、ショートカットメニューから[アクション／アプリケーションサービスの管理] を選択します。
- 2 ナビゲーションバーの[組織管理／組織／従業員] リンクから、左側のウィンドウでMr Ramiを選択します。これにより、Mr Ramiの詳細にアクセスします。

【アプリケーションサービス】タブで、ASP契約を右クリックし、ショートカットメニューから【アクション／アプリケーションサービスの管理】を選択します。

サービスレベルの管理

実用例について

ソフトウェア会社は、従業員がアクセスするAsset Manager Webサービスを実装します。Asset Manager Webは、ユーザがAsset Manager Webインタフェースにアクセスするのを可能にするサービスです。

このサービスは、サービスのユーザとの間のサービスレベルアグリーメントの目標です。少なくとも100ユーザが全体の90%の時間、サービスを使用できなければなりません。

サービスレベルは、2011年の四半期ごとに評価されます。

サーバは、メンテナンスの実施により、2011年2月1日から2月11日まで80%が使用できなくなります。

これはサービスレベルアグリーメントに違反するため、IT部署に違約金が請求されます。

ビジネスサービスを表す資産の作成

この手順では、サービスレベルアグリーメントの対象であるビジネスサービスを作成します。

属性の作成

- 1 属性を表示します（ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理／資産構成／属性】リンク）。
- 2 次の値を使って新規レコードを作成します。

フィールドまたはリンクのラベル	フィールドまたはリンクのSQL名	値
名前	Name	000/ビジネスサービス
【全般】タブ		
作成	seBasis	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル	OverflowTbl	テーブルなし
管理条件	seMgtConstraint	固有資産タグ

フィールドまたはリンクのラベル	フィールドまたはリンクのSQL名	値
ビジネスサービス	bSystem	このボックスをチェックします。

モデルの作成

- 1 モデルを表示します（ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理／資産構成／モデル】リンク）。
- 2 次の値を使って新規レコードを作成します。

フィールドまたはリンクのラベル	フィールドまたはリンクのSQL名	値
名前	Name	000/Asset Manager Webビジネスサービス
[全般] タブ		
属性	Nature	000/ビジネスサービス

資産の作成

- 1 資産を表示します（ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル／インフラストラクチャ管理／資産】リンク）。
- 2 次の値を使って新規レコードを作成します。

フィールドまたはリンクのラベル	フィールドまたはリンクのSQL名	値
モデル	Model	000/Asset Manager Webビジネスサービス

会計年度、期間区分、期間の作成

この手順では、ビジネスサービスの可用性の分析に使用する参照期間を作成します。

- 1 会計年度を表示します（ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル／IT財務管理／予算／会計年度】リンク）。
- 2 次の値を使って新規レコードを作成します。

フィールドまたはリンクのラベル	フィールドまたはリンクのSQL名	値
名前	Name	000/Fiscal Year 2011
[全般] タブ		
開始	dStart	2011年1月1日

フィールドまたはリンクのラベル	フィールドまたはリンクのSQL名	値
終了	dEnd	2011年12月31日

- 3 作成内容を確定します（Windowsクライアントでは【作成】ボタン、Webクライアントでは【保存】ボタン）。
- 4 【期間区分】タブを選択します。今作成したばかりの会計年度には、まだ期間区分がありません。
- 5 次の値を使って作成したばかりの会計年度に期間区分を追加します（Windowsクライアントでは+ボタン、Webクライアントでは【追加】ボタン）。

フィールドまたはリンクのラベル	フィールドまたはリンクのSQL名	値
名前	Name	000/2011

- 6 期間区分を追加します（Windowsクライアントでは【追加】ボタン、Webクライアントでは【OK】ボタン）。
- 7 会計年度に加えた変更を保存します（Windowsクライアントでは【変更】ボタン、Webクライアントでは【保存】ボタン）。
- 8 会計年度の詳細画面の【期間区分】タブで【000/2011】期間区分の詳細を表示します。
- 9 ここで、期間区分に関連付けられる期間を作成します。実用例のデータに応じて、これらの期間は四半期になります。したがって、4つの別々の期間を作成します。
- 10 【期間】タブを選択します。
- 11 期間を追加します（Windowsクライアントでは+ボタン、Webクライアントでは【追加】ボタン）。
- 12 次のフィールドに値を入力します。

フィールドまたはリンクのラベル	フィールドまたはリンクのSQL名	値
名前	Name	000/Quarter 1（000/第1四半期）
【全般】タブ		
開始	dStart	2011年1月1日
終了	dEnd	2011年3月31日

- 13 期間を追加します（Windowsクライアントでは【追加】ボタン、Webクライアントでは【OK】ボタン）。
- 14 手順9から11を繰り返して000/第2四半期、000/第3四半期、および000/第4四半期を作成します。

コストセンタの作成

この手順では、違約金を請求するときに割り当てるコストセンタを作成します。

- 1 コストセンタを表示します（ナビゲーションバーの **〔資産ライフサイクル／IT財務管理／コストトラッキング／コストセンタ〕** リンク）。
- 2 次の値を使って新規レコードを作成します。

フィールドまたはリンクのラベル	フィールドまたはリンクのSQL名	値
タイトル	Title	000/IT department（000/IT部署）

コストタイプの作成

この手順では、違約金を請求するときに割り当てるコストタイプを作成します。

- 1 コストタイプを表示します（ナビゲーションバーの **〔資産ライフサイクル／IT財務管理／コストトラッキング／コストタイプ〕** リンク）。
- 2 次の値を使って新規レコードを作成します。

フィールドまたはリンクのラベル	フィールドまたはリンクのSQL名	値
タイトル	Title	000/違約金

違約金の単価の作成

この手順では、違約金の単価を定義します。

- 1 製品を作成します（ナビゲーションバーの **〔ポートフォリオ管理／カタログ／製品〕** リンク）。
- 2 次の値を使って新規レコードを作成します。

フィールドまたはリンクのラベル	フィールドまたはリンクのSQL名	値
詳細	Description	000/Hourly rate per employee （000/従業員あたりの時給）
〔取得〕 タブ		

フィールドまたはリンクのラベル	フィールドまたはリンクのSQL名	値
表記価格	mPrice	100

サービスレベルアグリーメントの作成

この手順では、IT部署とユーザを結合し、サービスレベルアグリーメントを作成します。

- 1 サービスレベルアグリーメントを表示します（ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／リース／リース明細】リンク）。
- 2 次の値を使って新規レコードを作成します。

フィールドまたはリンクのラベル	フィールドまたはリンクのSQL名	値
リファレンス	Ref	000/SLA (000/SLA)
タイプ	seType	サービスレベルアグリーメント
【サービスレベル】 タブ		
サービス	SlaAsset	【PC_Asset Manager Webビジネスサービス】レコードを選択

サービスレベル目標明細契約の作成

この手順では、2011年のサービスレベル目標明細契約を作成します。

- 1 サービスレベル目標明細契約を表示します（ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／サービスレベル／サービスレベル目標明細】リンク）。
- 2 次の値を使って新規レコードを作成します。

フィールドまたはリンクのラベル	フィールドまたはリンクのSQL名	値
リファレンス	Ref	000/SLO
タイプ	seType	サービスレベル目標
【全般】 タブ		
コストタイプ	CostCategory	【000/違約金】レコードを選択
【サービスレベル】 タブ		
期間区分	分割	【000/Fiscal year 2011: 000/2011】レコードを選択

フィールドまたはリンクのラベル	フィールドまたはリンクのSQL名	値
サービス	SlaAsset	[PC_Asset Manager Webビジネスサービス] レコードを選択

サービスレベル目標明細の追加

この手順では、2011年の各四半期の可用性目標を作成します。

- 1 サービスレベル目標明細契約を表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/サービスレベル/サービスレベル目標明細]リンク）。
- 2 [000/SLO] サービスレベル目標明細契約を選択します。
- 3 [サービスレベル目標契約に明細を追加]（sysSloAddLines）を起動します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/サービスレベル/ユーザのアクション/サービスレベル目標契約に明細を追加]リンク）。
- 4 次のようにウィザードに入力します。

タイトル	値
[目標明細の作成方法を選択] 明細ページ	
新規作成	このオプションを選択
[違約金計算方法を選択] ページ	
コストセンタ	[000/IT部署] レコードを選択
計算方法	サービス可用性の比率
契約に関連する各期間区分の明細を作成	この選択ボックスをオンにする
[違約金計算方法に関するパラメータを入力] ページ	
違約金の単価	[000/従業員あたりの時給] を選択
可用性	90%
最大ユーザ数	100
違約金の最高額	10000

ダウンタイムの作成

この手順では、2011年2月1日から2月9日までのビジネスサービスのダウンタイムを指定します。

- 1 ダウンタイムを表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/ITサービスと仮想化/ビジネスサービス/ダウンタイム]リンク）。
- 2 次の値を使って新規レコードを作成します。

フィールドまたはリンクのラベル	フィールドまたはリンクのSQL名	値
[全般] タブ		
開始	dtStart	2011年2月1日
終了	dtEnd	2011年2月11日
資産の実際の可用性	pAvail	20%
インパクトのあるユーザ数	lImpactUsers	120
資産	資産	[PC Asset Manager Webビジネスサービス] レコードを選択

予想したサービスレベルが達成されたかの確認、違約金の計算、経費付替えの作成

- 1 サービスレベル目標明細契約を表示します（ナビゲーションバーの[資産ライフサイクル/ベンダ契約管理/サービスレベル/サービスレベル目標明細]リンク）。
- 2 [000/SLO] サービスレベル目標明細契約の詳細画面を表示します。
- 3 [サービスレベル] タブを表示します。
- 4 第1四半期期間に対応するサービスレベル目標明細を表示します。
- 5 その期間の実効可用性と超過したすべてのしきい金額を計算します（[超過金計算] ボタン）。
[超過金額]（tsChargedLostSecs）フィールドが更新されます。
その値を確認します。
- 6 サービスレベル目標が達成されなかったため、違約金金額を計算します（[違約金計算] ボタン）。
[違約金]（mPenalty）フィールドが更新されます。
その値を確認します。
- 7 [違約金]（mPenalty）フィールドの値が適切であるため、[処理]（seStatus）フィールドの値を[計算済み]に設定します。
- 8 変更を保存します（Windowsクライアントでは[変更] ボタン、Webクライアントでは[保存]）。
違約金金額の自動経費付替えがトリガされ、違約金金額が経費明細に表示されます。
- 9 自動経費付替え操作が正常に実行された場合、[処理]（seStatus）フィールドは[請求済み]になり、[発行日]（dProcReq）フィールドの値は経費明細が作成された日付になります。

- 10 サービスレベル目標明細契約を表示します（ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／サービスレベル／サービスレベル目標明細】リンク）。
- 11 【000/SLO】 契約を表示します。
- 12 【コスト】 タブページを表示します。
- 13 経費明細【違約金請求: 000/Fiscal year 2007/ 000/2007: 000/四半期 1-000/SLO ()】 の詳細画面を表示します。
経費明細を確認します。

アラームを作成する



警告:

このセクションの実用例は、Windowsクライアントのみを使用して実行できます。



注意:

アラームプロセスについてわかりやすく説明するために、この実用例では期限が超過している契約を使用します。

実用例について

このシナリオでは、Broca社とTchesco社を用います。

Broca社はTchesco社とは「その他の」タイプの契約を結んでいます。

この契約は2005年1月1日から2005年12月31日まで有効であり、契約終了の通知は契約満了日の2ヶ月前までに行う必要があります。

このシナリオでは、Broca社は社内データベースに「その他の」タイプの契約を登録しており、期間満了の70日前にアラームをトリガするようにAsset Managerを設定します。このアラームは、Asset Managerメッセージシステムを用いた電子メール通知形式で、まず契約責任者であるMr.Postに送られ、次に彼のマネージャであるMr.Rissou（法務部長）に送られます。

このシナリオの手順は次のとおりです。

- 1 Mr Rissouを作成します。
- 2 法務部を作成します（責任者はMr Rissou）。
- 3 Mr Postを作成します。
- 4 Tshesco社を作成します。
- 5 「契約責任者とそのマネージャに通知」アクションを作成します。

- 6 Tscesco社との契約を作成します。
- 7 アラームを作成します。

 注意:

注：実用例を活用するには、各手順を指定されている順に最後まで実行する必要があります。

特定の手順で別のユーザアカウントを使って接続するように特に指示されている場合を除き、Asset Managerデモ用データベースに管理者として接続する必要があります（ログイン：「Admin」、パスワードなし）。

手順1：Mr Rissouを作成します。

- 1 従業員を表示します（ナビゲーションバーの[組織管理／組織／従業員]リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC5 Rissou
役職 (Title)	法務部長
注意: [値'XXX'をリストデータ'YYY'に追加しますか?] という質問が表示されたら、[はい] をクリックします。	
[プロフィール] タブ	
ユーザ名 (UserLogin)	rissou
パスワード (LoginPassword)	なし
注意: 変更内容をすべて保存すると、空のパスワード*****が表示されます。	
管理者権限 (bAdminRight)	このボックスをチェックします。

- 3 すべてのウィンドウを閉じます。

手順2：法務部を作成する

- 1 部署を表示します（ナビゲーションバーの[組織管理／組織／部署]リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC5 - 法務
責任者 (Supervisor)	PC5 Rissou

- 3 すべてのウィンドウを閉じます。

手順3 : Mr Postを作成する

- 1 従業員を表示します（ナビゲーションバーの【組織管理／組織／従業員】リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC5 Post
役職 (Title)	契約責任者
注意: [値'XXX'をリストデータ'YYY'に追加しますか?]という質問が表示されたら、【はい】をクリックします。	
部署 (Parent)	PC5 - 法務
【プロフィール】 タブ	
ユーザ名 (UserLogin)	post
パスワード (LoginPassword)	なし
注意: [値'XXX'をリストデータ'YYY'に追加しますか?]という質問が表示されたら、【はい】をクリックします。	
管理者権限 (bAdminRight)	このボックスをチェックします。

- 3 すべてのウィンドウを閉じます。

手順4 : Tchesco社を作成する

- 1 会社を表示します（ナビゲーションバーの【組織管理／組織／会社】リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	Tchesco

- 3 すべてのウィンドウを閉じます。

手順5：アクションを作成する

- 1 アクションを表示します（ナビゲーションバーの【管理／アクション】リンク）。
- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC5 - 契約責任者に通知する
コンテキスト (ContextTable)	契約 (amContract)
タイプ (seActionType)	メッセージ
SQL名 (SQLName)	PC5_01
メニューに表示	このボックスをチェックします。
【メッセージ】 タブページ	
受信者 (MsgTo)	AM:[Supervisor.UserLogin]
件名 (Subject)	契約は [dEnd] 日に期間満了となります。

フィールドまたはリンク	値
名前 (Name)	PC5 - 契約責任者の、部署での責任者に通知する
コンテキスト (ContextTable)	契約 (amContract)
タイプ (seActionType)	メッセージ
SQL名 (SQLName)	PC5_02
メニューに表示	このボックスをチェックします。
【メッセージ】 タブページ	
受信者 (MsgTo)	AM:[Supervisor.Parent.Supervisor.UserLogin]
件名 (Subject)	契約は [dEnd] 日に期間満了となります。
メッセージ (memMsgText)	契約責任者である [Supervisor.MrMrs] [Supervisor.Name] が通知メッセージをまだ読んでいない場合に、このメッセージを受け取ります。

- 3 すべてのウィンドウを閉じます。

手順6：契約を作成する

- 1 契約を表示します（ナビゲーションバーの【資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／契約】リンク）。

- 2 次の表に示すようにフィールドとリンクに値を入力してレコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
リファレンス (Ref)	PC5 - 001
タイプ (seType)	その他
契約ステータス (seStatus)	有効
責任者 (Supervisor)	PC5 Post
支払属性 (sePayType)	賃貸料
開始日 (dStart)	グラフィックカレンダーを使って次の日付を選択します。 2005/01/01
終了日 (dEnd)	グラフィックカレンダーを使って次の日付を選択します。 2005/12/31

- 3 すべてのウィンドウを閉じます。

手順7：アラームを作成する

- 1 契約を表示します（ナビゲーションバーの「資産ライフサイクル／ベンダ契約管理／契約」リンク）。
- 2 前の手順で作成した**CP5-001**契約を選択します。
- 3 「終了日」(dEnd) フィールドの右にある🗓️アイコンをクリックします（契約の詳細画面の「全般」タブ）。
アラーム作成ウィンドウが表示されます。
- 4 次のテーブルで示すようにフィールドとリンクに必要な情報を入力します。

フィールドまたはリンク	値
アラーム日	このボックスをチェックします。
トリガ	70日前
アクション	PC5 - 契約責任者に通知する
第2レベル	このボックスをチェックします。
トリガ	65日前
アクション	PC5 - 契約責任者の、部署での責任者に通知する

- 5 「**OK**」、**「変更」**の順にクリックします。
- 6 Asset Manager Automated Process Managerを起動します。
- 7 「**Admin**」としてデモ用データベースに接続します（「**ファイル／データベースに接続**」メニュー）。
関連パスワードは空のままです。

- 8 【アクション／起動】メニュー選択します。
- 9 【アラームの検証】モジュールを選択します。
- 10 【OK】をクリックします。
- 11 Asset Manager Windowsクライアントに戻ります。
- 12 以下を使用し、Mr Rissouとしてデモ用データベースに接続します（【ファイル／データベースに接続】メニュー）。

フィールド	値
ログイン	riissou
パスワード	空

- 13 未読のメッセージがあることを知らせるメッセージが表示されます。

- 14 【はい】、【次へ】の順にクリックし、メッセージを読みます。

作成しておいたアラームメッセージが表示されます。Asset Manager が通知期間の70日を超過したことを検出すると、初期メッセージがまずMr Post に送信されます。Asset Managerが契約期間満了まで65日を切り、Mr Postがまだアラームメッセージを読んでいないことを検出すると、次のメッセージがMr Rissouに送信されます。

【参照オブジェクト】をクリックします。契約PC5-001の詳細ウィンドウが自動的に開きます。

- 15 【完了】をクリックして、【メッセージを読む】ウィザードを閉じます。

IV 付録

14 用語解説

検収

借主による資産の検収は、リース手続きの中で重要な処理手続きで、借主と貸主との間で契約ドキュメント（検収書、英語で**Certificate of Acceptance**と呼ばれます）が交換されます。

検収により、賃貸料の支払い義務が発生します。

これらのオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベーステーブル
資産（amAsset）

サービスレベルアグリーメント（SLA）

サービスレベルアグリーメントとは、IT部署（プロバイダ）とそのクライアント間で文書化される契約です。

これは、両当事者の目標と責任を定義します。

このアグリーメントの対象は、任意のサービス（およびそのすべてのユーザ）、任意のユーザグループ（およびそれらのすべてのサービス）、またはこの両方の組み合わせです。

各サービスに**サービスレベルアグリーメント**とサービスのクライアントが定義されます。

各サービスレベルアグリーメントには、1つまたは複数のサービスレベル目標明細契約（SLO）があります。サービスレベルアグリーメントが定義された期間区分ごとに、サービスレベル目標明細契約が1つ作成されます。

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

amContract (契約)

料率

料率は、契約の賃貸料計算の計算式で使用されます。

契約賃貸料 = 契約賃貸料の値 × 料率

料率は、リースする資産のタイプに応じて異なります。これは、契約上で定義されます。

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

資産の賃貸料（amAssetRent）

契約賃貸料（amCntrRent）

一括発注

【一括発注】タイプの契約では、購入者は指定された期間内に指定された最低金額分の製品を購入しなければなりません。

期限までに最低金額に達しない場合は、購入者に罰則が課されます。

これらのオブジェクトを記述するAsset Managerデータベーステーブル

契約（amContract）

契約

Asset Managerでは、取引先との間で締結された契約を管理できます。

1つの契約に複数の契約を関連付けることができます。

例

Asset Managerでは、以下の種類の契約を管理できます。

- マスターリース

- リース明細
- メンテナンス
- 保険
- ライセンス
- 一括発注
- サービスレベルアグリーメント
- サービスレベル目標
- その他

これらのオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベーステーブル
契約（amContract）

サービスレベル目標明細契約（SLO）

それぞれのサービスレベルアグリーメントには、1つまたは複数のサービスレベル目標明細契約があります。サービスレベルアグリーメントが定義された期間区分ごとに、サービスレベル目標明細契約が1つ作成されます。

各サービスレベル目標明細契約は、サービスレベル目標明細から構成されます。契約の期間区分を構成する期間ごとに、1つのサービスレベル目標明細があります。

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル
契約（amContract）

マスターリース

マスターリースでは、リースする資産に関する一般的な条項と条件、および貸主と借主の関係を定義します。

リース明細タイプの契約の作成の基準（テンプレート）になります。

資産と賃貸料は、マスターリースでは定義しません。これらの情報については、個々のリース明細で詳しく定義します。

これらのオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベーステーブル
契約（amContract）

リース明細

リース明細は、マスターリースの内容を実際にリース物件に適用した明細です。リース明細にはマスターリースの多くの情報が継承されるほか、物件のリスト、賃貸料および重要期日などが指定されます。

これらのオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベーステーブル
契約（amContract）

ローン

リース契約で資産を調達すると、資金のローンが必要な場合もあります。**Asset Manager**ではローンの詳細情報を入力し、返済（元金、利子、手数料）を管理することができます。

関連用語

▶ 貸付業者 [P. 183]

これらのオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベーステーブル
ローン（amLoan）

支払期日

賃貸料の支払期日。

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル
資産の賃貸料（amAssetRent）
契約賃貸料（amCntrRent）

期間満了

期間満了時には、借主は通常、リース物件の購入、返却、更新などのオプションを選択することができます。

買い取りオプション

大多数の契約書には、借主が公正な市場価格でリース物件を購入できること、またはしなければならないことが明記されています。この価格は、この種のリース物件の通常の市場価格に基づいて貸主と借主の間で決定します。

通知

大多数の契約書には、リース物件のリース終了時に選択するオプション（更新、返却、購入）を、借主が貸主に前もって明白に通知することが条件付けられています。一般的に、貸主に事前の通知がない場合、借主は追加の賃貸料を支払わなければならないかもしれません。

Asset Managerには、資産のリース期間が満了間近であることをユーザに知らせるアラーム機能があります。

借主は、契約満了日、返却の通知日、買い取りの通知日、更新の通知日などの、特定の日付に近づくとトリガされるアラームを複数のレベルで作成できます。

中途解約

リース期間中に、資産を他の業者に転売したり、資産の紛失、盗難、破損などの事故が発生したりすることがあります。この場合は、貸主に通知すると直ちに賃貸料の金額に修正が加えられます（損失価額の定義を参照してください）。

契約によっては、満了時より前にリース物件を返却できる場合もあります。これは、借主が貸主に通知した場合、または契約で定義されている日付に実行されます。この場合、借主は中途解約手数料という違約金を支払う必要があります。

これらのオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベーステーブル

契約（amContract）

サービスレベル管理（SLM）

サービスレベル管理（SLM）の目的は、IT部署でサービスのカタログを管理し、これらのサービスのパフォーマンスレベルを定義することです。

配賦

配賦は、契約上資産の賃貸料の計算方法の1つです。

配賦を使用する場合、各資産の賃貸料用に同じ固定額を定義する必要があります。

反意語

▶ 比例配分 [P. 183]

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

資産の賃貸料 (amAssetRent)

契約賃貸料 (amCntrRent)

利子

利子は、ローンの返済時に元金と手数料と共に返済額の一部を成します。

これらのオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベーステーブル

ローン (amLoan)

リース

リースには、長期レンタルや分割払い購入契約との類似点および相違点があります。

いずれの場合でも賃貸料を支払いますが、以下の相違点があります。

- リース：リース契約では賃貸料支払いと違約金を計算するために、支払期日を指定します。リース契約には色々な種類がありますが、いずれの場合でも企業が備品を所有することによって生じるコストを回避できます。リースは特に、新型製品発売のサイクルが短いIT関係の資産を管理する際に、解決策として使用されます。
- 長期レンタル：契約終了時に物件の買取オプションがないリース契約を指します。後述の分割払い購入契約にはこの買取オプションがあります。
- 分割払い購入：分割払いで物件を購入する契約で、借主は支払い中に物件を使用できます。

サービスレベル目標明細

それぞれのサービスレベル目標明細契約は、サービスレベル目標明細から構成されます。契約の期間区分を構成する期間ごとに、1つのサービスレベル目標明細があります。

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

サービスレベル目標明細 (amSloLine)

賃貸料

賃貸料は、定期的な支払額と支払回数（周期）によって決まります。

複数の賃貸料が存在する場合、主賃貸料と副賃貸料を区別します。

Asset Managerでは、契約に関する賃貸料の総額、連絡先に関連する資産の賃貸料、および初回賃貸料を計算できます。

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

資産の賃貸料 (amAssetRent)

契約賃貸料 (amCntrRent)

初回賃貸料

初回賃貸料は、資産を受領して検収した日からリース期間の第1回目の支払日までの賃貸料を対象とします。

1つの契約が複数の賃貸料（保険、レンタル、メンテナンスなど）に関連する場合もありますが、初回賃貸料は主賃貸料用에만存在します。

初回賃貸料の支払額は資産の検収日から計算します。

主賃貸料

複数の賃貸料が存在する場合、主賃貸料と副賃貸料を区別します。

主賃貸料の概念は、リースの場合に重要です。リース契約に特有のものとして初回賃貸料の支払がありますが、初回賃貸料が割り当てられるのは主賃貸物件だけです。

ある特定の支払がある契約の主賃貸料の支払である場合、この支払はこの契約に関連する全資産の主賃貸料の支払になります。

資産1件につき、主賃貸料の支払は1件だけです。

一方、契約単位では主賃貸料の支払が複数存在する場合があります。

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

資産の賃貸料 (amAssetRent)

契約賃貸料 (amCntrRent)

賃貸額

賃貸料の額は、賃貸料の値に料率をかけて計算します。

賃貸料の額は、資産賃貸料と契約賃貸料で使用されます。

次の用語と混同しないでください。

▶ 賃貸料の値 [P. 185]

通知

大多数の契約書には、リース物件のリース終了時に選択するオプション（更新、返却、購入）を、借主が貸主に前もって明白に通知することが条件付けられています。

一般的に、貸主に事前の通知がない場合、借主は追加の賃貸料を支払わなければなりません。

Asset Managerには、資産のリース期間が満了間近であることをユーザに知らせるアラーム機能があります。

借主は、契約満了日、返却の通知日、買い取りの通知日、更新の通知日などの、特定の日付に近づくトリガされるアラームを複数のレベルで作成できます。

これらのオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベーステーブル

契約 (amContract)

支払回数

賃貸料は、定期的な支払額と支払回数（周期）によって決まります。

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

資産の賃貸料 (amAssetRent)

契約賃貸料 (amCntrRent)

貸付業者

リース物件の貸主は、設備資金を調達する目的で、借主の金銭債務に対する権利を専門業者に譲渡することができます。

この業者は、通常貸付業者と呼ばれる金融業者です。

一般に借主は貸付業者にリース料を支払い、貸主は自分の契約義務を遂行します。

これらのオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベーステーブル

契約 (amContract)

比例配分

比例配分は、契約上資産の賃貸料の計算方法の1つです。

比例配分モードを使用すると、**比例配分値**と呼ばれる参考値（購入価格、賃貸料、市場価格など）に比例配分して資産賃貸料を計算できます。

例

比例配分による資産の賃貸料の計算式は次のとおりです。

$$\text{資産賃貸料} = \text{契約賃貸料} \times \frac{\text{資産1件の比例配分値}}{\sum \text{契約上の資産の比例配分値}}$$

反意語

▶ 配賦 [P. 179]

このオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベースのテーブル

資産の賃貸料 (amAssetRent)

契約賃貸料 (amCntrRent)

アプリケーションサービス

アプリケーションサービスとは、アプリケーションをローカルでインストールせずに企業内で使用できるようにするサービスです。

アプリケーションは、アプリケーションサービスプロバイダ（**ASP**、**Application Service Provider**）と呼ばれる外部の会社にホストされます。

ASPは、ソフトウェア会社とユーザ間の仲介役をとして、定期利用契約を結んでユーザにアプリケーション利用のサービスを提供します。

オンラインでアプリケーションを使用することにより、アプリケーションのメンテナンスとアップグレードを自動化できます。

ユーザは、インターネットまたはイントラネット経由でアプリケーションにアクセスします。

これらのオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベーステーブル

契約（amContract）

ローン返済明細

ローン返済明細は、ローン返済の支払額と期日を定義します。

返済期日は、以下の要素から構成されています。

- 日付
- 元金
- 利率
- 手数料額

これらのオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベーステーブル

ローン返済明細（amLoanPayment）

損失額

借主は、資産を紛失または破損した場合に、通常、補償金を支払う義務があります。

補償金の額は、紛失または破損した資産の価値によって決まります。一般に、この損失価額は契約上で定義されます。

Asset Managerでは、リース期間の開始日から経過した時間と、破損または紛失した資産のタイプに基づき、さまざまな方法で損失価額を計算できます。

これらのオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベーステーブル

指定された契約に適用可能な損失額 (amLossValLine)

計算規則に対して定義される損失率 (amLossValRate)

損失額の計算規則 (amLossValRule)

比例配分値

賃貸料を資産に配分するために、特定の基準値を使うことがあります。

この基準値を、「**比例配分値**」と呼びます。

比例配分値は、契約賃貸料のレベルで選択します。

比例配分方法では、資産の詳細画面内の値（**購入価格**、**賃貸料**、**市場価格**など）を使います。

契約の【**賃貸料**】と比例配分値が既に指定されている場合に、資産の【**賃貸料**】（mPayments）を計算する式は次のとおりです。

$$\text{資産賃貸料} = \text{契約賃貸料} \times \frac{\text{資産1件の比例配分値}}{\sum \text{契約上の資産の比例配分値}}$$

これらのオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベーステーブル

契約賃貸料 (amCntrRent)

賃貸料の値

賃貸料の値は、賃貸料の額を計算するための基準値です。

賃貸料の値は、資産賃貸料と契約賃貸料で使用されます。

次の用語と混同しないでください。

▶ 賃貸額 [P. 182]

買い取り額

大多数の契約書には、借主が公正な市場価格でリース物件を購入できること、またはしなければならないことが明記されています。

この価格は、この種のリース物件の通常の市場価格に基づいて貸主と借主の間で決定します。

同義語

▶ 期間満了 [P. 178]

これらのオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベーステーブル

資産 (amAsset)

市場価格

資産の市場価格は、資産が資産のテーブル内に追加された時の市場価格を指します。

新品の場合は購入価格、中古の場合は買い取り価格などになります。

これらのオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベーステーブル

資産 (amAsset)

初回金

どの契約の種類にも初回金が存在します。

リース契約の場合、初回金は初回賃貸料に相当します。

一般的な規則として、初回賃貸料の支払額は資産の検収日から計算します。

同義語

▶ 初回賃貸料 [P. 181]

これらのオブジェクトを記述する**Asset Manager**データベーステーブル

資産 (amAsset)

索引

- すべての資産に支払を比例配分して配賦（オプション）, 97
- アプリケーションサービス
 - 定義, 184
- インストール, 19
- インストールするモジュール, 17
- コスト (参考 リース費用)
- サイクル（タブ）, 26
- サービスレベルアグリーメント, 179, 177, 175, 175
- サービスレベル管理, 179
- サービスレベル目標明細, 180
- サービスレベル目標明細契約, 177
- データベース
 - 専門分野データ - インポート
 - 既存のデータベース, 18
 - 新規データベース, 18
 - 準備, 17
- マスターリース (参考 マスターリース)
- ライセンス, 17
- リース, 178
 - データモデル, 24
 - 定義, 180
 - 手順, 25
 - 損失, 111
- リース明細 (参考 リース明細)
- リース終了
 - 定義, 178
 - 中途解約, 179
- リース費用
 - (参考 Asset Manager Automated Process Manager)
- リース資産
 - (参考 契約)
 - トラッキング, 26
 - 初回賃貸料, 96
 - 返却, 119
 - 返却資産, 120
 - 契約, 120
 - 資産を除却する, 120
- 更新, 117
 - 日付, 119
 - 新規賃貸料, 118
 - 結果, 119
 - 賃貸料, 118
 - 資産, 118
- 管理, 55
- 損失額
 - 更新, 115
 - 計算, 113

- 計算規則, 112
- 検収, 95
- 買い取り, 121
- レンタル, 178
- ローン, 85 (参考 ローン) (参考 契約)
 - すべての資産に比例配分する
 - 例, 91
 - 契約レベルで計算する, 93
 - 手順, 87
 - 四捨五入の値, 91
 - 資産に比例配分する, 89
 - ローン返済明細, 83
 - 定義, 178
 - 配賦, 94
 - 外部ソフトウェア, 83
 - 支払, 83
- ローン返済明細, 184
- 比例配分, 183
- 初回金, 186
- 初回賃貸料 (参考 初回賃貸料)
- 利子, 180
- 料率, 176
 - (参考 料率)
- 配賦, 179
- 期間満了 (参考 リース終了)
- 契約
 - (参考 リース)
 - (参考 リース終了)
 - タイプ, 38
 - マスターリース
 - 定義, 177
 - リース, 178
 - レンタル, 178
 - 定義, 176
 - 契約条件, 40
 - 契約との関連付け, 41
 - 標準契約条件, 41
 - 階層構造, 38
- 契約のタイプ, 38
- 前提条件, 17
- 使用前の準備, 17
- 通知
 - 定義, 182, 179
- 一括発注, 176
- 支払回数, 182

- 支払期日, 178
- 中途解約 (参考 中途解約)
- 値
 - 比例配分値, 185
 - 初回支払額, 186
 - 損失額, 111
 - 定義, 184
 - 買い取り額, 186
 - 賃貸料の値, 185
- 専門分野データ, 18, 18
- 損失, 111
- 損失額 (参考 損失額)
- 検収, 95 (参考 検収)
 - 定義, 175
- 買い取り, 121
 - 定義, 179
- 貸付業者, 183 (参考 貸付業者)
- 賃貸料 (参考 賃貸料)
 - すべての資産に比例配分する
 - 例, 76
 - 契約レベルで計算する, 88, 71
 - 手順, 78
 - 四捨五入の値, 76
 - 資産に比例配分する, 73
 - 資産レベルで計算する, 72
 - すべての資産に配賦, 77
 - 計算, 77
- 初回賃貸料
 - 定義, 181
 - 固定値による計算, 101
 - 警告, 97
 - 最小日数および最大日数フィールド, 100
 - 検収日に応じた計算, 99
 - 計算, 99, 96
 - 賃貸料の比率による計算, 100
- 定義, 181
- 金額, 182
- 配賦, 79
- 配賦なし, 78
 - 計算, 78
- 期限, 84
- 主賃貸料, 181, 70
 - 警告, 70
- 計算方法 - 選択, 87, 69

資産に支払を配分または配賦しない（オプション）, 98

購入 (参考 買い取り)

選択した資産に支払を比例配分して配賦（オプション）, 98

A

Asset Manager Application Designer

専門分野データ - インポート

既存のデータベース, 18

新規データベース, 18

S

SLA, 175

SLM, 179

SLO, 177

